

平成 17 年度厚生労働省看護職員確保対策特別事業

産科医療機関等の助産師確保促進事業 報告書

平成 18 年 3 月

社団法人日本看護協会 中央ナースセンター事業部

目 次

はじめに.....	2
I. 事業概要.....	3
II. 5 県の事業実施報告.....	5
1. 5 県の事業報告.....	6
2. 5 県の事業総括.....	41
III. 「潜在助産師・退職助産師の就業意向調査」結果報告.....	45
1. 目次.....	46
2. 調査概要.....	48
3. 「潜在助産師・退職助産師の就業意向調査」結果.....	49
4. 調査結果総括.....	86
5. 自由記述.....	90
6. 統計表.....	93
7. 調査票.....	112

はじめに

平成17年11月24日に公表された厚生労働省の医療安全の確保に向けた保健師助産師看護師法等のあり方に関する検討会では、産科における看護師の業務について、見直し論、反対論、慎重論を併記しているものの、厚生労働省は内診等については助産業務であると解しています。（平成16年9月13日 医政看発 0913002 産婦に対する看護師業務について）

しかし、厚生労働省の調査によると平成15年度に診療所で働く助産師は17.6%（同病院68.7%、助産所6.2%）です。平成16年度人口動態調査によると診療所と病院における出生数がほぼ5対5であることからみても、診療所における助産師確保が重要な課題となっています。一方、助産師の絶対数が不足しているといった問題よりも、病院において看護師として勤務している助産師が相当数存在しているといった助産師の病院への偏在や、助産師として就業したくても働ける環境が整備されていないのではないかと指摘もあります。

今回日本看護協会中央ナースセンターでは、助産師の産科診療所への就業促進を図る目的で、平成17年度厚生労働省看護職員確保対策特別事業として、「産科医療機関等の助産師確保促進事業」を実施しました。この事業は、青森県・東京都・京都府・岡山県・宮崎県の5都府県看護協会の協力を得て「潜在助産師キャリア開発研修」「定年退職助産師の再就業促進研修」「産科診療所等への助産師就業サポート事業」を行いました。また助産師が産科診療所での就業意向があるかどうか、もし働くとしたらどのような労働条件・労働環境を望んでおり、どういった条件を整えば助産師の産科診療所での就労が可能となるかを分析するために、「潜在助産師・退職助産師の就業意向調査」を実施いたしました。

これらの事業の結果を報告書に取りまとめました。今後は安全で安心なお産に向けて本報告書が、産科診療所における助産師確保に向けた全国的な取り組みに活用されることを期待いたします。

I . 事業概要

平成 17 年度厚生労働省看護職員確保対策特別事業 「産科医療機関等の助産師確保促進事業」 事業概要

1. 事業目的

産科診療所における助産師求人難を背景にして、産科診療所では医師が助産師以外の看護師等に助産を行わせていることが、保健師助産師看護師法違反であるとして問題となっている。本会は、母子にとって安心して安全な周産期医療体制を整備する上で、産科診療所等における助産師確保が不可欠であるため、厚生労働省国庫補助金による「産科医療機関等の助産師確保促進事業」を実施、助産師の産科診療所等への就業促進を図る。さらに将来、県ナースセンターが就業斡旋をする上でのモデルとなる事業とする。

2. 事業実施時期

平成 17 年 7 月～平成 18 年 3 月末

3. 事業内容

※青森県、東京都、京都府、岡山県、宮崎県の 5 都府県看護協会が実施する事業

1) 潜在助産師キャリア再開発研修

潜在助産師、転職を考えている助産師に対して 5.5 日程度の研修を実施

2) 定年退職助産師の再就業促進研修

定年退職助産師、退職を間近に控えている助産師に対して 2 日程度の研修を実施

3) 産科診療所等への助産師就業サポート事業

「キャリア開発支援専門員」が、助産師及び産科診療所等に対し、就業調整・コンサルテーションを行い、就業促進と就業後の定着を支援
「助産師確保促進連絡会」を設置し、キャリア開発支援専門員の活動を支援

※中央ナースセンター事業部が実施する事業

4) 潜在助産師・退職助産師の就業意向調査

潜在助産師・退職助産師を把握し、希望する就業条件・就業環境等を明らかにするために、潜在助産師・退職助産師あわせて 1,000 名程度に調査を実施

5) 「産科医療機関等の助産師確保促進事業」報告書の作成

Ⅱ． 5 県の事業実施報告

1. 5 県の事業報告

青森県看護協会

潜在助産師キャリア再開発研修・定年退職助産師の再就業促進研修

潜在助産師キャリア再開発研修

1) 研修目的

助産師資格を持ちながらもその資格と知識を生かせない助産師を対象として、最新の助産に関する情報提供を行い助産師としての再就業への動機付けを図ることを目的とする

2) 定員：20 人 受講者数：12 人(他 現在就業中のため聴講生として受講した者 27 人)
受講率：60%

3) 研修評価・考察

<受講者アンケート>

研修への評価スケール (①とてもそう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④殆どそう思わない

⑤無回答)

(単位：人)

開催日	研 修 内 容	わかりやすかった					実際に役立つ内容だった					回 答 者 数
		①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	
11/7 (月)	母子保健の動向と課題	7	3	1	0	0	3	7	0	0	1	11
	妊産婦のニーズと今求められている助産師の役割	10	1	0	0	0	10	1	0	0	0	11
	最近の産科管理	9	2	0	0	0	11	0	0	0	0	11
11/9 (水)	病院における助産・ケア	10	0	0	0	1	10	0	0	0	1	11
	診療所における助産・ケア	4	4	1	0	2	3	3	3	0	2	11
11/10 (木)	妊・産・じょく婦のケアと指導	3	8	0	0	0	4	7	0	0	0	11
	新生児のケアと指導の実際	4	7	0	0	0	4	7	0	0	0	11
	超音波と分娩監視装置について	7	2	2	0	0	7	3	1	0	0	11
11/12 (土)	母乳育児と親子関係	7	4	0	0	0	7	4	0	0	0	11
11/14 (月)	施設におけるアクティブバース・フリースタイル出産	11	1	0	0	0	11	1	0	0	0	12
11/15 (土)	施設見学 (県病周産期センター)	5	3	0	0	2	5	3	0	0	2	10
11/16 (水)	ディスカッション (まとめと振り返り)	4	4	0	0	1	4	4	0	0	1	9
	施設見学 (各診療所 1 ヲ所)	5	3	0	0	0	6	2	0	0	0	8

診療所での助産師の必要性及び再就業への意向に関するスケール (①とてもそう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④殆どそう思わない ⑤無回答) (単位：人)

開催日	産科診療所での助産師の必要性					産科診療所で働きたいと思うようになった					回答者数
	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	
11/7 (月)	2	4	2	0	3	2	2	2	1	4	11
11/9 (水)	2	1	1	0	7	1	1	1	1	7	11
11/10 (木)	3	3	0	0	5	1	1	1	1	7	11
11/12 (土)	4	2	1	0	4	1	1	1	1	7	11
11/14 (月)	3	3	0	0	6	1	4	1	0	6	12
11/15 (土)	2	4	0	0	4	2	2	1	0	5	10
11/16 (水)	5	2	0	0	2	2	3	0	0	4	9

- ・講義の理解度や有用性については概ね肯定的な回答が得られた。
- ・「最新情報を得ることが出来た。医学の進歩は早いと吃驚した。」「診療所の医師と話をし、助産師として何が出来るか明確になった。」「また助産業務に携わりたいと思った」などの感想が聞かれた。受講者にとっては講義や演習等の理解を深めながら、助産師として改めて自分を見つめなおす良い機会となった。
- ・受講者は助産師としての仕事に魅力を感じており、今後も研修の開催を希望し仲間づくりの場の提供を期待していた。
- ・就業意向については、有効回答者の半数以上が就業したいという気持ちを持ったが、産科診療所への就業には直接結びつかなかった。

考察

- ・診療所への就職に結びつかない要因の一つとして、受講者は就業中の者が9人、未就業の者が3人で、すぐに就職(転職)可能な助産師が少なかったことも影響していると考えられる。また、診療所の医師が助産師の専門性を認識していても、経営方針や労働環境等が助産師の希望する条件と合わない場合は就職が難しい。「特に信頼関係はすぐに培えるものではないので就職には慎重にならざるを得ない」などの意見が受講者から聞かれそれを裏づけている。
- ・研修受講者の平均年齢が45.1歳であったが、若い世代の助産師にも参加を呼びかけるとよかった。
- ・研修企画の段階で助産師としての自信に繋がるようなプログラム(例えば、臨床実習などを取り入れるなど)を検討すべきであったと考える。
- ・今回を機に、県内助産師の質向上を目指し、診療所の助産師、潜在助産師、青森県看護協会助産師職能委員会及び日本助産師会青森県支部とのネットワークづくりを検討し、仲間づくりや情報交換の場や、学習の機会を提供したい。そして看護協会の会員増につながることも目標としたい。

定年退職助産師の再就業促進研修

1) 研修目的

産科診療所における医師との協働について理解を深め、診療所における助産(看護)を展開し、再就業に向けて準備する

2) 定員：50人 受講者数：2人 受講率：4%

3) 研修評価・考察

<受講者アンケート>

研修への評価スケール (①とてもそう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④殆どそう思わない ⑤無回答) (単位：人)

開催日	研 修 内 容	わかりやすかった					実際に役立つ内容だった					回答者数
		①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	
11/9 (水)	病院における助産・ケア	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2	2
	診療所における助産・ケア	0	1	0	0	1	0	1	0	0	1	2
11/12 (土)	母乳育児と親子関係	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
11/14 (月)	施設におけるアクティブバース・リリーススタイル出産	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1

診療所での助産師の必要性及び再就業への意向に関するスケール (①とてもそう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④殆どそう思わない ⑤無回答) (単位：人)

開催日	産科診療所での助産師の必要性					産科診療所で働きたいと思うようになった					回答者数
	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	
11/9 (水)	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2	2
11/12 (土)	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1
11/14 (月)	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1

- ・受講者からは、「助産師業務は命に密着しているので、このような研修はとても良いと思う」「病院でなかなか出来ないケアを産科診療所では実践しているのですばらしいと思う。今日の講義を参考にもっと母乳育児指導に力をいれたい」「地域の助産師や潜在助産師とも話ができてリフレッシュ出来た」などの感想が聞かれた。

考察

- ・退職助産師の参加を期待したが、受講者が2人しかいなかったため、潜在助産師との合同研修会としてもよかったのではないかと考える。
- ・退職助産師の参加者は少なかったが、聴講生として多くの助産師が研修を受講できたことはよかった。
- ・今後はナースセンターとして再就業に向けた研修会の開催を、継続していけたらよいと考える。

産科診療所等への助産師就業サポート事業

1) 事業名

産科診療所等への助産師就業サポート事業

2) キャリア開発支援専門員

人数：1人

役割：助産師の就業サポート（就業促進と就業後の支援）

潜在助産師キャリア再開発研修会・定年退職助産師の再就業促進研修会の企画と評価

3) 助産師確保促進連絡会：

目的：1) 潜在助産師キャリア再開発研修に関すること 2) 定年退職助産師の再就業促進研修会に関すること 3) 産科診療所等への助産師就業サポート事業について 4) その他必要と認めること の実施及び計画について意見を具申する

構成員：10 人（日本産婦人科医会青森県支部長、青森県医師会常任理事、診療所医師、大学助手、青森県行政担当者、日本助産師会青森県支部長、青森県看護協会助産師職能委員長、病院看護師長、助産院所長、キャリア開発支援専門員）

連絡会開催回数：3 回

4) 活動状況

助産師確保促進連絡会

- ・産科診療を取り巻く問題として、病院で働く産婦人科医がいなくなっている現状では、分娩の集約化（ハイリスク妊娠が周産期センターなどに集約されれば、ローリスク妊娠は産科診療所等で取り扱うことができる）をしていかなければ分娩を取り扱うことは難しいのではないかとという意見が医師より聞かれた。
- ・分娩を扱う診療所がない地域があり、診療所が閉鎖したところは産科医療をどうするのかという問題がある。今回のモデル事業終了後も事業強化のために、職場環境の把握や分析を行い、求職者と施設との調整を積極的に行っていく必要がある。また、診療所に勤務している助産師及び潜在助産師を中心に質向上のために継続した研修、仲間づくり、情報交換ができる場を設けるとよいのではないかとという意見が聞かれた。

キャリア再開発支援専門員の就業サポート活動

事例 1) 平成 18 年 2 月から診療所にて常勤採用

46 歳でブランク 18 年の常勤希望の助産師。公立病院に就業し助産師として 6 年間勤務、結婚と同時に退職。その後、乳幼児健診や乳幼児健康相談等、パートで就業。子育てが一段落したため、再就業を希望し潜在助産師キャリア再開発研修会を受講。平成 17 年 10 月頃に診療所から求人があり、キャリア開発支援専門員が施設に紹介した。求職者は研修会受講後、助産師の仕事のすばらしさが再確認できたが、医療の進歩に対する不安も生じ、再就業に足踏みが見られた。そこで、キャリア開発支援専門員が相談に乗りながら診療所と双方に介入し、採用が決定した。

事例 2) 青森市新生児訪問指導員として非常勤採用

45 歳でブランク 10 年の日勤のみ希望の助産師。小学生 2 人の子供あり。助産師学校卒業後、公立病院に助産師として 9 年間勤務。子育てのため、夜勤が出来ず、診療所にパートで看護師として就業。夜勤は出来ないものの助産師としての再就業を希望し、潜在助産師キャリア再開発研修会を受講した。母親教室・育児教室など日勤業務を行えないかキャリア開発支援専門員が診療所へ働きかけ面接までこぎつけたが、月 4 回の当直が条件であったためマッチングに至らず就業には結びつかなかった。しかし、3 月までに再就業したいと求職者の意向があり、青森市新生児訪問指導員を紹介し再就業に結びついた。

事例 3) 平成 18 年 4 月より診療所にて常勤採用

48 歳でブランク 20 年の常勤希望の助産師。公立病院に助産師として 5 年勤務。看護教員として 6 年勤務。本人の第一希望が教職員だったので平成 18 年 4 月に看護学科開設予定の短期大学に連絡をとったが時期的にすでに採用が決定していた。3 月までに再就業したいとの意向があったため、潜在助産師キャリア再開発研修会を受講後、2 月中は技術を磨くために助産院で研修に励む。その後、診療所での採用が決定した。

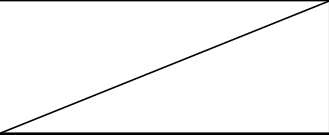
事例 4) 平成 18 年 3 月より病院にて非常勤採用

28歳で経験2年、ブランク1年の日勤のみ希望の助産師。日勤のみ可能な病院があり、採用が決定した。

5) 就業結果 (平成18年3月31日時点)

就業者数 6人 (産科診療所4、病院1、企業1)

潜在助産師キャリア再開発研修会プログラム

11/7 (月)	9:30～11:30	12:30～14:30	14:40～16:30
	母子保健の動向と課題 ～青森県の現状～	妊産婦のニーズと今求められている助産師の役割	最近の産科管理
11/9 (水)	10:00～14:00		14:40～16:00
	病院における助産・ケア ～質の向上とは・看護者のエンパワーメント～		診療所における助産・ケア ～現状と今後の展望～
11/10 (木)	9:30～11:30	12:30～14:30	14:40～16:30
	妊・産・じょく婦 のケアと指導	新生児のケアと指導の実際	超音波と分娩監視装置 について ～その実際と判読まで～
11/12 (土)	10:00～16:00		
	母乳育児と親子関係 ～ユニセフ6ヶ条の育児支援～		
11/14 (月)	10:00～16:00		
	施設におけるアクティブバース・フリースタイル出産 (演習含む)		
11/15 (火)		13:30～16:00	
		施設見学(潜在助産師対象) 青森県立中央病院周産期センター	
11/16 (水)	10:00～12:00	13:00～16:00	
	ディスカッション	施設見学(希望者)	

定年退職助産師再就業促進研修会プログラム

11/9 (水)	10:00～14:00		14:40～16:00
	病院における助産・ケア ～質の向上とは・看護者のエンパワーメント～		診療所における助産・ケア ～現状と今後の展望～
11/12 (土)	10:00～16:00		
	母乳育児と親子関係 ～ユニセフ6ヶ条の育児支援～		
11/14 (月)	10:00～16:00		
	施設におけるアクティブバース・フリースタイル出産 (演習含む)		
11/16 (水)	10:00～12:00	13:00～16:00	
	ディスカッション	施設見学(希望者)	

事業総括

1. 現状分析

潜在助産師・定年助産師の実態

- ・30代40代の働き盛りの助産師が、産科病棟閉鎖に伴い他病棟で看護師として勤務している。病院を退職して診療所に再就業を希望する助産師は少ない。
- ・診療所での就業者が少なく、就業場所に偏りがある。
- ・助産師のいない診療所などでは、看護師による内診が行われている実態がある。
- ・定年退職後に再就業する助産師のほとんどは、常勤を希望していない。週何日か働ければよいと考えている。
- ・助産師が診療所に就業したいと思うには、助産師が主体的に行えるフリースタイル分娩や母乳育児支援などを取り入れ魅力ある診療所にしていく必要がある。
- ・産科診療所では出生数の減少などにより経営が厳しい状況にあるが、もっと労働条件の改善を図る必要がある。

助産師が就業困難と考えられる要因

- ・潜在助産師には子育て中のため夜勤のできない者が多い。
- ・産科診療所でパートを希望する助産師には残業ができない人もいる。
- ・助産師としての業務内容や給与体系などがはっきりしていない。
- ・助産師と看護師の業務範囲が明確でないため、本来の助産師業務以外の仕事も多くしなければならない。
- ・当直の他に分娩時オンコール体制があるなど、産科診療所は24時間体制であるため助産師の負担が大きい。
- ・医療訴訟が多く、ブランクのある人は技術的な不安から再就業をためらう可能性がある。
- ・産科診療所に勤務している助産師の数が少ないため、研修会等への参加が難しく、スキルアップを行う機会が少ない。

2. 事業成果

助産師確保事業において直接、間接にもたらされた望ましい変化

- ・診療所からの助産師の求人が増加した。
- ・研修会における診療所見学の依頼や、県内産婦人科診療所に助産師数把握のための電話による聞き取り調査を実施した結果、助産師確保事業や青森県看護協会のPRができた。
- ・受講生は研修会を通じて助産師としての仕事のすばらしさを再認識できた。

3. 課題

就業確保促進のための県協会ならびにナースセンターの方策

- ・診療所に勤務する助産師、潜在助産師等のネットワークづくりが必要である。
- ・診療所に勤務している看護職員の看護協会入会率が低いので加入促進を図る。
- ・再就業の為に就業相談だけでなく、今後は業務に従事している助産師の離職防止に重点的に取り組む必要がある。
- ・再就業を望む助産師が、実技演習できるような病院を各地域で確保する必要がある。
- ・助産師のいない産科診療所で、助産師を求人していない施設があるため、助産師のいない産科診療所に、助産師を採用することによるメリットやナースセンターの活動をもっとPRしていかなければならない。
- ・母親教室や母乳指導などの指導を担当してもらうなど、セカンドキャリアの人材を活かせるような雇用の仕方を診療所にもっとPRしていかなければならない。

来年度以降の事業継続の意志

- ・学習会を兼ねた助産師の交流会を継続して行いたい。
- ・交流会等を通じて、診療所の特徴や魅力をPRすることにより、地域の情報を得やすくする。

4. 行政や協会事業への要望や提言

- ・助産師が働く場所として、病院・診療所・助産院があることなど多様な働き方について学生の時にもっと教育する必要がある。
- ・分娩件数及び妊産婦入院数に対して助産師を何人配置するかなど、診療報酬への加算などの検討が必要である。
- ・青森県内では産科病棟を閉鎖した公立病院から、期限付きで地域の診療所に助産師を派遣している。公的病院などから産科診療所への助産師の出向や派遣制度など、更にすすめていく必要がある。
- ・産科病棟が閉鎖した公立病院で、助産師外来を開設した病院がある。しかし、連携病院が限定されており利用者側にとっては不便である。どこの病院で分娩しても助産師外来が利用できるようにしてほしい。産科医が集約された病院と、産科が閉鎖された病院の助産師の活用をもっと考えてほしい。
- ・平成18年度青森県では出産環境整備特別対策事業として産科医の集約と調査を行う。県民や医療従事者等の意見を調査し産科医療のあり方についてビジョンを作り啓発する。現状として産科医の増加が見込めないのであれば、産科医の集約をせざるをえないが、そうすると利用者にとっては地元で出産できないという不安が残る。その改善策として助産師の活用を考えていきたい。今回、西北中央病院と産科病棟を閉鎖した鰺ヶ沢町立病院をモデル地区として、産科医療としてのプロトコールを作成していく。モデル事業として、西北中央病院の産科医師が、鰺ヶ沢町立中央病院に出向きその助産師を活用し妊婦健診を行う計画がある。

東京都看護協会

潜在助産師キャリア再開発研修・定年退職助産師の再就業促進研修

潜在助産師キャリア再開発研修

1) 研修目的

少産時代の妊産婦のニーズを理解すると共に、産科医療機関等における助産の実際と必要な知識・技術を再習得し、産科医療機関等への就業を促進する

2) 定員：50 人 受講者数：11 人 受講率：22%

3) 研修評価・考察

<受講者アンケート>

研修への評価スケール (①とてもそう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④殆どそう思わない

⑤無回答

(単位：人)

開催日	研 修 内 容	わかりやすかった					実際に役立つ内容だった					回答者数
		①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	
10/14 (金)	最近の母子保健の動向と助産師への期待	3	4	0	0	0	3	3	0	0	1	7
	母乳育児と親子関係	5	2	0	0	0	5	2	0	0	0	7
	最近の母子ケア	5	2	0	0	0	5	1	0	0	1	7
10/18 (火)	妊婦検診と保健指導	6	0	0	0	0	4	2	0	0	0	6
	新生児の観察とケア	7	0	0	0	0	7	0	0	0	0	7
10/19 (水)	分娩介助の実際	7	0	0	0	0	7	0	0	0	0	7
	フリースタイル分娩	7	0	0	0	0	7	0	0	0	0	7
	分娩室見学	7	0	0	0	0	7	0	0	0	0	7
10/20 (木)	助産記録のあり方と実際	5	0	0	0	0	4	1	0	0	0	5
	最近の産科管理	4	1	0	0	0	4	1	0	0	0	5
10/22 (土)	産科医療訴訟の現状と助産師の法的責任	3	1	0	0	0	3	1	0	0	0	4
	求職活動の実際	2	2	0	0	0	2	2	0	0	0	4
	先輩助産師との交流会、ディスカッション	4	0	0	0	1	4	1	0	0	0	5

診療所での助産師の必要性及び再就業への意向に関するスケール (①とてもそう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④殆どそう思わない ⑤無回答) (単位：人)

産科診療所での助産師の必要性					産科診療所で働きたいと思うようになった					回答者数
①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	
4	3	0	0	0	4	2	1	0	0	7

・研修会は講義・シンポジウム・実習・施設見学・交流会などを盛り込み、助産師の就業に向けた実践的な内容であった。

- ・講義は少人数で、参加型であった。また、受講者同士が研修を通して互いの思いを語り合うことで不安が軽減し、就業に向けての意思が高まるなどの効果が得られた。
- ・臨床で活躍している講師と直接関わることは、通信教育やテキスト教材からの学習では修得しにくい現実感や臨場感が伴う。講義を通じて受講者は臨床経験を思い出し、就業に向けての動機付けにもつながった。
- ・参加者の受講動機は「経済的に就業の必要はないが興味があった」「結婚退職後半年であるが研修を知り、勉強したいと思った」「助産師会の研修は研修費が高くすぐに定員になり受講が難しい。無料だったので参加を決めた」など様々であったが、「これからやれるのかどうか不安だがもう一度助産師として働いてみたい」と就業意欲を見せる者がいた。
- ・助産師経験が浅く 20 年間長期未就業であった者が、助産師研修を通して助産師としての就業を目標にしたいという意見が聞かれた。

考察

- ・受講者の募集から研修開催まで約 3 週間しかなく、受講生が少なかった。研修会の広報期間が短かったため、最低 2 ～ 3 ヶ月の広報期間が必要であると考ええる。また、助産所や保健相談所、助産師会登録者等への広報を行い、ホームページも開設したが十分な参加者確保につながらなかった。インターネットが使用できる環境がない、活用が困難な者のために、個人情報保護法を考慮し、希望する伝達手段（電子メール、郵便、ファックス）で研修案内を行う必要がある。また、家庭の事情がある者やパートタイムで仕事をしている者、育児中の者などは、平日に連日開催される研修への参加は難しいため、受講しやすい日程を配慮する必要がある。
- ・受講生はそれぞれが臨床から離れていた期間や経験年数が違うため、各々が希望する講義内容が変わってくる。講義内容をどのような対象に向けて設定するかを明確にする必要があり、そのためには具体的にどのレベルまでの研修を実施するのか目的やねらいを明確に表記した助産師研修要綱等の作成が必要である。
- ・即戦力を求められる診療所での就業に向けて、診療所や助産所での研修、施設見学など技術再獲得に向けて個別の要望に応えた実習プログラムなども検討する必要がある。また、長期間分娩管理から離れた者のために長期間の研修が受けられるよう、段階的な助産技術の研修システムの構築が必要である。また、就業中の助産師に対しても、必要な研修や助産実習を行うことが望まれる。

定年退職助産師の再就業促進研修

1) 研修目的

産科診療所等における医師との協働、助産師の自立について理解を深め、産科診療所等への就業を促進する

2) 定員：50 人 受講者数：8 人 受講率：16%

3) 研修評価・考察

＜受講者アンケート＞

研修への評価スケール (①とてもそう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④殆どそう思わない ⑤無回答) (単位：人)

開催日	研 修 内 容	わかりやすかった					実際に役立つ内容だった					回答者数
		①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	
10/22 (土)	産科医療訴訟の現状と助産師の法的責任	6	0	0	0	0	5	1	0	0	0	6
	求職活動の実際	5	0	0	0	0	3	2	0	0	0	5
	先輩助産師との交流会、ディスカッション	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3

診療所での助産師の必要性及び再就業への意向に関するスケール (①とてもそう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④殆どそう思わない ⑤無回答) 単位：人

産科診療所での助産師の必要性					産科診療所で働きたいと思うようになった					回答者数
①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	
3	1	0	0	2	2	1	0	0	3	6

- ・「パネリストが、同年代あるいはそれ以上の年齢であっても生き生きと活躍している姿に自分も頑張れると勇気がわいてきた。」「見学した病院の助産師が定年後に就業し、生き生きと活躍している姿を見て、自分も同じような職場があれば是非就業したい、やりがいや生きがいとなるような仕事をしたい。」という感想が聞かれた。同年代の助産師が生き生きと活躍している姿を見ることで受講者が再就業への意欲が高まったことは評価できる。

考察

- ・診療所では助産師としての即戦力が求められることが多いため、産科診療所への助産師就業を促進するためには、潜在助産師研修と同様に研修が必要である。
- ・様々な経験を持つ助産師に対して必要な研修を選択して受講できるようプログラムの準備が必要である。
- ・「次年度の研修があればぜひ参加したい」との要望が大きいことから、セカンドキャリア向けのディスカッション・交流会など開催も検討したい。

産科診療所等への助産師就業サポート事業

1) 事業名

産科診療所等への助産師就業サポート事業

2) キャリア開発支援専門員：

人数：1人

役割：事業や研修の企画・実施

検討会開催のコーディネート

産科診療所等への啓発活動・就業調整・コンサルテーション

潜在助産師への就業コーディネート

3) 助産師確保促進連絡会

目的：研修、産科診療所等への助産師就業サポート事業を実施し、産科医療機関等への助産師就業を図る

構成員：11 人（東京都医師会理事、日本助産師会南関東地区理事、助産師学校教務主任、病院看護師長、東京都看護協会副会長、東京都行政担当者、東京都ナースプラザ所長、東京都ナースバンク係長、東京都看護協会専務理事、東京都看護協会研修係長、キャリア開発支援専門員）

連絡会開催回数：6 回

4) 活動状況

助産師確保促進連絡会

- ・研修方法や研修内容について検討した。
- ・産科をやめた理由は、365 日 24 時間の労働や人件費がかかり経済的に成り立たないことがあげられる。助産師の募集をしてもこないため開業医はあきらめの状態である。非常勤やアルバイト、夜勤専従など多様な働き方を組み合わせることは、責任の所在が不明となり事故になりやすい。新卒でもベテランの助産師でも就職してもらえればよいが、技術だけではなくまじめできちんとやってくれる人柄が重要である。診療所の良いところは、家族的に関われることであり、プライドばかりが高い助産師では歩調があわない。医師と助産師とのよい関係が保てることが重要である。との意見が医師から聞かれた。
- ・ナースセンターで使用している求人票や求職票が使用しにくいと、「助産師向け」「産科診療所向け」の求人票ならびに求職票が必要であるという意見が聞かれた。
- ・分娩数減少を背景に人件費削減のために助産師雇用が積極的にすすめられないといった実態や分娩が多い診療所では慢性的な助産師不足が問題であるなどの産科診療所の実態が報告された。

キャリア再開発支援専門員の就業サポート活動

- ・助産師確保のために、キャリア開発支援専門員が中心となって産科診療所・助産師専用の求人登録票・求職登録票を独自に作成した。（参考資料 1）
- ・研修終了後に助産師確保専用の求人・求職登録票の作成と求人の情報収集を開始したため、受講者宛への求職登録票の送付が遅れ求職登録が 2 件にとどまった。
- ・助産師の活躍についてのインタビューを行い、産科医師、助産師、一般市民に対してホームページで情報を発信した。
- ・診療所訪問を実施し、助産師が産科診療所で勤務することの利点について説明した。また産科診療所医師と地域助産師をつなぐネットワークづくりのための事業案内や求人登録などをすすめた。

考察

- ・求職登録を増やすためには、研修終了後の就業意欲の高いうちに求職登録をすすめ、就業先を紹介することが重要である。
- ・研修会で見学実習を実施した施設やシンポジウムへの参加施設で採用が決定したことから、診療所訪問や診療所の経営理念を紹介する機会が診療所を知る上での重要な情報となり、助産師就業につながったと考えられる。
- ・看護協会・日本産婦人科医会・東京都医師会・日本助産師会と連携し今後の周産期医療を支え協働する文化を築くことが望まれる。今後も積極的な協力体制作りをすすめる必要がある。
- ・助産師が確保されることにより安全で快適なお産への期待が高まる。妊娠中からきめ細やかな支援や母乳育児支援、子育て支援を充実させるためには分娩を取りやめた診療所での助産師の活用や地域助産師の活用について検討が必要である。
- ・就業相談の中で、「助産師としての技能を身につけるためにはどのような就業先が良いのか、将来も助産師として活動するために今できることは何か」といった相談が多く、就業後も研修を受講することが技能獲得の重要な機会となる。そのため、研修が受けられるような体制

づくりが必要である。

- ・産科を標榜していても分娩は扱わないなど、実際に分娩を扱っている診療所を把握しきれない状況がある。診療所からの求人募集を待つだけでなく、分娩を扱っている診療所を把握し、訪問等により診療所への事業案内を行うなど積極的な関わりが必要である。

5) 就業結果 (平成 18 年 3 月 31 日時点)

就業者数 2 人 (産科診療所 1、病院 1)

紹介中 3 人 (産科診療所 1、ほか未定)

潜在助産師キャリア再開発研修会プログラム

10/14 (金)	9:30	9:45～10:45	11:00～12:30	13:30～16:30	
	挨拶	最近の母子保健の 動向 助産師への 期待	母乳育児と親子 関係	最近の母子ケア	
10/15 (土)				13:00～16:00	
				シンポジウム 診療所と助産師が手 をつなごう ～よいお産をめざして～	
10/18 (火)	10:00～12:00			13:30～16:00	
	妊婦健診と保健指導			新生児の観察とケア 助産師が行う出生時の蘇生	
10/19 (水)	10:00～12:00			13:30～16:00	
	分娩介助の実際			フリースタイル分娩	
10/20 (木)	9:30～11:00		11:00～11:30	13:00～14:30	14:45～16:15
	産科診療所見学(1回目) 胎児超音波の実際 分娩 監視装置の装着と判読		質疑応答	助産記録の あり方と実際	最近の産科管理
10/22 (土)	9:30～11:00		11:15～12:15	13:30～15:00	
	産科医療訴訟の現状と 助産師の法的責任		求職活動の実際	先輩助産師との 交流会 (ディス カッション)	
11/9 (火)	9:30～11:00		11:00～11:30		
	産科診療所見学 (2回目) 胎児超音波の実際 分娩 監視装置の装着と判読		質疑応答		

定年退職助産師再就業促進研修会プログラム

10/15 (土)			13：00～16：00	
			シンポジウム 診療所と助産師が手 をつなごう ～よいお産をめざして～	
10月中	産科診療所見学			
10/22 (土)	9：30～11：00	11：15～12：15	13：30～15：00	15：15～16：15
	産科医療訴訟の現状と 助産師の法的責任	求職活動の実際	診療所における 医師との協働	産科診療所医師と 助産師とのディス カッション

(参考資料1)

求人票

求人登録票【施設紹介】（助産師雇用の意向・ネットワーク参加意向含む）

()に該当するものにチェックしてください。__は記入欄です。

分娩・帝王切開手術に関して	()分娩を扱っている 月平均____件 ()分娩は扱っていない ()帝王切開手術を扱っている 月平均____件 ()帝王切開手術は扱っていない
分娩・帝王切開手術等に関して今後の貴院の方針	()積極的に数を拡大する ()積極的に現状を維持する ()消極的に現状を維持する ()積極的に数を縮小する(分娩・帝王切開の削減、扱いをやめる) 理由について、よろしければご記入ください。 理由:
助産師の雇用	()雇用を希望する。 ()雇用を希望しない。理由:
雇用形態	・常勤(正職員)・非常勤または常勤(嘱託) ・臨時雇用 ・相談に応じる
募集人数	____人
採用に際して重視する資質・期待することについて、□をチェックしてください。 その他希望があれば記載してください。	
助産師能力 知識・技術・感性	<input type="checkbox"/> 社会が期待する妊産婦管理を医師と提携して進めていく努力と豊かな人間性を持っている。 <input type="checkbox"/> キャリアアップを目指した研修への積極的な参加を心がけている。 <input type="checkbox"/> 医師への看護に関する情報提供ができる。 <input type="checkbox"/> 人間関係調節能力が豊かである。
助産師としての基本姿勢	<input type="checkbox"/> 助産師としての自覚と責任ある行動が取れる。 <input type="checkbox"/> 診療所の理解と妊産婦・家族との良好な人間関係の構築に努力できる。 <input type="checkbox"/> 看護師・検査技師・薬剤師・調理師など他の職種との良好な人間関係を築く努力ができる。 <input type="checkbox"/> 骨身を惜しまず地域の妊産婦と円満に関わる積極的な姿勢を持っている。 <input type="checkbox"/> 院長の診療方針の理解とサポートに努力できる。 <input type="checkbox"/> 診療所経営方針への理解とサポートに努力できる。 <input type="checkbox"/> リスクマネジメント能力を発揮できる。
その他希望	

求職票

求職番号

太枠内の項目に記入してください。

(※)は記入必須項目です。

年数はすべて西暦で記入してください。

()に該当するものにチェックをつけてください。

()の中に選択肢があるものは1つ選択し、マルをつけてください。

_____は記入欄です。

受付区分

受付年月日 年 月 日

氏名 (※)	姓フリガナ 姓 名フリガナ 名
生年月日	年 月 日
住所 (※)	〒
電話番号 (※)	<p>自宅もしくは携帯のいずれか1つは必須となります。</p> <p>自宅 - - () 日中連絡可能</p> <p>携帯 - - () 日中連絡可能</p>
メールアドレス	

就業状況 (※)	1. 未就業(看護職) 2. 就業中(看護職) 3. 学生(免許未取得) 4. 学生(看護職)
希望時期 (※)	年 月 から就職を希望する

取得免許 (※)	保健師 () 免許番号 取得年月日 年 月 日 助産師 () 免許番号 取得年月日 年 月 日 看護師 () 免許番号 取得年月日 年 月 日 准看護師 () 免許番号 取得年月日 年 月 日 准看護師認定都道府県
資格の有無 (※)	() 妊産婦・新生児訪問指導員 () 乳房管理(桶谷・SMC)他 () ラクテーションコンサルティング () 思春期保健相談員 () 不妊カウンセラー () 体外受精コーディネーター () 鍼灸・マッサージ師 () 養護教諭 () 自動車運転免許 () その他資格() その他資格の内容 認定看護師 () 資格名 取得年月日 年 月 日 専門看護師 () 資格名 取得年月日 年 月 日
看護専門学歴	() 大学院 () 大学 () 短期大学(専攻科含む) () 助産師学校 () 保健師学校 () その他

看護経験職歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>経験年数</th> <th>離職年月</th> <th>就業中の方は現在の年月を記入してください。</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健師 年 月</td> <td>年 月</td> <td></td> </tr> <tr> <td>助産師 年 月</td> <td>年 月</td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師 年 月</td> <td>年 月</td> <td></td> </tr> <tr> <td>准看護師 年 月</td> <td>年 月</td> <td></td> </tr> <tr> <td>うち主任経験 年 月</td> <td>年 月</td> <td></td> </tr> <tr> <td>うち師長経験 年 月</td> <td>年 月</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>施設種別 業務経験のある方は選択してください。</p> <p>() 病院 () 診療所 () 助産院 () その他</p> <p>産科経験業務内容 業務経験のある方は選択してください。</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>() 産科病棟看護</td> <td>() 産科外来看護</td> <td>() 助産師外来</td> </tr> <tr> <td>() 分娩管理(促進剤・ME監視)</td> <td>() 分娩助産</td> <td>() 母乳外来</td> </tr> <tr> <td>() 麻酔による無痛分娩助産</td> <td>() 帝王切開手術医師の助産</td> <td>() 婦人科手術医師の助産</td> </tr> <tr> <td>() 母親学級運営</td> <td>() 両親学級運営</td> <td>() その他相談・指導</td> </tr> <tr> <td>() 看護管理</td> <td>() 正常新生児看護</td> <td>() 母子同室指導</td> </tr> <tr> <td>() 妊産婦・新生児訪問看護</td> <td>() フリースタイル出産</td> <td>() ラマーズ法</td> </tr> <tr> <td>() 水中出産</td> <td>() アクティブバース</td> <td>() 骨盤ケア</td> </tr> <tr> <td>() マタニティービクス</td> <td>() マンスリービクス</td> <td>() マタニティスイミング</td> </tr> <tr> <td>() ボールエクササイズ</td> <td>() マタニティヨガ</td> <td>() イメージャリー</td> </tr> <tr> <td>() ベビーマッサージ</td> <td>() ベビーサイン</td> <td>() ベビーヨガ</td> </tr> <tr> <td>() アロマトラピー</td> <td>() リフレクソロジー</td> <td>() 鍼灸・マッサージ</td> </tr> <tr> <td>() ホメオパシー</td> <td>() 体外受精コーディネーター</td> <td>() NICU</td> </tr> <tr> <td>() その他</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	経験年数	離職年月	就業中の方は現在の年月を記入してください。	保健師 年 月	年 月		助産師 年 月	年 月		看護師 年 月	年 月		准看護師 年 月	年 月		うち主任経験 年 月	年 月		うち師長経験 年 月	年 月		() 産科病棟看護	() 産科外来看護	() 助産師外来	() 分娩管理(促進剤・ME監視)	() 分娩助産	() 母乳外来	() 麻酔による無痛分娩助産	() 帝王切開手術医師の助産	() 婦人科手術医師の助産	() 母親学級運営	() 両親学級運営	() その他相談・指導	() 看護管理	() 正常新生児看護	() 母子同室指導	() 妊産婦・新生児訪問看護	() フリースタイル出産	() ラマーズ法	() 水中出産	() アクティブバース	() 骨盤ケア	() マタニティービクス	() マンスリービクス	() マタニティスイミング	() ボールエクササイズ	() マタニティヨガ	() イメージャリー	() ベビーマッサージ	() ベビーサイン	() ベビーヨガ	() アロマトラピー	() リフレクソロジー	() 鍼灸・マッサージ	() ホメオパシー	() 体外受精コーディネーター	() NICU	() その他		
経験年数	離職年月	就業中の方は現在の年月を記入してください。																																																											
保健師 年 月	年 月																																																												
助産師 年 月	年 月																																																												
看護師 年 月	年 月																																																												
准看護師 年 月	年 月																																																												
うち主任経験 年 月	年 月																																																												
うち師長経験 年 月	年 月																																																												
() 産科病棟看護	() 産科外来看護	() 助産師外来																																																											
() 分娩管理(促進剤・ME監視)	() 分娩助産	() 母乳外来																																																											
() 麻酔による無痛分娩助産	() 帝王切開手術医師の助産	() 婦人科手術医師の助産																																																											
() 母親学級運営	() 両親学級運営	() その他相談・指導																																																											
() 看護管理	() 正常新生児看護	() 母子同室指導																																																											
() 妊産婦・新生児訪問看護	() フリースタイル出産	() ラマーズ法																																																											
() 水中出産	() アクティブバース	() 骨盤ケア																																																											
() マタニティービクス	() マンスリービクス	() マタニティスイミング																																																											
() ボールエクササイズ	() マタニティヨガ	() イメージャリー																																																											
() ベビーマッサージ	() ベビーサイン	() ベビーヨガ																																																											
() アロマトラピー	() リフレクソロジー	() 鍼灸・マッサージ																																																											
() ホメオパシー	() 体外受精コーディネーター	() NICU																																																											
() その他																																																													

就職に考慮すべき就学前児童 (※)	() 人
-------------------	-------

求職番号 _____

希望業務内容(※)	<input type="checkbox"/> 病棟看護	<input type="checkbox"/> 外来看護	<input type="checkbox"/> 助産師外来
	<input type="checkbox"/> 分娩管理（促進剤・ME監視）	<input type="checkbox"/> 分娩介助	<input type="checkbox"/> 母乳外来
	<input type="checkbox"/> 麻酔による無痛分娩介助	<input type="checkbox"/> 帝王切開手術医師の介助	<input type="checkbox"/> 婦人科手術医師の介助
	<input type="checkbox"/> 母親学級運営	<input type="checkbox"/> 両親学級運営	<input type="checkbox"/> その他相談・指導
	<input type="checkbox"/> 看護管理	<input type="checkbox"/> 正常新生児看護	<input type="checkbox"/> 母子同室指導
	<input type="checkbox"/> 妊産婦・新生児訪問看護	<input type="checkbox"/> フリースタイル出産	<input type="checkbox"/> ラマーズ法
	<input type="checkbox"/> 水中出産	<input type="checkbox"/> アクティブバース	<input type="checkbox"/> 骨盤ケア
	<input type="checkbox"/> マタニティービクス	<input type="checkbox"/> マンスリービクス	<input type="checkbox"/> マタニティスイミング
	<input type="checkbox"/> ボールエクササイズ	<input type="checkbox"/> マタニティヨガ	<input type="checkbox"/> イメージェリー
	<input type="checkbox"/> ベビーマッサージ	<input type="checkbox"/> ベビーサイン	<input type="checkbox"/> ベビーヨガ
	<input type="checkbox"/> アロマセラピー	<input type="checkbox"/> リフレクソロジー	<input type="checkbox"/> 鍼灸・マッサージ
	<input type="checkbox"/> ホメオパシー	<input type="checkbox"/> 体外受精コーディネート	<input type="checkbox"/> その他

雇用形態(※)	<input type="checkbox"/> 常勤 ・ <input type="checkbox"/> 非常勤
勤務形態(※)	下記より1つ選択し、番号を記入してください。 _____ 1. 交替制(3交替、2交替、変則交替、当直を含む) 2. 日勤のみ 3. 夜勤のみ 0. こだわらない

勤務形態で「日勤のみ」または「夜勤のみ」を選択した場合は記入してください。

勤務曜日	月曜 <input type="checkbox"/> 火曜 <input type="checkbox"/> 水曜 <input type="checkbox"/> 木曜 <input type="checkbox"/> 金曜 <input type="checkbox"/> 土曜 <input type="checkbox"/> 日曜 <input type="checkbox"/> 祝日 <input type="checkbox"/>
------	---

勤務形態で「日勤のみ」または「夜勤のみ」を選択した場合は記入してください。

勤務時間	勤務時間 _____ 時 _____ 分 ~ _____ 時 _____ 分
------	--

希望給与(※)	下記より1つ選択し、番号を記入してください。 _____ 賞金形態 1. 月給 2. 日給 3. 時給 5. 年俸 9. その他 給与額 _____ 円/年、月、日、時間、回数
---------	--

希望週休(※)	下記より1つ選択し、番号を記入してください。 _____ 1. 完全週休2日制(4週8休制を含む) 2. 隔週週休2日以上(4週6休制を含む) 3. その他
---------	--

希望福利設備(※)	宿舎 <input type="checkbox"/> 無料のみ <input type="checkbox"/> 有料でも可 _____ 円 ~ _____ 円
	保育所 <input type="checkbox"/> 駐車場 <input type="checkbox"/>

就職の際に重視する条件(※)	<input type="checkbox"/> 給与 <input type="checkbox"/> 勤務時間 <input type="checkbox"/> 通勤時間 <input type="checkbox"/> 保育施設 <input type="checkbox"/> 看護内容 <input type="checkbox"/> 休暇 <input type="checkbox"/> 宿舎・寮 <input type="checkbox"/> その他 _____
----------------	--

退職(したい)理由	<input type="checkbox"/> 勤め先側の理由	<input type="checkbox"/> 契約期間満了	<input type="checkbox"/> 結婚
	<input type="checkbox"/> 出産・育児・子供の為	<input type="checkbox"/> 配偶者の転勤	<input type="checkbox"/> 老親の世話・家族の介護
	<input type="checkbox"/> 家事と両立しない	<input type="checkbox"/> 健康上の理由	<input type="checkbox"/> 人間関係
	<input type="checkbox"/> 看護内容への不満	<input type="checkbox"/> 賃金への不満	<input type="checkbox"/> 労働時間への不満
	<input type="checkbox"/> 夜勤回数への不満	<input type="checkbox"/> 自分の適正・能力への不安	<input type="checkbox"/> 定年退職
	<input type="checkbox"/> 他分野への興味	<input type="checkbox"/> 進学	<input type="checkbox"/> 残業量が多い
	<input type="checkbox"/> 福利厚生がない	<input type="checkbox"/> 継続教育がない	<input type="checkbox"/> 休みがとれない
	<input type="checkbox"/> Uターンのため	<input type="checkbox"/> 通勤困難	<input type="checkbox"/> 転居
	<input type="checkbox"/> その他		

自己PR		希望勤務地
		<input type="checkbox"/> 23区内 <input type="checkbox"/> _____ 区内 <input type="checkbox"/> _____ 線沿線 <input type="checkbox"/> _____ 駅周辺 他 _____

事業総括

1. 現状分析

助産師の求人および就業に関する実態

- ・分娩を取り扱っていない地域が存在し、そのような地域では助産師の求人が全くない。
- ・分娩数減少を背景に産科診療所では人件費捻出が困難なため、助産師雇用を積極的に進められない診療所がある。診療所の経営維持が深刻な問題になっている。
- ・一般市民だけではなく産科診療所の医師や看護職においても助産師の役割が知られていない。診療所での業務は看護師で十分であるといった産科医の考えは、積極的に助産師を雇用しようとする要因にもなっている。また助産師が産科診療所に必要とされている実態を助産師自身が知らない。小児科の閉鎖や産科医師不足問題など周産期医療の危機が懸念されるが、助産師の専門性や助産師として働くことへの期待感など、情報提供・情報の発信が十分に行われていない。
- ・助産師の活動・技能に対する産科医の認識は低く、評価は十分に得られていない。費用軽減のためには人件費を削減する必要がある、収入にならない保健相談・育児支援のために助産師を雇用することは難しいとの意見もある。助産師が行う個々の家族への支援は、保険診療としての収入にならないことも助産師の雇用につながらない要因として考えられる。
- ・東京都内における分娩取り扱いのある診療所の把握が困難であり、助産師の求人を把握することが難しい。
- ・インターネット上に詳細な情報を公開し積極的な活動を行っている診療所は分娩件数が増加あるいは現状を保っているが、慢性的な助産師不足が続いている。
- ・助産師雇用に関しては「看護職は看護師を雇用し助産師の雇用を必要としない施設」と「助産師を雇用したいが努力をしても確保できない施設」に二極化している。

助産師が就業困難と考えられる要因

- ・助産技術、特に産婦管理・分娩介助に関して、ひとり立ちできないままに潜在助産師となった場合や新人助産師は、即戦力を求められる診療所での就業は難しい。
- ・産科診療所では慢性的なマンパワー不足が続いており、教育にかかる時間やそのための人材の確保が難しい。助産師の臨床研修等によって助産が自立できるまでの研修が実施されなければ、助産師技能に自信が持てない助産師、潜在助産師の就業は難しい。
- ・定年助産師が2人就業したが、産婦管理・分娩介助等の実績があったことで就業に結びついた可能性がある。経験のある定年助産師の場合、就業先の受け入れが良好であれば、就業は比較的しやすいと考えられる。
- ・診療所へ就業したものの、すでに就業している看護職の中で人間関係を調整することができない助産師がいる。診療所への就業には人間関係調整能力が必要であるとの指摘が複数の医師からあり、シンポジウムを開催した際にも同様の意見が聞かれた。産科医療チームの一員としての認識が助産師に欠けていることが産科診療所への就業に結びつかない要因にもつながっている可能性が考えられる。

産科診療所の求人確保困難と考えられる要因

- ・就業に際しては診療所の詳細な情報を助産師は希望しているが、口コミによる情報を活用する傾向がある^{*1}。口コミでは、看護の質、職場文化や風土などの情報が伝えられる。そのため積極的にそれらの情報を公開しなければ、助産師確保につながらない可能性がある。

^{*1} 加藤尚美：助産師確保対策に関する調査研究報告書，平成16年度厚生労働科学研究費補助金事業

- ・情報公開の場合はインターネットが主体となるが、今回の研修参加者・就業相談者はインターネットを活用していない者が多くいたため、インターネット以外の方法での情報公開も必要である。

2. 事業成果

潜在助産師や求人登録の促進

- ・本事業のホームページを開設し、助産師就業のための診療所情報の提供を行う基礎を築くことができた。
- ・産科診療所向けの求人票・求職票を作成し、診療所と求職者への詳細な情報提供を可能にした。
- ・診療所情報の収集
 - 1) 助産師が必要とする情報（特に看護の質）の収集により、個々のライフスタイル・技能に合う就業先の選択を可能にした。
 - 2) 将来に向けて地域での取り組みを可能にする産科医師と助産師を結ぶ地域ネットワーク作りを支援した。
 - 3) 助産師確保に成功している施設の成功への秘訣や助産師・医師の活躍などを紹介し、インタビュー内容等をホームページに掲載した。
 - 4) 60歳以上の活躍されている助産師の紹介、インタビュー内容をホームページに掲載した。
- ・研修参加者に対してナースセンターへの登録をすすめ、7人の登録に結びついた。ホームページの公開などで、診療所からの求人情報の提供や診療所医師からの求人依頼などが増えている。また、相談件数が増えたことも、本事業が周知された結果といえる。

3. 課題

就業確保促進事業のための東京都看護協会ならびにナースセンターの方策

- ・以前は医師会・助産師会・産婦人科医会とのつながりは希薄であったが、シンポジウムの開催、研修の実施、診療所訪問、産婦人科医会支部長訪問、医師会や産婦人科医会との調整など、本事業を通して産科医療を医師などと互いに支えあう文化が築かれつつある。本事業は産科医療について積極的に取り組みたいと考えている診療所医師からの要望・期待が大きく、この事業の重要性を認識している。
- ・実習受け入れ先の診療所が臨床研修を通じて受講生の就業場所となる場合もある。助産師のライフスタイルに合わせた技能獲得のための研修の実施や就業に関するコーディネートは、助産師の潜在化を防止し助産師の活躍につなげることができると考える。

4. 行政や協会事業への要望や提言

- ・本事業は、事業の基盤を築いたばかりでまだ目に見える成果があがっていない。今後はさらに事業の内容を深め実績が出せるような取り組みが必要である。産科医療を支える産婦人科医会・看護協会・助産師会の連携のためにも本事業の継続を要望したい。
- ・助産師が実施している個別の家族支援などは保険診療に適用されず収入源にならないことが、助産師への評価が高まらないことや、助産師の雇用につながらない理由となっている可能性がある。助産師のケアが収入に結びつくような診療報酬の改正などは今後の検討課題であると考ええる。

京都府看護協会

潜在助産師キャリア再開発研修・定年退職助産師の再就業促進研修

潜在助産師キャリア再開発研修

1) 研修目的

潜在助産師の再就業に結びつくよう、最近の妊産婦のニーズを理解するとともに、産科医療機関における助産（看護）の実際と、そのために必要な助産技術を学ぶ

2) 定員：50人 受講者数：72人 受講率：144%

3) 研修評価・考察

＜受講者アンケート＞

研修への評価スケール（①とてもそう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④殆どそう思わない ⑤無回答）

（単位：人）

開催日	研修内容	わかりやすかった					実際に役立つ内容だった					回答者数
		①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	
12/9 (金)	母性保健の動向	13	1	0	0	5	9	2	1	0	7	19
	最近の生殖医療	12	2	0	0	5	10	3	0	0	6	19
	産科救急の対処	10	0	0	0	9	10	1	0	0	8	19
12/12 (月)	周産期倫理・助産技術	19	5	2	0	2	21	3	2	1	1	28
	演習（ME 機器の取り扱い、分娩介助）	19	4	0	0	5	22	3	0	0	3	28
12/13 (火)	助産診断	11	15	1	0	1	11	12	2	0	2	28
	妊産婦健康診査・標準的保健指導（含：演習）	14	9	1	0	2	16	8	2	0	0	26
12/17 (土)	新生児の観察のポイント	41	3	0	0	0	39	5	0	0	0	44
	妊産婦の多様なニーズに関するケア（つば）	34	6	0	0	0	33	6	1	0	0	40
12/19 (月)	産科医療の安全と事故防止	20	0	0	0	0	19	1	0	0	0	20
	産科医と助産師との協働	6	12	1	0	0	8	6	4	1	0	19
	最近の産科管理	13	5	0	1	0	11	7	0	1	0	19
12/20 (火)	妊産婦の多様なニーズに関するケア（アロマ）	32	7	0	0	0	31	7	1	0	0	39
	母乳育児管理（含：演習）	20	6	2	1	0	23	4	0	2	0	29

- ・定年退職者・退職予定者を対象とした研修会の開催について、看護協会加入施設長宛に広報したことがよい結果につながったと考えられる。
- ・「わかりやすく実際に役に立つ内容であった」「現場の厳しさや救急時の動き方のイメージができとてもよかった。」「自分もがんばらなければと思うことができ背中を押された気がした」「その気があればいろいろな場面に関わっていけることがわかった」「助産師としてだけでなく人として大切なことを多く学べた」という感想が聞かれた。反対に、「離職してから時間がたつので時々専門用語がわからない事があった」という感想が聞

かれた。

- ・12月21日（午前）の求職活動の実際のキャリアカウンセリングでは、滋賀県・奈良県・大阪府・兵庫県・京都府のナースセンター長が出席し、各府県の助産師求人状況の報告があったが、どの府県も求人はあるが、応募者が少ない実態が報告された。
- ・12月21日（午後）の施設見学は参加者が9人と少なかったが、施設で開催されていた両親学級や母親教室への参加、超音波検査や3Dなどの検査機器の見学実習を行った。
- ・12月22日（午後）の合同面接会では主催者が10人（日本産婦人科医会京都府支部長、京都府医師会産科医会長、京都府看護協会関係者他7人）、求人施設が12施設22人、参加者が8人で合同面接会を実施した。

個人面接ではそれぞれの施設担当者から「雇用条件・福利厚生・健康保険・通勤手当・助産師の勤務体制」など詳細に説明があり、待遇や業務に関する参加者からの質問に回答した。施設からは、「助産師長の指導を受けながら勤務できる」「小さい子供がいるなど家庭の事情がある人は午前だけの勤務が可能」「勤務時間は8:45～17:15であるが夜診のある日の17:00～20:00に月1回でもよいので勤務してほしい」「当直勤務だけでも可能」など、施設の希望や柔軟な条件が示された。

考察

- ・今後は潜在期間や勤務経験の期間など受講者の背景を考慮した講義内容の検討が必要である。

定年退職助産師の再就業促進研修

1) 研修目的

潜在助産師の再就業に結びつくよう、最近の妊産婦のニーズを理解するとともに、産科医療機関における助産（看護）の実際と、そのために必要な助産技術を学ぶ

2) 定員：50人 受講者数：3人 受講率：6%

3) 研修評価・考察

定年退職助産師の参加が少ないことを考慮し、潜在助産師と定年退職助産師の研修を同時開催とした。研修報告は潜在助産師キャリア再開発研修に準ずる。

産科診療所等への助産師就業サポート事業

1) 事業名

京都府産科医療機関等の助産師確保促進モデル事業

2) キャリア開発支援専門員

人数：1人

役割：就労相談

就業前の調整ならびに、就業後1カ月・3カ月・6カ月に就業者から勤務状況や職場の環境等を確認し、問題の相談・調整を行う

3) 助産師確保促進運営協議会：

目的：産科医療機関等の助産師確保促進事業への理解と協力を得て、助産師の産科診療所等への就業促進を図るために、地域の助産師の需給に伴う問題や課題について検討し、事業が円滑に実施できるよう支援する

構成員：12人（日本産婦人科医会京都府支部長、京都府医師会理事、京都府助産師会会長、大学教授2人、京都府看護協会会長、京都府看護協会専務理事、京都府助

産師職能委員長、キャリア開発支援専門員)

連絡会開催回数：2回

4) 活動状況

- ・キャリア支援専門員は、事業の発足当初から研修会の取り組み企画・講師選定・協力委員との連絡調整・運営・印刷物の作成などに携わり、就職希望者の施設見学に同行した。
- ・助産師確保促進運営協議会の開催により助産師確保の必要性について理解が深まり医師会との連携が強まった。

5) 就業結果 (平成18年3月31日時点)

就業者数 1人 (産科診療所1)

潜在助産師キャリア再開発研修会プログラム

12/9 (金)	10:30～ 10:45	10:50～12:15	13:20～14:50	15:00～16:30
	開会式	母子保健の動向	最近の生殖医療	産科救急の対処
12/12 (月)	10:00～12:15		13:20～16:30	
	周産期倫理：助産技術		演習 (ME機器の取り扱い・分娩介助)	
12/13 (火)	10:00～12:15		13:20～16:30	
	助産診断		妊婦健康診査・標準的保健指導 (含：演習) 妊産婦のニーズと助産師の役割	
12/17 (土)	10:00～12:15		13:20～16:30	
	新生児の観察のポイント		妊産婦の多様なニーズに対応するケア	
12/19 (月)	10:00～12:15		13:20～14:50	15:00～16:30
	産科医療の安全と事故防止 (感染予防)		産科医と助産師の 協働	最近の産科管理
12/20 (火)	10:00～12:15		13:20～16:30	
	妊産婦の多様なニーズに対応 するケア		母乳育児管理 (含：演習)	
12/21 (水)	10:00～12:15		13:20～16:30	
	求職活動の実際とキャリアカ ウンセリング		施設見学	
12/22 (木)	10:00～12:15		13:20～16:30	
	反省およびまとめ		合同面接会 (交流会)	

定年退職助産師再就業促進研修会プログラム

12/9 (金)	10:30～ 10:45	10:50～12:15		
	開会式	母子保健の動向		
12/19 (月)			13:20～14:50	15:00～16:30
			産科医と助産師の 協働	ディスカッション (グ ループワーク)
12/21 (水)			13:20～16:30	
			施設見学	
12/22 (木)			13:20～16:30	
			合同面接会 (交流会)	

事業総括

1. 事業成果

潜在助産師の把握

- ・研修会を開催して、15 人の潜在助産師ならびに近いうちに退職し再就業を希望している助産師や定年退職予定助産師などを把握することができた。
- ・潜在助産師の就業意向や就業の際の条件等について把握できた。
- ・研修参加者のうちの 21 人がナースセンターへの登録に結びついた。

研修会開催における評価

- ・転職先が決定していた助産師も今回の研修に参加できたことで、多くの助産師に対して研修を受ける機会が広がった。
- ・「満足度の高い有意義な講義であり資質の向上に役立った」とアンケートの結果から示された。

助産師確保の重要性と共通理解

- ・求人募集のある施設を見学し施設との関係が作れたことで、求人施設として今後の相談活動につながる結果となった。
- ・「周産期に関わる医師・助産師の連携や交流会を開催することの必要性や重要性が理解できた。各診療所と助産師が協力して産科診療所への助産師確保に取り組む必要がある」という認識を医師と相互に持つことができた。また、今回の活動を通じて看護協会の活動を医師に理解してもらうよい機会となった。

2. 課題

就業確保促進のための県協会ならびにナースセンターの方策

- ・受講生から「潜在助産師の技術教育に非常に役立つ内容であったが可能であれば 1 日でも施設で分娩介助の実技演習があるとよかった」という意見が聞かれた。今後は実技演習を取り入れるなど研修内容の検討が必要である。
- ・事業への参加者に対して本人の同意を得てナースセンターによる再就業への働きかけを今後も個別に行っていきたいと考えている。
- ・事業は今後も継続していく必要性を感じているが、本協会独自の事業として続けていくことは予算上困難が伴うが、努力をして継続していく必要があることを協議会委員からも賛同を得られている。

岡山県看護協会

潜在助産師キャリア再開発研修・定年退職助産師の再就業促進研修

潜在助産師キャリア再開発研修

1) 研修目的

最近の母子保健に関する知識・技術・態度を学び、再び母子保健活動を実践する意志がもてる。
病院のみならず産科診療所でも、よい出産育児をするための支援の場があり、助産師として自己を活かしたライフワークとなることを実感する。
対象者のもてる力を引き出せる支援を学び、現代に即した効果的な指導が行える。

2) 定員：50人 受講者数：49人 受講率：98%

3) 研修評価・考察

<受講者アンケート>

研修への評価スケール (①とてもそう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④殆どそう思わない ⑤無回答) (単位：人)

開催日	研 修 内 容	わかりやすかった					実際に役立つ内容だった					回答者数
		①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	
9/16 (金)	母乳育児	18	4	0	0	1	18	3	0	0	2	23
	分娩時出血と対応	9	5	2	0	7	7	7	3	0	6	23
9/20 (火)	わが国の母子保健の動向と課題	10	7	0	0	0	7	7	2	1	0	17
	助産師のキャリア開発	10	6	1	0	0	9	6	1	1	0	17
	胎児超音波の実際	6	7	1	0	3	5	7	1	1	3	17
9/27 (火)	地域の中で暮らす母と子	14	1	0	0	1	13	2	1	0	0	16
	産科オープンシステムと妊産婦の多様なニーズに応えるケア	14	1	0	0	2	13	2	1	0	1	17
9/30 (金)	職場復帰した先輩助産師とのディスカッション	7	0	0	0	0	6	0	0	0	1	7
10/20 (木)	記録のあり方と実際	5	6	0	0	3	4	6	1	0	3	14
	分娩監視装置の装着と判断	13	0	0	0	1	13	0	0	0	1	14
10/22 (土)	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	12	0	0	0	0	10	2	0	0	0	12
10/28 (金)	保健活動に活かすコーチング	17	0	0	0	2	17	1	0	0	1	19
11/8 (火)	職場の人間関係に活かすコーチング	13	0	0	0	0	13	0	0	0	0	13

診療所での助産師の必要性及び再就業への意向に関するスケール (①とてもそう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④殆どそう思わない ⑤無回答) (単位：人)

産科診療所での助産師の必要性					回答者数	産科診療所で働きたいと思うようになった					回答者数
①	②	③	④	⑤		①	②	③	④	⑤	
9	0	0	4	2	15	5	1	0	0	7	13

- ・助産師業務は高齢となってもできるため受講対象者を 70 歳代にまで拡大し、約 1 ヶ月間かけて 785 施設と 295 人の個人に郵送による研修案内を行った。
- ・診療所見学希望者が 14 人いたが、自然分娩や帝王切開分娩の施設見学を行った受講者からは、「自分が介助しているような気持ちで、自然に手が動き、鮮明に感覚が戻ってきた。」との感想が聞かれた。また見学実習ではこのほかに、集団指導・個人指導・カルテ記載方法など多彩な見学ができた。
- ・4 人の受講者が診療所でそれぞれ 2 日間の実習を行った。分娩介助はできなかったが、新生児や母親の健診、乳房ケア及び育児支援を行う退院後 1 週間健診が実施できた。

定年退職助産師の再就業促進研修

1) 研修目的

定年後も母子保健活動を実践する意欲がもてる。

コミュニケーション・スキルを学び、他職種とのよい人間関係をつくる能力を伸ばす。

病院のみならず産科診療所でも、よい出産育児をするための支援の場と、思春期から老年期にある女性の健康支援等助産師として自己を活かしたライフワークとなる場があることを実感する。

- 2) 定員：50 人 受講者数：3 人 (他 一部公開講座に参加した保健師・看護師 7 人)
受講率：6%

3) 研修評価・考察

<受講者アンケート>

研修への評価スケール (①とてもそう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④殆どそう思わない

⑤無回答)

(単位：人)

開催日	研 修 内 容	わかりやすかった					実際に役立つ内容だった					回答者数
		①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	
9/20 (火)	わが国の母子保健の動向と課題	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	助産師のキャリア開発	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	胎児超音波の実際	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1
9/27 (火)	地域の中で暮らす母と子	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	産科オープンシステムと妊産婦の多様なニーズに応えるケア	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1
10/22 (土)	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1

診療所での助産師の必要性及び再就業への意向に関するスケール (①とてもそう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④殆どそう思わない ⑤無回答) (単位：人)

産科診療所での助産師の必要性					産科診療所で働きたいと思うようになった					回答者数
①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	
1	1	0	0	1	0	0	0	0	3	3

- ・研修では、退職者および中堅以上の就業中の助産師も受講要件としたが、退職助産師および就業中の中堅以上の助産師の参加希望がなく、今回の企画に対する反応がなかった。

考察

- ・近年、岡山県看護協会助産師職能が企画する研修会において、受講者数は徐々に減少している。

研修受講者の獲得につなげられるような方策が必要である。

その他

- 1) 研修会名：パネルディスカッション 「一緒に考えよう、助産師の現状と未来」
- 2) 研修目的：今回の事業のまとめとして、助産師の現状認識と未来に向けての夢を話し合う
- 3) 受講要件：中四国地区の助産師
- 4) 開催日時：2月26日（13：00～16：00）
- 5) 参加状況：パネラー15人 参加者18人
- 6) 実施状況：

パネラーから以下の発表があった。

- ・新卒や若い助産師が得られないため、任期付雇用の年齢制限を看護師が45歳であるのに対して助産師は55歳とした。募集人員を超えた応募があり、助産師が増員され、安全と安心を確保できる分娩環境の提供に努めている。
- ・助産師として3年間働き、2回の出産育児を経験。不妊症患者の看護を活かして助産師として再就業予定である。研修を終えて、働くことへのうれしさの半面不安も感じている。
- ・助産師として4年間総合病院で勤務したが9年間のブランクがあり、分娩介助件数が少なかったので再就業には不安がある。3年前より訪問看護師として就業中。研修会で仲間のつながりが持てたことが良かった。子どもが小さいので無理をせず働きたい。今後も研修会の開催を望む。
- ・徳島県では、診療所での分娩件数が3523件、病院での分娩件数3020件で診療所での分娩が多い。助産師は病院に160人、診療所に32人、学校に13人、分娩を取り扱わない開業助産師が8人いる。分娩数に応じた助産師の配置を望む。
- ・高知県では診療所での分娩は51.9%であるが、診療所の助産師はわずか3.6%で、3分の2の診療所には助産師がいない。助産師の実態を把握し、情報の共有・連携・協同と組織化を図りたい。助産師再就業後のサポートが重要である。
- ・年間700件の分娩を取り扱い、助産師5人、看護師21人の職員がいて、分娩介助は医師または助産師が行っている施設。助産師は個別指導や、小学校の「命を考える」出前授業にも参加している。

評価

- ・ディスカッションをすることで現状を知り今後の検討課題が明らかになった。
- ・「助産師業務への熱い気持ちが湧いてきた。明かりが見えてきた」との意見や、「半日では話し足りない。1日かけて討論したかった」との反響があり、パネルディスカッションを開催したことは効果的であった。

産科診療所等への助産師就業サポート事業

- 1) 事業名
産科診療所の助産師確保促進事業
- 2) キャリア開発支援専門員
人数：1人
役割：助産師が再就業するために必要な新知識の修得のための研修実施
産科診療所への助産師の就業斡旋
就業状況の調査・問題発生時の介入

3) 助産師確保促進運営協議会

目的：助産師確保に関する現状や問題点について検討し、診療所で就業する助産師が、その能力を発揮できる業務内容や職場環境に近づくように支援する

構成員：10人（岡山県医師会理事、岡山県産婦人科医会医師、岡山県看護協会専務理事、岡山県ナースセンター長、大学助教授、岡山県看護協会助産師職能委員長、岡山県看護協会助産師会員、日本助産師会岡山県支部支部長、産科診療所助産師、キャリア開発支援専門員）

連絡会開催回数：4回

4) 活動状況

助産師確保促進運営協議会

- ・協議会では、医師から「産婦人科医が減少し、分娩を取り扱う診療所が半減している。今後助産師が主体となって分娩を行うようにならないと賄えない。」「現在400人の産婦人科医が平成18年度には200人を割るであろう。産婦人科医師の減少に伴い正常分娩を助産師に任せたい」という意見が聞かれた。
- ・「第六次看護職員需給者見通しに関する検討会報告書」では、岡山県は平成18年に5人の不足となっているが、岡山県ナースセンターには21施設からの求人がある。診療所に助産師が就業できるような環境が整わなければ助産師の偏在は続く。そのため、「医療安全の確保に向けた保健師助産師看護師法等のあり方に関する検討会まとめ」にもあるように、分娩件数に応じた助産師配置の必要性和診療所での助産師の待遇改善について協議を行った。今回診療報酬改定ではハイリスク分娩管理加算が新設されたが、助産師の配置に関する見直しがあれば診療所での待遇改善につながり、再就業者が増えるのではないかと意見があった。
- ・協議会を通じて、医師会や産科医会の意見を直接伺えたことは、母子保健の将来が見える貴重な機会となった。

キャリア再開発支援専門員の就業サポート活動

事例1) 潜在期間が長く就業に不安を感じていた助産師がいたが、研修講師の施設である助産院で非常勤として再就職できた。就業後は責任をもって業務の援助を行ってもらうことや今後の研修への参加を依頼した。

事例2) ナースセンターへの求人登録を断われたが、キャリア開発専門員の知り合いを通じて、診療所への就職を依頼し、求職者が再就職できた。

考察

- ・協議会では助産師の教育については「学校である程度学んだあと、内診・分娩介助等は免許取得後、就業した場所で研修してはどうか」という意見も聞かれた。安全な分娩介助を行うには十分な知識と技術を修得することが不可欠であり、一人前の助産師として活躍するには就業後の研修が重要である。
- ・週1～2日の短時間勤務の雇用についてキャリア再開発支援専門員が確認しても回答がない診療所や、半日勤務での就業が取りやめとなったケースがあり、短時間勤務の就業はごく一部の施設に限られている。助産師の確保が難しいことを理解している経営者は、就業年齢制限を緩め、就業しやすい体制をつくっているが、フルタイムで働けない助産師のためにも、今後は短時間就業の希望者を集め、数人で1つの勤務を受け持つような体制づくりを支援する必要がある。
- ・施設見学が事前面接のような役割も担うため、診療所と助産師の双方にとって有益である。キャリア開発支援専門員が中心となって魅力ある研修の企画や運営、最新情報の発信、施設見学の実施などが望まれる。

5) 就業結果 (平成18年3月31日時点)

就業者数 9人 (産科診療所1、病院6、助産院1、教育機関1)

潜在助産師キャリア再開発研修会プログラム

9/16 (金)	9:00~12:00	13:00~14:00	14:00~16:00
	母乳育児	母乳育児	分娩時出血と対応
9/20 (火)	9:00~12:00	13:00~14:30	14:30~16:00
	わが国の母子保健の動向と課題	助産師のキャリア開発	胎児超音波の実際
9/27 (火)	9:00~12:00	13:00~16:00	
	地域の中で暮らす母と子 家庭訪問を通して みえてきたもの	産科オープンシステムと妊産婦の多様な ニーズに応えるケア	
9/30 (金)	9:00~12:00	13:00~16:00	
	職場復帰した先輩助産師との ディスカッション	職場復帰した先輩助産師との ディスカッション	
10/20 (木)	9:00~12:00	13:00~16:00	
	記録のあり方と実際	分娩監視装置の装着と判読	
10/22 (木)		13:00~16:00	
		リプロラクティブ・ヘルス/ライツ 生涯を通じた女性の健康支援	
10/28 (金)	9:00~12:00	13:00~16:00	
	保健指導に活かすコーチング (コミュニケーションスキル)	保健指導に活かすコーチング (コミュニケーションスキル)	

定年退職助産師再就業促進研修会プログラム

9/20 (火)	9：00～12：00	13：00～14：30	
	わが国の母子保健の動向と課題	助産師のキャリア 開発	
9/27 (火)	9：00～12：00	13：00～16：00	
	地域の中で暮らす母と子 家庭訪問を通して みえてきたもの	産科オープンシステムと妊産婦の多様な ニーズに応えるケア	
10/22 (木)		13：00～16：00	
		リプロラクティブ・ヘルス／ライツ 生涯を通じた女性の健康支援	
11/8 (火)	9：00～12：00	13：00～16：00	
	職場の人間関係に活かす コーチング (コミュニケーションスキル)	職場の人間関係に活かすコーチング (コミュニケーションスキル)	

事業総括

1. 現状分析

求人や求職者の実態

- ・再就業希望者 11 人のうち 3 人が常勤勤務を希望し、8 人は短時間勤務を希望していた。
- ・無理なく就業できる短時間勤務を希望した 8 人は、30～40 才代の子育て中の助産師あるいは、50～60 才代の助産師であった。産婦が望む最近の助産技術や助産師の能力を活かせる業務を求めている。

診療所の実態

- ・施設の管理者によって、助産師確保に対する考え方が違う。年間分娩数が 1000 件あり助産師を 10 人雇用している診療所があるが、その診療所ではバースプラン、ベビーマッサージ、母乳育児支援などに力を注いでいる。院長が助産師の必要性に理解を示しており、そのような産科診療所では助産師を募集している。
- ・岡山県に求人登録のある産科診療所の処遇は以下のとおりである。

	勤務体制	給与	賞与	当直手当	退職金制度
1	2 交替当直制	月給 20 万～22 万	4 ヶ月	5000 円	あり
2	2 交替当直制	月給 16 万～22 万	4 ヶ月	7000 円	なし
3	2 交替当直制	月給 26 万	4.5 ヶ月	10000 円	あり

雇用保険・厚生年金・健康保険制度はあるが、公立病院に比べて給与が低い。働けば働くだけ業務量は増えるが昇給や経験加算もないといった状況にある。

再就業に至った要因

- ・助産師業務に責任と自覚があり、再就業への意欲が高い。
子育て中や家族介護で離職している、または助産師以外の職に就いていても、助産師としての自覚を持ち、助産師業務への関心があり、積極的に研修や集会などに参加している。また、地域で単発的な母子相談や思春期相談事業があれば積極的に参加をしている。
- ・潜在化している期間が短い。
分娩介助の方法や考え方は時代に応じて変化する。社会の変化、医療の進歩もめざましい。特に医療機器の使い方や分娩に伴う判断には熟練を要する。潜在化している期間が長くなると再就業に結びつきにくくなる。
- ・周辺サポートが強固である。
就職前に段階を踏んで個人指導が受けられるような技術の研鑽、習得の体制があり、就業後も研修を受講するなどの支援が受けられる体制がある場合は、再就業に結びつきやすい。
助産師は夜間一人夜勤の場合が多く責任が伴う。夜間の緊急事態に対応するためには助産師としての知識や技術の習得と同時に、施設の体制を知ること重要である。
- ・自宅と再就業先が近距離である。
遠距離通勤は長続きがしない。特に家庭との両立を考慮すると、30 分以内の通勤距離が望ましい。
- ・管理者が助産師の必要性を理解し雇用に積極的である。
- ・雇用者が個人を尊重する姿勢があり、人格者である。
- ・医師は、卓越した知識や技術を持つと同時に患者や妊産婦のニーズに沿い看護者の意見をよく聞く姿勢を持っている。

2. 事業成果

- ・診療所に1人、4病院に6人、助産院に1人、公立大学に1人、計9人が助産師として就職した。
- ・研修参加者は計52人で、そのうち産科診療所等の見学者は14人、産科診療所での実習実施者は4人であった。
- ・研修会はわかりやすい研修で役立ったという意見が86%を占めた。
- ・研修や就業相談を通じて、就業に迷いがあった助産師の就労意欲が高まった。

3. 課題

就業確保促進のための県看護協会ならびにナースセンターの方策

- ・助産師間の密なネットワークをつくる。
- ・診療所に出向いて助産師確保の必要性を説明し医師とよい関係をつくる。
- ・医師会や産婦人科医会との懇談会を実施する。
- ・経験豊かな助産師の給与が低賃金であったり、当直制や呼び出し制の過酷な長時間労働では、働き甲斐ややり甲斐があっても助産師の就業に結びつきにくい。助産師確保のためには、勤務条件の改善について雇用者側への働きかけが必要である。
- ・短時間就業など働き方を検討し、継続して助産師業務ができるように意識改革をはかる。
- ・質の高い人間性のある助産師を育成する。

来年度以降の事業継続の意思

- ・潜在助産師の研修や就業サポート事業について継続して実施したい。

4. 行政や協会事業への要望・提言

- ・産科診療所には1人以上の助産師の配置と、監督・指導の充実を要望したい。
- ・産科診療所での助産業務に対する待遇改善を要望したい。

宮崎県看護協会

潜在助産師キャリア再開発研修・定年退職助産師の再就業促進研修

潜在助産師キャリア再開発研修・定年退職助産師の再就業促進研修

1) 研修目的

最新の助産に関する知識や技術の再教育を行い、助産師としての資質の向上及び就業の促進を図る。

助産師としてセカンドキャリアを磨き、診療所等における助産（看護）を展開し再就業に向けて準備する。

2) 定員：50 人 受講者数：70 人 受講率：140%

3) 研修評価・考察

＜受講者アンケート＞

研修への評価スケール ①とてもそう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④殆どそう思わない

⑤無回答

(単位：人)

開催日	研 修 内 容	わかりやすかった					実際に役立つ内容だった					回答者数
		①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	
11/11 (土)	助産師の役割と業務 最近の母子保健の動向	13	5	0	0	9	12	5	0	0	10	27
	産科診療所見学	11	5	2	0	4	10	6	3	0	3	22
11/12 (金)	キャリアカウンセリング①	15	3	0	0	12	12	5	1	0	12	30
	求人活動の実際	5	10	0	0	15	7	8	0	0	15	30
	病院、診療所における助産・看護の特徴と実際	12	2	0	0	13	10	4	0	0	13	27
11/18 (金)	セカンドキャリアの活用とキャリアカウンセリング②	8	7	0	0	0	7	2	0	0	6	15
	診療所における医師との協働とは	7	2	0	0	3	4	3	1	0	4	12
11/19 (土)	診療所における助産・看護の特徴と実際	11	0	0	0	10	9	1	0	0	11	21
	21世紀の看護とその展望	7	0	0	0	13	6	1	0	0	13	20
11/25 (金)	妊娠・分娩管理の実際	10	6	0	0	13	11	4	1	0	13	29
	開業助産師としての役割	13	3	0	0	14	15	2	0	0	13	30
11/26 (土)	助産技術の再獲得(新生児の観察とケア)	21	0	0	1	24	20	0	1	0	25	46
	助産技術の再獲得	11	5	0	0	19	11	4	0	0	20	35
12/2 (金)	記録のあり方とその実際	8	6	0	0	7	10	5	0	0	6	21
	妊産婦のニーズを知る	12	3	0	0	8	13	3	0	0	7	23
12/3 (土)	私のやりたい助産師の仕事	16	1	0	0	7	16	1	0	0	7	24
	職場復帰した先輩助産師とのディスカッション	8	4	0	0	8	10	4	0	0	6	20

診療所での助産師の必要性及び再就業への意向に関するスケール（①とてもそう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④殆どそう思わない ⑤無回答）（単位：人）

	産科診療所での助産師の必要性					産科診療所で働きたいと思うようになった					回答者数
	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	
定年助産師	14	5	0	0	8	11	3	0	0	13	27
退職助産師	12	0	0	0	2	3	4	2	0	5	14

- ・研修会開催案内は、病院・診療所を中心とした 372 施設および看護協会個人会員・助産師会員 127 人に働きかけたが、参加希望が少なかったため新聞や広報誌等による事業の紹介を行った。また、定年退職助産師の再就業促進研修は研修日程が短いことや参加が少ないことを考慮し、潜在助産師と定年退職助産師の研修を同時開催とした。
- ・子育て中の参加者がいたため、託児ルームを準備し 7 人が利用した。
- ・産科診療所を 10 施設とし受け入れに際し協会側が引率、あいさつ等の連携を密にした。
- ・就業につながった助産師のなかに「助産師としての就業経験がないため不安がある」といった意見や、ブランクのある助産師から「助産業務の変化について知りたい」などの意見が聞かれた。このほかに「自分自身がやってきたこと、考えてきたことに間違いはなかったという自信が持てたので、活動の場を得たいと思った。」「研修は多方面から自分の仕事を見つめ直す機会となり、生涯の目標を設定するために重要な情報がたくさん得られたと思う。」「分娩後の新生児の観察や母親への援助について自分に欠けていたものがわかった。他施設での分娩の様子と比べて自分の施設の利点や欠点を再認識できた。」という感想が聞かれた。
- ・短い期間であったが受講者同士のコミュニケーションもはかれ、情報交換の良い機会が得られ助産師同士のネットワークづくりに繋がった。

考察

- ・診療所の実習（見学）を県医師会協力のもと実施したことは、これから先のナースセンター事業において顔の見える関係が出来、今後の就業斡旋が容易になった。また、今後このような研修を行う場合は「分娩介助の実際」や「分娩時のモニター機器の読み方」等の実習が必要であると考え。

産科診療所等への助産師就業サポート事業

1) 事業名

産科診療所等への助産師就業サポート事業

2) キャリア開発支援専門員

人数：3 人

役割：助産師の就業相談及び研修の運営を行う

サポート事業全体の報告書を作成する

3) 助産師確保促進連絡会：1. 助産師確保促進事業連絡協議会

2. 助産師確保促進事業推進委員会（助産師職能が主体）

目的：一人でも多く助産師が就業できることを目指す

構成員：助産師確保促進事業連絡協議会 11 人

（宮崎県産婦人科医会会長、宮崎県産婦人科医会副会長、大学教授 2 人、宮崎県看護協会会長、宮崎県中央保健所課長、日本助産師会宮崎県支部支部長、宮崎県行政担当者、病院総師長、婦人会代表、一般市民）

助産師確保促進事業推進委員会（助産師職能が主体）14 人

（大学教授 2 人、宮崎県助産師職能委員 6 人、宮崎県看護協会会長、宮崎県看護協会常務理事、宮崎県ナースセンター長、キャリア開発支援専門員 3 人）

連絡会開催回数：1. 助産師確保促進事業連絡協議会 2 回

2. 助産師確保促進事業推進委員会（助産師職能が主体）4 回

4) 活動状況

助産師確保促進連絡会

- ・研修会にどの程度の受講者が見込めるのか不安であるとの意見が聞かれた。
- ・医師の不在によって産婦人科、小児科の診療科を停止している公立病院に8人の助産師がいるが、現在は皆、看護師として就業している。施設代表者会議等で是非参加を促したいとの意見が聞かれた。
- ・子育て中で働きたいけど子供を預けるところがないという助産師もいるため、研修に参加できるように託児ルーム開設について検討した。
- ・実習を受け入れた診療所の医師から、熱意を持った若い助産師がいて好感が持てたとの意見が聞かれた。
- ・看護協会会員でない人や現在就業していない潜在助産師に対してPR不足ではないかとの指摘があった。
- ・3人の就業支援がモデルとなり根付いていくようこの事業を継続して欲しい。

キャリア再開発支援専門員の就業サポート活動

- ・就業後の支援として1ヶ月・3ヶ月・6ヶ月後の就業状況のサポートとして登録者及び離職者に対して電話にて求職支援を行った。

「1 ヶ月後の状況」

事例1) 20 代の経験のない助産師。再就業促進研修を受講。11 月に面接を実施し12 月より診療所に常勤（二交替・夜勤2人）で就職。分娩が多くかなり忙しい。1 ヶ月に夜勤が4～5 回ある。助産師としての経験が無い為戸惑うことがあるが、医師はじめスタッフからやさしく接してもらっている。院長からは「一から教えなければならぬが、助かっている。サポートが無くても夜勤ができるようになってきている。分娩介助も一人でできるようになってきている。」と報告を受けている。

事例2) 30 代、12 月中旬に面接を実施し、翌週に診療所に常勤（8 時 30 分～17 時 30 分）で就職。分娩件数が少ないため分娩介助はまだ行っていない。助産師が1 人しかいないため相談する人がおらず他に助産師がいたらよいと思う。医師との協働はむずかしいと感じる。ミルクの管理や乳首の消毒時間が統一され少し変わってきている。院長からは「やる気がみられ、とても助かっている。」と報告を受けている。

事例3) 30 代、再就業促進研修を受講。研修中から再就業にかなり意欲的であり、12 月中旬に面接実施。見学した診療所に就業が決定し1 月より診療所に常勤（日勤）で就職。「今のところ、なんとかやっている。分娩介助はまだ行っていない。保健指導は見学させてもらっている。」との報告を受けている。

考察

- ・再就業に至った助産師に対して今後も就業の不安や悩みなどがあれば相談に応じる予定である。今後は助産師会や助産師職能委員会等への参加をすすめ、たくさんの助産師の考えや意見を聞く場の提供を行いたい。
- ・継続して就業支援を行っている者の中には、「体力に自信が無い」「家業で忙しい」「子供の預け先が決まっていない」などの理由で再就業に結びつかない助産師がいるため、その助産師に対しては個々の条件に合う就業先を紹介していきたい。

5) 就業結果（平成18年3月31日時点）

就業者数 5人（産科診療所4、教育機関1）

潜在助産師キャリア再開発研修会プログラム

11/11 (金)	9:30～12:00		13:00～15:30	
	開校式	助産師の役割と業務 最近の母子保健の動向	産科診療所見学	
11/12 (土)	9:30～11:00	11:00～12:00	13:00～15:30	
	キャリアカウンセリング①	求人活動の実際	病院、診療所における助産・看護の特徴と実際	
11/18 (金)	10:00～11:30		13:00～14:30	14:30～15:30
	キャリアカウンセリング②		診療所における医師との協働とは①	診療所における医師との協働とは②
11/19 (土)	9:00～12:00		13:00～15:30	
	診療所における助産・看護の特徴と実際		特別講演 21世紀の看護とその展望	
11/25 (金)	9:00～12:00		13:00～15:30	
	妊娠・分娩管理の実際		開業助産師としての役割	
11/26 (土)	9:00～12:00		13:00～15:30	
	助産技術の再獲得（新生児の観察とケア）		助産技術の再獲得	
12/2 (金)	9:00～12:00		13:00～15:30	
	記録のあり方とその実際		妊産婦のニーズを知る	
12/3 (土)	9:00～12:00		13:00～15:30	
	私のやりたい助産師の仕事		職場復帰した先輩助産師とのディスカッション	

定年退職助産師再就業促進研修会プログラム

11/18 (金)	10:00～11:30		13:00～14:30	14:30～15:30
	キャリアカウンセリング②		診療所における医師との協働とは	診療所における医師との協働とは
11/19 (土)	9:00～12:00		13:00～15:30	
	診療所における助産・看護の特徴と実際		特別講演 21世紀の看護とその展望	

事業総括

1. 現状分析

助産師の実態や就業条件について

- ・専門職にもかかわらず給料が安い。宮崎県は他県よりも安い。
- ・診療所に看護職員が少ない。
- ・産科病棟が閉鎖された公立病院に8人の助産師がいるが、全員が看護師として就業している。
- ・産科診療所において助産師業務以外の仕事（手術の介助等）をしなければならない。
- ・分娩待機や分娩があれば残業になることがある。
- ・助産師は専門性があり、互いの考えにより医師との協働が難しい場合がある。
- ・仕事に対して自信がない、離職期間が長い等の理由で就業に不安がある。

就業環境について

- ・複数の助産師がいない、あるいは就業している助産師が少ない産科診療所では、一貫した十分な援助を提供することが難しい場合もある。助産師として困ったときに相談する相手がいない環境の施設もある。
- ・残業や夜勤の時、子供をみてくれるところがない。託児所付きの診療所がない。保育料が高い。ベビーシッターなどの子育て支援の情報が少ない。
- ・リストラや人員削減により仕事が忙しい。
- ・夫の協力が充分得られない。核家族化や祖父母も就業していて協力が得られにくい。

2. 事業成果

- ・産科診療所や助産師に研修案内を出すことで求人と求職者の掘り起こしにつながった。
- ・研修参加者のなかで未就業者が14人いることを把握した。それらの未就業者に対して、就業できないかどうか話を聞くことができた。
- ・ナースセンター独自で需要調査を実施したことにより、施設から求人の募集があった。
- ・研修を実施したことで、参加者の就業意欲が高まった。
- ・事業を推進するためには医師会の理解が不可欠であったが、県医師会長が産婦人科医であり、事業の趣旨にも同意が得られ助産師確保の必要性に理解が得られた。

3. 課題

就業確保促進のための県協会ならびにナースセンターの方策

- ・仕事に自信がもてずに就業できない人の相談業務を行う。
- ・潜在助産師の発掘を積極的に行っていく。
- ・助産師は施設内だけでなく地域に求められる職業である。そのため、助産所の業務内容や助産師会の活動内容について情報を収集し、援助を必要としている母子に対してサポートできるように、地域の助産師に情報を与えて行くことが重要である。

来年度以降の事業継続の意思

- ・今回の経験を生かし、来年度以降もできれば実施していきたい。

4. 行政への要望や提言

- ・子供を産み育みながら就業できる環境整備を要望したい。
 - 1) 安い保育料で保育施設が利用できる
 - 2) 診療所に託児所を設ける。公的補助があると良い

- 3) ベビーシッター・延長保育・休日保育・一時保育・夜間保育・学童保育の拡充、病児保育の充実
- ・診療所と助産所が一緒になり協働できる体制を確立する。助産所から助産師を派遣するシステムを検討してほしい。
 - ・産科と婦人科を別にして産科には助産師だけ就業させる体制にする。助産業務と保健指導業務を助産師のみの業務として確立してほしい。
 - ・今回のモデル事業を通じて培った経験が根付いていくようこの事業を継続してほしい。

2. 5 県の事業総括

I 実績

		有効求職数	有効求人数	紹介者数	就職者数	求人施設実数
		人	人	人	人	ヶ所
全国計	16 年度	2,268	3,597	433	316	708
	17 年度	1,796	3,451	357	274	638
青森県	16 年度	11	76	0	0	24
	17 年度	21	271	5	7	46
東京都	16 年度	454	528	68	23	95
	17 年度	383	641	71	26	110
京都府	16 年度	95	291	9	11	52
	17 年度	55	415	3	7	71
岡山県	16 年度	29	100	6	19	29
	17 年度	34	298	9	9	51
宮崎県	16 年度	14	143	4	5	37
	17 年度	31	318	11	8	58

※紹介者数<就職者数は、紹介時に登録した免許の種類と採用時に登録した免許の種類が違う場合があるため（紹介時は看護師として紹介登録されたが、採用時に助産師として採用された場合など）

結果

全国計でみると平成 16 年度から平成 17 年度にかけて助産師の有効求人数・求人施設実数が減っているなか、モデル事業を実施した 5 県すべてにおいて有効求人数、求人施設実数ともに明らかな増加が認められた。今回の事業において、キャリア開発支援専門員が中心となって産科診療所に対して助産師の必要性を積極的にアピールし、求人登録を呼びかけていたことが成果につながったと考えられる。

就職者数については、全く採用のなかった青森県で助産師が採用されたという実績や、東京都、宮崎県では就職者数の増加に結びついている。

京都府や岡山県では就職者数が減少しているが、岡山県では、本事業を通じて計 9 人の助産師の採用につながっている。

また、求職者数については、増加したところもあれば減少したところもあった。

研修受講者数（5 県総数）

潜在助産師キャリア開発研修受講者数 計 144 人

定年退職助産師再就業促進研修受講者数 計 16 人

同時開催での受講者数 計 70 人

総計 230 人

事業実施期間における助産師就業者数（5 県総数）

計 23 人（うち産科診療所への就業者 11 人、その他の施設への就業者 12 人）

紹介中の助産師：計 3 人

平成 18 年度事業継続予定

東京都 京都府

Ⅱ 助産師・産科診療所の実態と再就業要因

1. 潜在助産師・定年助産師の実態

- ①産科病棟閉鎖に伴い、看護師として勤務する助産師がいる。
- ②産科診療所で勤務する助産師は少ない。
- ③定年退職後に診療所に再就業を希望する助産師は少ない。
- ④子育て中の助産師は夜勤や残業ができない者が多い。
- ⑤当直の他に分娩時オンコール体制があるなど、産科診療所は24時間体制であるため助産師の負担が大きい。
- ⑥離職期間が長くなると技術的な不安があり再就業に自信がない。
- ⑦研修会等への参加が難しく、スキルアップを行う機会が少ない。
- ⑧助産師と医師との考え方の相違で協働が難しい場合がある。
- ⑨就業を希望する助産師は、看護の質、職場文化や風土などのインフォーマルに伝えられる情報を求めている。
- ⑩情報発信の手段はインターネットが主体となりつつあるが、研修参加希望者や就業相談希望者のなかには、インターネットを活用していない者が多い。

2. 診療所の実態

- ①助産技術が自立できていない、助産師技能に自信が持てない、人間関係調整力が欠けている助産師は診療所の就業が難しい。
- ②産科診療所では、助産師業務以外のことも行わなければならない。
- ③経営維持が深刻で、助産師を雇用することが難しい産科診療所がある。
- ④産科診療所で助産師が必要とされる実態が知られていない。
- ⑤分娩取扱いのある診療所の把握が困難であり、助産師の求人把握が難しい。
- ⑥看護師を雇用し助産師の雇用を必要としない施設、助産師を雇用したいが努力をしても確保できない施設、助産師を必要とし助産師を募集している施設がある。
- ⑦地方と都会との給料格差が大きい。
- ⑧給料が安く、昇給がない場合もある。
- ⑨複数の助産師がいないため、相談する相手がいない環境の施設がある。
- ⑩託児所付きの診療所が少ない。
- ⑪ベビーシッターなどの子育て支援の情報が少ない。

3. 再就業に至った要因

- ①子育て中であっても助産師業務に責任と自覚があり、研修への参加やパートで仕事をつなぎ再就業への意欲が高い。
- ②未就業期間が短い。
- ③研修機会等の周辺サポートが強固である。
- ④自宅と再就業先が近距離である。
- ⑤管理者が助産師の必要性を理解し雇用に積極的である。
- ⑥雇用者が個人を尊重する姿勢がある。

Ⅲ 事業成果

1. 求人・求職登録の増加

- ①診療所からの助産師の求人が増えた。
- ②潜在助産師の登録が増えた。

2. 助産師確保促進事業普及活動に伴う成果

- ①見学依頼や、助産師数把握のための電話聞き取り等を通し、助産師確保事業や県看護協会活動の理解が広がった。
- ②シンポジウム、診療所訪問、研修、医師会や産婦人科医会訪問を通し、産科診療所への助産師確保に取り組む姿勢と認識を相互に持つことができた。
- ③ナースセンター独自の需要調査や、求人を募集している施設の見学実習を通して関係形成ができ求人の募集があった。

3. ナースセンター事業の充実

- ①本事業のホームページを開設でき、診療所からの求人依頼や相談件数が増えた。
- ②産科診療所向けの求人票・求職票を作成し、診療所と求職者への詳細な情報提供を可能にした。
- ③診療所情報、助産師が必要とする情報の集約が就業先の選択を可能にした。
- ④産科医師と助産師を結ぶ地域ネットワーク作りを支援した。
- ⑤研修会を通して潜在・定年退職予定助産師などを把握することができた。
- ⑥潜在助産師の就業意向や就業の際の条件等について把握できた。

4. 研修会開催の効果

- ①潜在助産師の研修を受ける機会が広がった。
- ②潜在助産師の研修ニーズを把握することができた。
- ③研修や就業相談を通じて、就業に迷いがあった助産師の就労意欲が高まった。
- ④受講生は研修会を通じて助産師の仕事のすばらしさを再認識できた。

IV 県協会ならびにナースセンターの今後の方策

1. ネットワークづくり

- ①診療所に勤務する助産師、潜在助産師等のネットワークづくりが必要である。
- ②診療所に勤務している看護職員の看護協会加入促進を図る。
- ③医師会や産婦人科医会との懇談会を実施する。

2. 研修の強化

- ①助産師のいない産科診療所に、助産師採用のメリットやナースセンター事業について広報・啓発活動を強化する。
- ②再就業を望む助産師が、実技演習できる病院を各地域で確保する必要がある。

3. 産科診療所への支援

- ①母親教室や母乳指導など、セカンドキャリアの人材を活かせるような雇用の仕方を診療所にPRする。
- ②産科診療所の雇用条件改善等の相談に対応する。
- ③助産師が主体的に実践し魅力ある診療所にしていくための情報提供をする。

4. 看護管理者への啓発

- ①短時間就業など多様な働き方を採用し、継続して助産師業務ができるように意識改革をはかる。

5. キャリア支援専門員の活動継続

- ①研修を実施する。
- ②今回の事業参加者へ再就業への働きかけを継続する。
- ③就業相談、就業コーディネートを実施する。
- ④潜在助産師の発掘を積極的に行っていく。
- ⑤地域の助産師に情報を提供する。
- ⑥再就業支援のみでなく、現在就業中の助産師の定着のための相談に対応する。

V 行政・協会事業への要望

1. 助産師の偏在の解消

- ①病院・診療所・助産院など多様な働く場があり生涯にわたって助産師としてのキャリア形成ができる学生を育成する。
- ②産科病棟閉鎖の病院や公的病院、助産所から、地域の産科診療所に助産師を派遣できるような出向・派遣制度などを設ける。
- ③産科医が集約された病院と、産科が閉鎖された病院の助産師の柔軟な活用が保証される体制を作る。

2. 助産師の専門技術の経済的評価

- ①分娩件数及び妊産婦入院数に対する適正な助産師配置基準を設ける。
- ②助産師が行う専門性の高い相談業務などが診療報酬で評価されることを望む。

3. 産科診療所の労働環境の改善

- ①助産師業務に対する待遇改善の検討を望む。
- ②子供を産み育みながら就業できる環境整備のために、診療所に託児所を設ける。
延長保育・休日保育・一時保育・夜間保育・学童保育の拡充、ベビーシッター利用・民間保育施設利用・病児保育等に公的補助を望む。

4. モデル事業の趣旨を継続

- ①本事業が内容を深めさらに実績が出せるためにも、産科医療を支える産婦人科医会・看護協会・助産師会の連携の芽生えを強化するためにも本事業の趣旨を継続する必要性がある。しかし、本事業を継続予定は2県にとどまっており、事業を実施する県協会や施設等への助成を要望する。

Ⅲ.「潜在助産師・退職助産師の就業意向調査」 結果報告

目 次

調査概要	48
I 調査対象者の特性	49
1. 居住地	49
2. 年齢	49
3. 子供の有無、子供の人数・年齢	49
4. 介護している家族の有無	51
II 対象者の生活環境について	52
1. 現在の生活	52
2. 居住エリアでの産科診療所の有無	52
III 保有資格について	53
1. 保有資格	53
2. 免許取得年	53
3. 免許取得のための基礎教育	53
4. 総分娩介助件数	53
IV 職歴について	54
1. 通算経験年数	54
2. 過去の経験業務	54
3. 就業状況	55
4. 離職期間	56
5. 退職前職場施設	56
6. 退職理由	56
7. 他職場での就労経験	57
8. 転職経験	58
V 現就業状況について	59
1. 現在就業中の職場	59
2. 勤務形態	59
3. 勤続年数	59
4. 関与業務	60
5. 現職場選択理由	61
VI 産科診療所のイメージについて	62
VII 期待される助産師の能力	66
VIII 就業の際の条件について	70
1. 産科診療所での就業意向	70
2. 希望する勤務形態	71
3. 希望する勤務日数	71
4. 希望する勤務時間	72
5. 希望勤務体制	72
6. 希望給与	73
7. 希望条件	74
8. 就労希望時期	76
9. 産科診療所での就労阻害要因	77
IX 研修への参加意向について	78
1. 研修参加意向	78
2. 希望する研修内容	78
X 求職活動について	80
1. 就業支援活用意向	80
2. 求職活動手段	80

XI 1年以内の就業希望者の就業条件について	81
1. 分娩介助件数、通算経験年数、離職期間、退職前職場施設	81
2. 退職理由	82
3. 希望する勤務形態、勤務日数、勤務時間、勤務体制	82
4. 希望条件	83
5. 研修参加意向と内容	84
6. 求職活動手段	84
■ 調査結果総括	86
1. 調査対象者の背景	86
2. 産科診療所への就業意向に関する実態	86
3. 産科診療所で期待される助産師の能力と必要な研修	87
4. 産科診療所に対するイメージ	88
5. 就業支援のあり方	88
● 自由記述	90
1. 労働条件について	90
2. 人間関係について	90
3. 業務について	90
4. 職場環境について	91
5. 教育・支援体制について	91
6. 求職活動について	91
7. 経営者の理念について	91
8. その他	92
統計表	93
調査票	112

潜在・退職助産師の就業意向調査ワーキンググループ

委員長	遠藤 俊子	(山梨大学大学院)
	石川 紀子	(愛育病院)
	神谷 直樹	(東京慈恵会医科大学柏病院)
	加藤 尚美	(神奈川県立保健福祉大学)
	串間 秀子	(宮崎県看護協会)
	佐藤 仁	(館出張佐藤病院)
	塚越 典子	(都立広尾病院)
	成田 伸	(自治医科大学)
	山崎 圭子	(横浜市衛生局)
	渡辺 しおり	(堀永産婦人科)
	和田 明美	(浅川産婦人科医院)

調査概要

1. 調査の目的

現在、就業していない助産師ならびに病院等で看護師として働いている助産師が、診療所で助産師として働く場合、どのような労働条件や職場環境を望んでおり、こういった条件が整えば診療所での就労が可能となるかを明らかにするため、本調査を実施する。

その背景には、新生児の出生場所は病院 52%、診療所が 46%（平成 16 年度人口動態調査）となっているものの、実際に助産師が働いている数は病院 68%、診療所は 18%（平成 16 年度厚生労働省医政局看護課調べ）と、明らかに診療所における助産師の数が不足している。そのため、一部の産科医療機関においては、助産師不足を背景に看護師による産婦の内診行為等が問題となっている。

平成 17 年 11 月 24 日に公表された厚生労働省の「医療安全の確保に向けた保健師助産師看護師法等のあり方に関する検討会」では、「助産教育を受けていない看護師の助産業務を認めるのは、国民が求めている安心で安全なお産から逆行する行為」として「内診等については助産業務である」との見解が示された。診療所で働く助産師の数が不足している要因は、助産師が分娩数の少ない病院に偏在し、結果的に看護師として勤務している実態など、助産師として診療所で就業したくても、働ける環境が整備されていないのではないかと懸念がある。

それらの実態を明確にすることも本調査に課せられた課題である。

尚、本調査の結果は厚生労働省の政策ならびに日本看護協会の政策提言等に活用する。

2. 調査の設計

(1) 調査対象

平成 18 年 1 月 5 日時点でナースセンターコンピュータシステム（以下 NCCS）に有効な求職登録をしている助産師ならびに、都道府県看護協会の紹介により調査協力いただいた助産師

(2) 調査対象者及び回収状況

配布数：1010 件

回収数：500 件

回収率：49.5%

(3) 調査方法 宅配メール便発送 郵便回収

(4) 調査期間 平成 18 年 1 月 12 日～1 月 31 日

(5) 調査主催 社団法人 日本看護協会

(6) 調査実施・分析機関 株式会社 アクロス

I 調査対象者の特性

1. 居住地

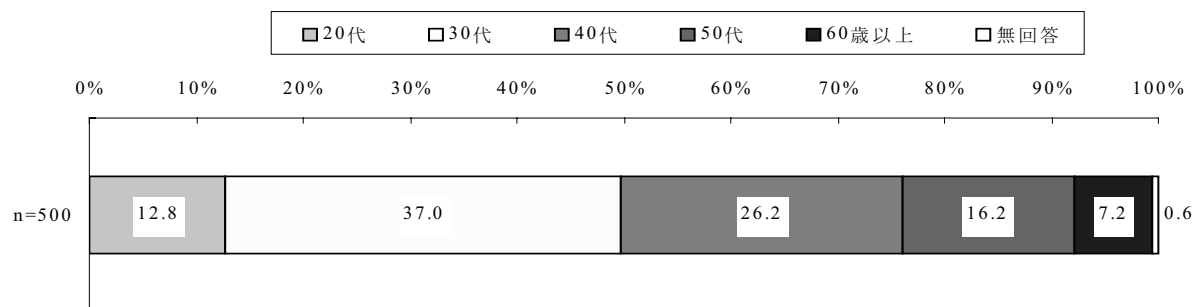
問1 居住地

全体	n=500	100.0 (%)
北海道	23	4.6
青森県	13	2.6
岩手県	7	1.4
宮城県	12	2.4
秋田県	4	0.8
山形県	1	0.2
福島県	2	0.4
茨城県	8	1.6
栃木県	9	1.8
群馬県	9	1.8
埼玉県	5	1.0
千葉県	15	3.0
東京都	64	12.8
神奈川県	20	4.0
新潟県	3	0.6
富山県	2	0.4
石川県	1	0.2
福井県	0	0.0
山梨県	4	0.8
長野県	9	1.8
岐阜県	7	1.4
静岡県	8	1.6
愛知県	14	2.8
三重県	7	1.4

滋賀県	6	1.2
京都府	9	1.8
大阪府	16	3.2
兵庫県	16	3.2
奈良県	4	0.8
和歌山県	2	0.4
鳥取県	7	1.4
島根県	2	0.4
岡山県	25	5.0
広島県	11	2.2
山口県	6	1.2
徳島県	3	0.6
香川県	17	3.4
愛媛県	1	0.2
高知県	4	0.8
福岡県	22	4.4
佐賀県	3	0.6
長崎県	7	1.4
熊本県	10	2.0
大分県	23	4.6
宮崎県	22	4.4
鹿児島県	22	4.4
沖縄県	13	2.6
無回答	2	0.4

2. 年齢

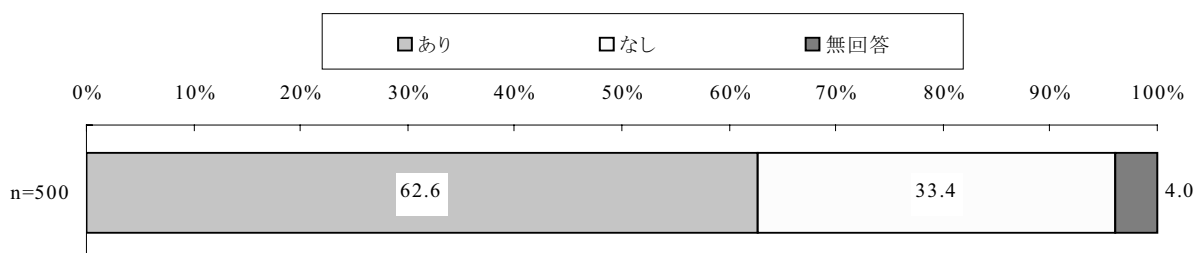
問2 年齢



対象者の年齢は、30代が37.0%、40代が26.2%の順で多く、両者で60%強である。

3. 子供の有無、子供の人数・年齢

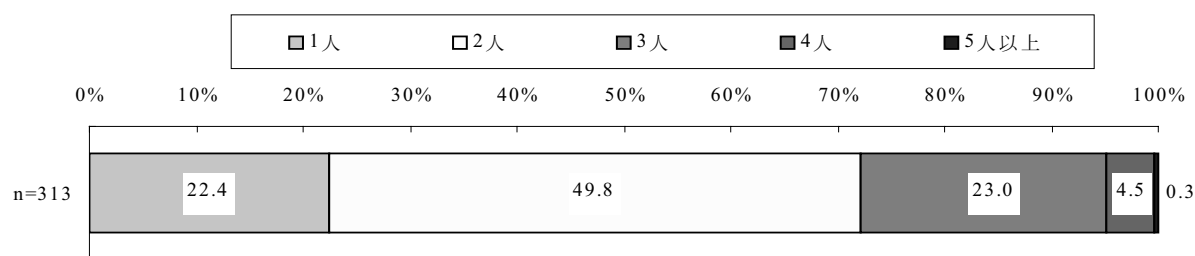
問5 子供の有無



6割以上が「子供がいる」と回答している。

問5 子どもの人数

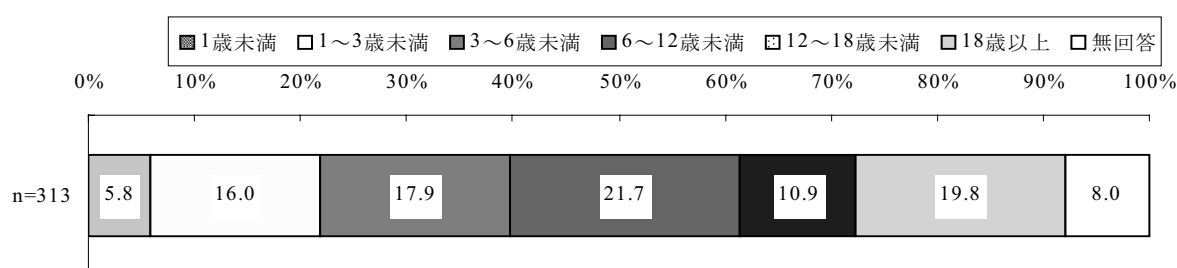
問5 子どもの有無：あり



子供の数は2人が49.8%で最も多く、次いで3人（23.0%）、1人（22.4%）の順である。

問5 末子の年齢

問5 子どもの有無：あり

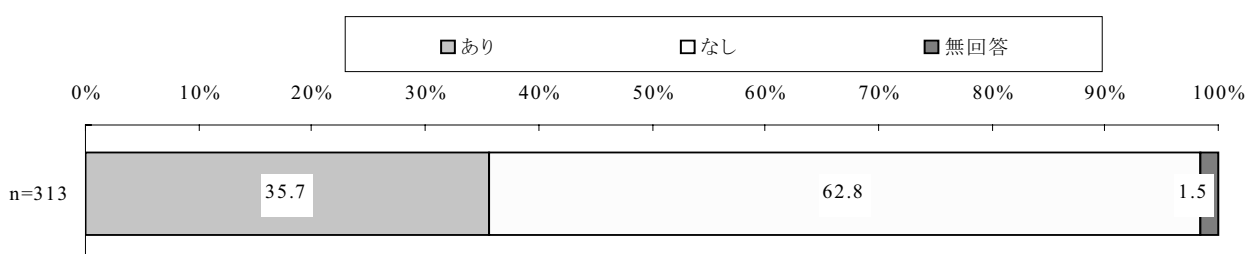


末子の年齢は6～12歳が21.7%と最も多く、次いで18歳以上（19.8%）、3～6歳未満（17.9%）の順である。

問5-1 昼間や夜間に子どもの世話をしてくれる家族や保育者等の有無

問5 子どもの有無：あり

問5 末子の年齢：12歳以下

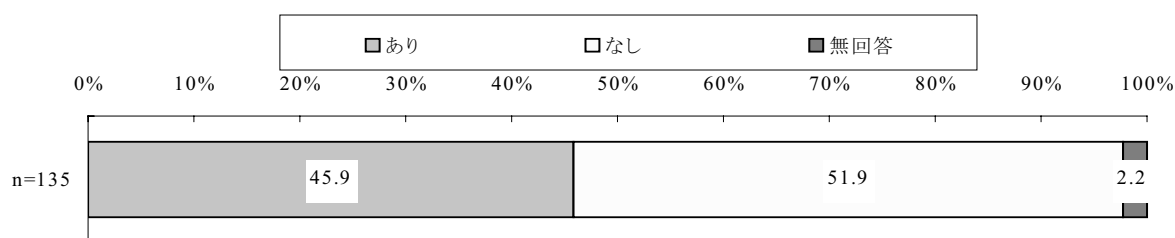


末子の年齢が12歳以下で昼間や夜間に子どもの世話をしてくれる家族や保育者等は62.8%が「なし」と回答している。

問5-2 保育所等の利用の有無

問5 子どもの有無：あり

問5 末子の年齢：6歳以下

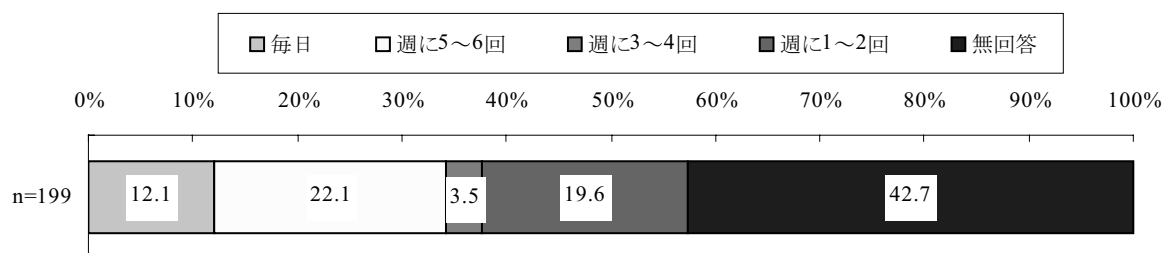


末子の年齢が6歳以下で保育所等の利用は45.9%が「あり」、51.9%が「なし」と回答している。

問5-3 子どもの世話をしてもらえる頻度〔日数〕

問5 子どもの有無：あり

問5 末子の年齢：12歳以下

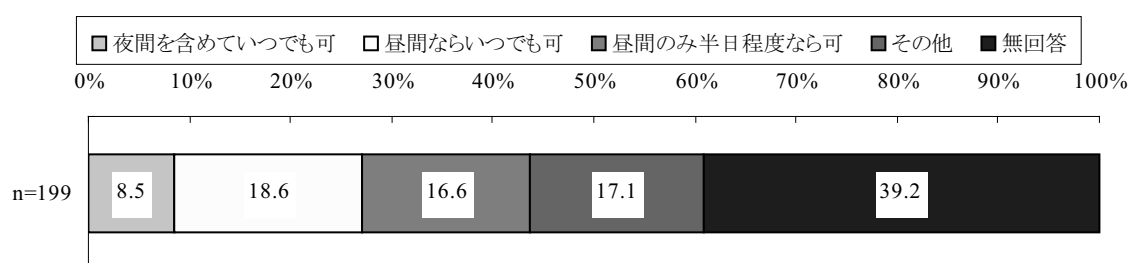


末子の年齢が12歳以下で子供の世話をしてもらえる頻度（日数）は、週に5~6回（22.1%）で最も多く、次いで週に1~2回（19.6%）、毎日（12.1%）の順である。

問5-3 子どもの世話をしてもらえる頻度〔時間帯〕

問5 子どもの有無：あり

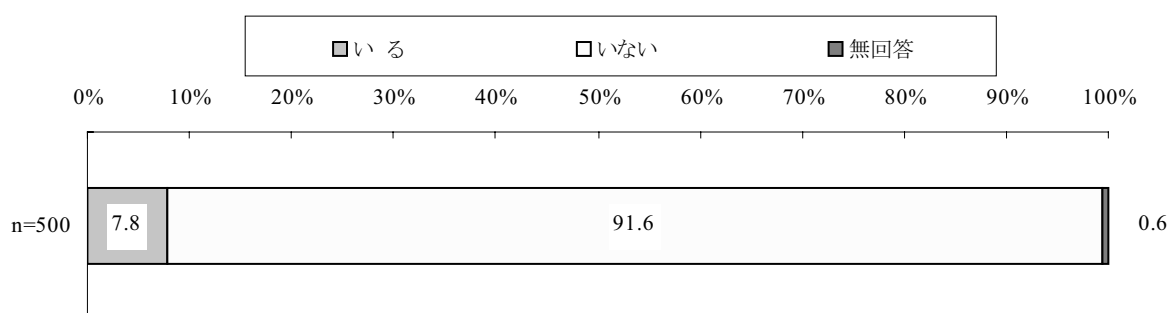
問5 末子の年齢：12歳以下



末子の年齢が12歳以下で子供の世話をしてもらえる頻度（時間帯）は、昼間ならいつでも可（18.6%）が最も多い。

4. 介護している家族の有無

問6 あなたが介護している家族はいますか

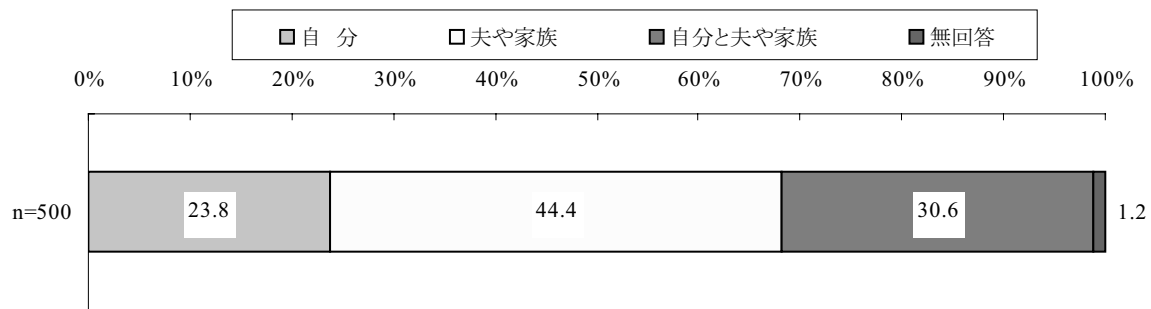


介護をしている家族の有無については、91.6%が「いない」と回答している。

Ⅱ 対象者の生活環境について

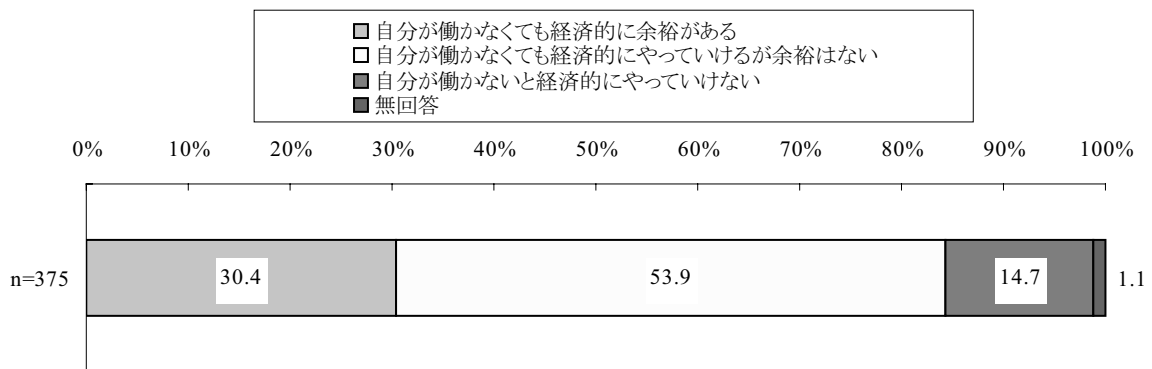
1. 現在の生活

問3 現在の生活における収入源は誰ですか



「現在の生活における収入源は誰ですか」の問いに対し、全体では「夫や家族」が 44.4%、「自分と夫や家族」が 30.6%と回答している。

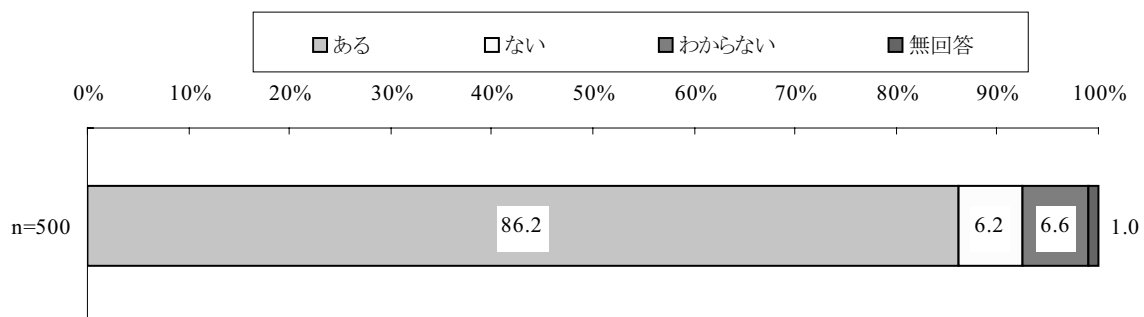
問4 現在の生活状況について



問3の質問で収入源が「自分」と回答していない者のうち、現在の生活状況について、「自分が働かなくても経済的にはやっつけけるが、余裕はない」に 53.9%が回答している。

2. 居住エリアでの産科診療所の有無

問12 あなたの居住地の近く（車で30分以内）に分娩を取り扱っている産科診療所はありますか

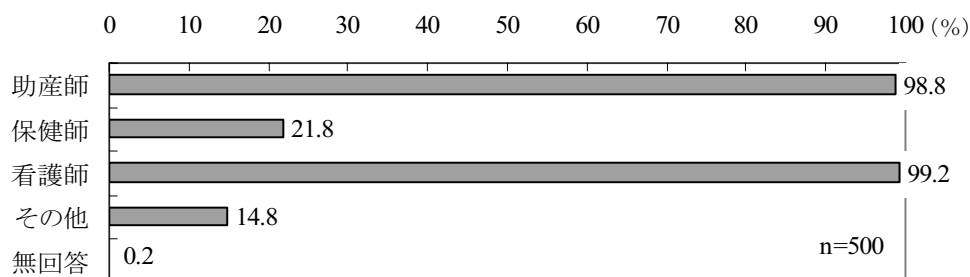


「あなたの居住地の近くに分娩を取り扱っている産科診療所はありますか」の問いに対し、全体の 86.2%が「ある」に回答している。

Ⅲ 保有資格について

1. 保有資格

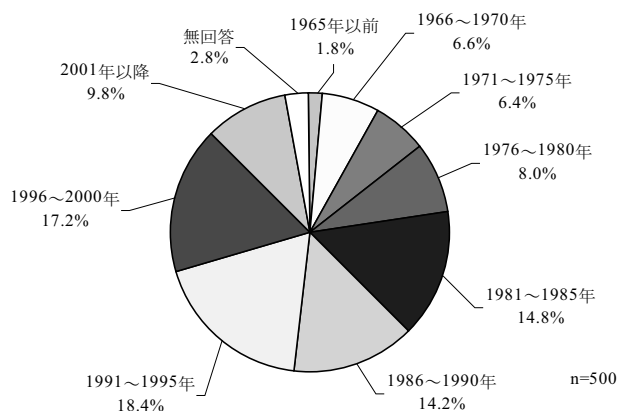
問7 あなたがお持ちの資格（複数回答）



「あなたがお持ちの資格のすべて」の問いに対し、全体では「看護師」が99.2%、「助産師」が98.8%と回答している。

2. 免許取得年

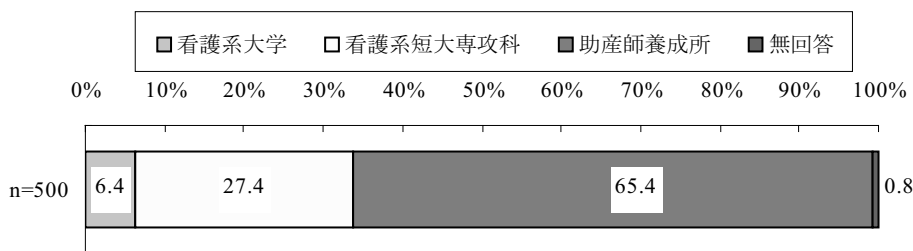
問9 助産師免許取得年はいつですか



「助産師免許取得年はいつですか」の問いでは、1991年以降の免許取得者が45.4%を占めている。

3. 免許取得のための基礎教育

問8 助産師免許を取得するための基礎教育はどこで受けましたか



「助産師免許を取得するための基礎教育はどこで受けましたか」の問いに、「看護系大学」が6.4%、「助産師養成所」が65.4%、「看護系短大専攻科」が27.4%と回答している。

4. 総分娩介助件数

問10 助産師になってから現在までの総分娩介助件数

全体 n=500	～20件	20～50件	50～100件	100～200件	200～500件	500～1000件	1000件～	無回答	平均件数
100.0%	8.4	4.2	8.2	19.8	26.6	13.4	10.8	8.6	396.2件

（別掲）産科診療所での就業意向：是非働きたい・選択肢として考えたい

全体 n=234	～20件	20～50件	50～100件	100～200件	200～500件	500～1000件	1000件～	無回答	平均件数
100.0%	6.0	5.6	7.7	21.4	30.8	12.8	9.0	6.8	328.5件

「助産師になってから現在までの総分娩介助件数」の問いに、全体では「200～500件未満」が26.6%、「100～200件未満」が19.8%と回答している。

産科診療所での就業意向のある者「是非働きたい・選択肢として考えたい」は、分娩介助件数が100件以上の者に多い。

Ⅳ 職歴について

1. 通算経験年数

問 13. あなたが助産師として働いた通算経験年数はどれくらいですか

全体 n=500	～1 年	1～2 年	2～3 年	3～4 年	4～5 年	5～10 年	10～20 年	20 年～	無回答	平均年数
100.0%	7.4	5.0	5.0	9.6	7.8	31.8	22.0	10.6	0.8	8.8 年

(別掲) 産科診療所での就業意向：是非働きたい・選択肢として考えたい

全体 n=234	～1 年	1～2 年	2～3 年	3～4 年	4～5 年	5～10 年	10～20 年	20 年～	無回答	平均年数
100.0%	4.3	6.0	5.1	11.1	8.1	34.6	22.6	7.7	0.4	8.1 年

「助産師として働いた通算経験年数」の問いに、全体では「5～10 年未満」が 31.8%、「10～20 年未満」が 22.0%と回答している。

産科診療所での就業意向のある者「是非働きたい・選択肢として考えたい」は、通算経験年数が 3 年以上の者で 8 割以上を占める。

(再掲) 問 13. あなたが助産師として働いた通算経験年数はどれくらいですか

(助産師になってから現在までの総分娩助件数別)

(%)

	n	合計	～1 年	1～2 年	2～3 年	3～4 年	4～5 年	5～10 年	10～20 年	20 年～	無回答
全体	500	100.0	7.4	5.0	5.0	9.6	7.8	31.8	22.0	10.6	0.8
～20 件	42	100.0	73.8	11.9	0.0	0.0	4.8	7.1	2.4	0.0	0.0
20～50 件	21	100.0	9.5	33.3	19.0	9.5	9.5	9.5	9.5	0.0	0.0
50～100 件	41	100.0	2.4	12.2	26.8	22.0	12.2	22.0	2.4	0.0	0.0
100～200 件	99	100.0	1.0	8.1	9.1	24.2	16.2	32.3	8.1	1.0	0.0
200～500 件	133	100.0	0.0	0.0	0.8	6.0	9.0	54.9	22.6	5.3	1.5
500～1000 件	67	100.0	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	37.3	47.8	13.4	0.0
1000 件～	54	100.0	0.0	0.0	0.0	1.9	0.0	3.7	44.4	50.0	0.0
無回答	43	100.0	4.7	0.0	0.0	7.0	4.7	30.2	27.9	20.9	4.7

経験年数と分娩助件数をみると、経験年数が長くなるにつれて、概ね分娩助件数が増加している。

2. 過去の経験業務

問 11. あなたがこれまでに助産師として経験した業務（複数回答）

(%)

業務内容	n=500
妊婦の診察	71.6
妊婦の保健指導	91.4
産婦の診察	86.8
分娩助	94.0
褥婦の診察	94.0
褥婦の保健指導	93.8
1 ヶ月健診	65.2
母乳保育への指導	90.8
新生児の観察とケア	94.6
乳房管理	91.6
退院後の訪問指導	40.8
育児相談	68.2
学級活動（両親・母親・育児）	84.4
ハイリスク妊産婦のケア	73.6
ハイリスク新生児のケア（NICU）	30.8
婦人科業務	75.2
不妊相談	21.2
中高年相談	15.8
家族計画指導	72.2
その他	8.2
無回答	2.8

「あなたがこれまでに助産師として経験した業務」の問いに、「新生児の観察とケア」が 94.6%、「分娩助」94.0%、「褥婦の診察」94.0%、「褥婦の保健指導」93.8%、「乳房管理」91.6%、「妊婦の保健指導」91.4%、「母乳保育の指導」90.8%などが 9 割以上と回答している。

(再掲) 問11 あなたがこれまでに助産師として経験した業務(分娩件数別)

(%)

業務内容	件数	～20	20～50	50～100	100～200	200～500	500～1000	1000～
妊婦の診察	有	43.3	76.2	78.0	73.7	67.7	83.6	83.3
	無	56.7	23.8	22.0	26.3	32.3	16.4	16.7
妊婦の保健指導	有	60.0	90.5	85.4	94.9	100.0	97.0	100.0
	無	40.0	9.5	14.6	5.1	0.0	3.0	0.0
産婦の診察	有	36.7	85.7	92.7	93.9	92.5	98.5	90.7
	無	63.3	14.3	7.3	6.1	7.5	1.5	9.3
分娩介助	有	46.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	無	53.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
褥婦の診察	有	56.7	100.0	100.0	99.0	99.2	100.0	98.1
	無	43.3	0.0	0.0	1.0	0.8	0.0	1.9
褥婦の保健指導	有	56.7	95.2	100.0	98.0	100.0	100.0	98.1
	無	43.3	4.8	0.0	2.0	0.0	0.0	1.9
1ヶ月健診	有	33.3	47.6	61.0	73.7	66.2	76.1	72.2
	無	66.7	52.4	39.0	26.3	33.8	23.9	27.8
母乳保育への指導	有	53.3	81.0	90.2	98.0	99.2	95.5	100.0
	無	46.7	19.0	9.8	2.0	0.8	4.5	0.0
新生児の観察とケア	有	63.3	95.2	100.0	100.0	100.0	100.0	98.1
	無	36.7	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9
乳房管理	有	53.3	95.2	85.4	97.0	99.2	97.0	98.1
	無	46.7	4.8	14.6	3.0	0.8	3.0	1.9
退院後の訪問指導	有	23.3	19.0	31.7	36.4	41.4	58.2	55.6
	無	76.7	81.0	68.3	63.6	58.6	41.8	44.4
育児相談	有	30.0	52.4	51.2	67.7	72.2	88.1	88.9
	無	70.0	47.6	48.8	32.3	27.8	11.9	11.1
学級活動(両親・母親・育児)	有	40.0	76.2	78.0	88.9	92.5	92.5	96.3
	無	60.0	23.8	22.0	11.1	7.5	7.5	3.7
ハイリスク妊産婦のケア	有	30.0	61.9	58.5	74.7	86.5	86.6	87.0
	無	70.0	38.1	41.5	25.3	13.5	13.4	13.0
ハイリスク新生児のケア(NICU)	有	16.7	14.3	24.4	26.3	35.3	34.3	53.7
	無	83.3	85.7	75.6	73.7	64.7	65.7	46.3
婦人科業務	有	33.3	76.2	80.5	78.8	78.2	85.1	88.9
	無	66.7	23.8	19.5	21.2	21.8	14.9	11.1
不妊相談	有	13.3	9.5	9.8	6.1	21.8	38.8	51.9
	無	86.7	90.5	90.2	93.9	78.2	61.2	48.1
中高年相談	有	10.0	0.0	2.4	8.1	15.0	19.4	46.3
	無	90.0	100.0	97.6	91.9	85.0	80.6	53.7
家族計画指導	有	30.0	71.4	63.4	70.7	78.9	83.6	94.4
	無	70.0	28.6	36.6	29.3	21.1	16.4	5.6
n		445※	30	21	41	99	133	67
							67	54

※経験業務と分娩介助件数の両方とも回答のあった者のみ

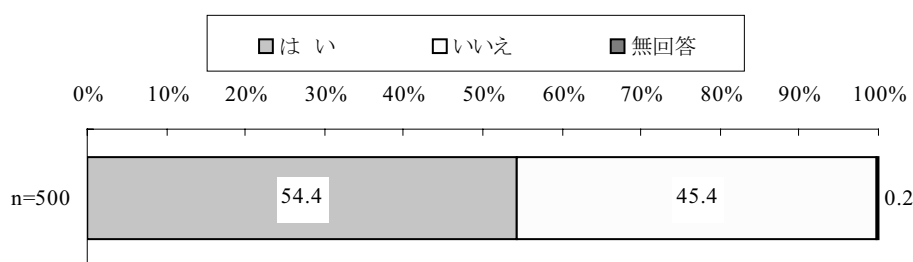
分娩介助件数が多くなるにつれて、「経験あり」の業務が概ね増える傾向にある。

分娩介助件数が20件未満の者は、それぞれの業務について「経験あり」と回答する割合が少ない。

「退院後の訪問指導」「ハイリスク新生児のケア(NICU)」「不妊相談」「中高年相談」については、分娩介助件数が1000件以上であっても、「経験あり」と回答する割合が他の業務に比べて低い。

3. 就業状況

問14 現在離職中ですか



「現在離職中ですか」の問いに、全体では「はい」が54.4%、「いいえ」が45.4%と回答している。

4. 離職期間

問 15 前回の職場を退職してからの離職期間はどれぐらいですか

問 14 現在離職中ですか：はい

全体 n=272	～1年	1～3年	3～5年	5～10年	10～15年	15年～	無回答	平均離職期間
100.0%	31.6	22.1	14.7	15.1	7.7	7.0	1.8	4.6年

(別掲) 産科診療所での就業意向：是非働きたい・選択肢として考えたい

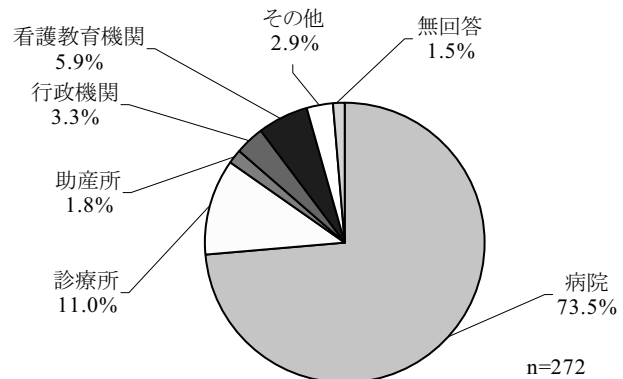
全体 n=180	～1年	1～3年	3～5年	5～10年	10～15年	15年～	無回答	平均離職期間
100.0%	30.0	23.3	13.3	16.7	8.3	7.2	1.1	4.8年

「前回の職場を退職してからの離職期間はどれぐらいですか」の問いに、全体では「1年未満」が31.6%、「1～3年未満」が22.1%と回答し、83.5%が10年未満である。

5. 退職前職場施設

問 16 退職前に働いていた職場はどのような施設ですか

問 14 現在離職中ですか：はい



「退職前に働いていた職場はどのような施設ですか」の問いに、全体では「病院」が73.5%、「診療所」が11.0%と回答している。

6. 退職理由

問 17 前回の職場を退職した理由は何ですか（複数回答）

問 14 現在離職中ですか：はい

(%)

離職理由	n=272	(別掲) 退職前の職場：診療所 n=30
結婚	22.8	13.3
出産・育児	23.9	10.0
家族の健康・介護	9.2	13.3
自分の健康	18.8	36.7
定年	4.4	3.3
転居	13.2	3.3
進学	3.7	6.7
留学	0.4	0.0
夫の転勤	16.9	10.0
給与が安い	3.3	13.3
施設の閉鎖等による雇用者側の都合	5.1	13.3
雇用形態への不満	5.9	10.0
勤務時間が長い・残業が多い	14.3	16.7
休暇が取れない	9.6	16.7
夜勤負担が大きい	13.2	10.0
通勤時間がかかる	5.1	6.7
業務負担が大きい	12.9	20.0
同僚との関係が悪い	3.7	10.0
上司や雇用者との関係が悪い	5.9	10.0
分娩を扱っていないため助産師としての業務ができない	3.3	6.7
経営理念（看護理念）や方針に不満	7.7	23.3
自立性や専門性が認められないなど業務内容に不満	7.0	13.3
仕事への興味ややりがいを持っていない	3.3	6.7
自分の適性への不安	5.5	3.3
技術が磨けないなどのキャリアアップの機会がない	3.3	3.3
責任の重さや医療事故への不安	13.6	13.3
他の職場への興味	4.0	6.7
医療のIT化についていけない	1.1	0.0
その他	14.0	13.3
無回答	0.7	0.0

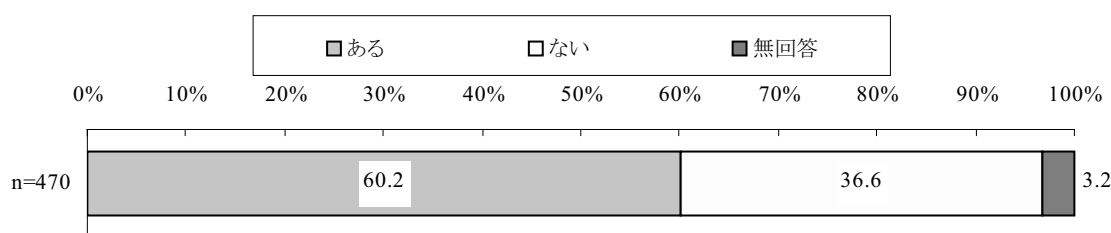
「前回の職場を退職した理由は何ですか」の問いに、「出産・育児」が 23.9%、「結婚」22.8%、「自分の健康」18.8%「夫の転勤」16.9%、「勤務時間が長い・残業が多い」14.3%、「責任の重さや医療事故への不安」13.6%、「転居」13.2%、「夜勤負担が大きい」13.2%、「業務負担が大きい」12.9%などが1割以上と回答している。

前回の職場が「診療所」と回答した者の退職理由は、全体と比べると「結婚」「出産・育児」「転居」を理由とする割合が低い。反対に「自分の健康」「経営理念（看護理念）や方針に不満」「給与が安い」「施設の閉鎖等による雇用者側の都合」「業務負担が大きい」といった割合が高く、なかでも退職理由の上位2項目「自分の健康」「経営理念（看護理念）や方針に不満」と回答した割合は全体と比較して特に高い。

7. 他職場での就労経験

問18 助産師として働くようになってから、看護師など他の職種で働いた経験はありますか

問13 あなたが助産師として働いた通算経験年数はどれくらいですか：助産師として働いた経験がある

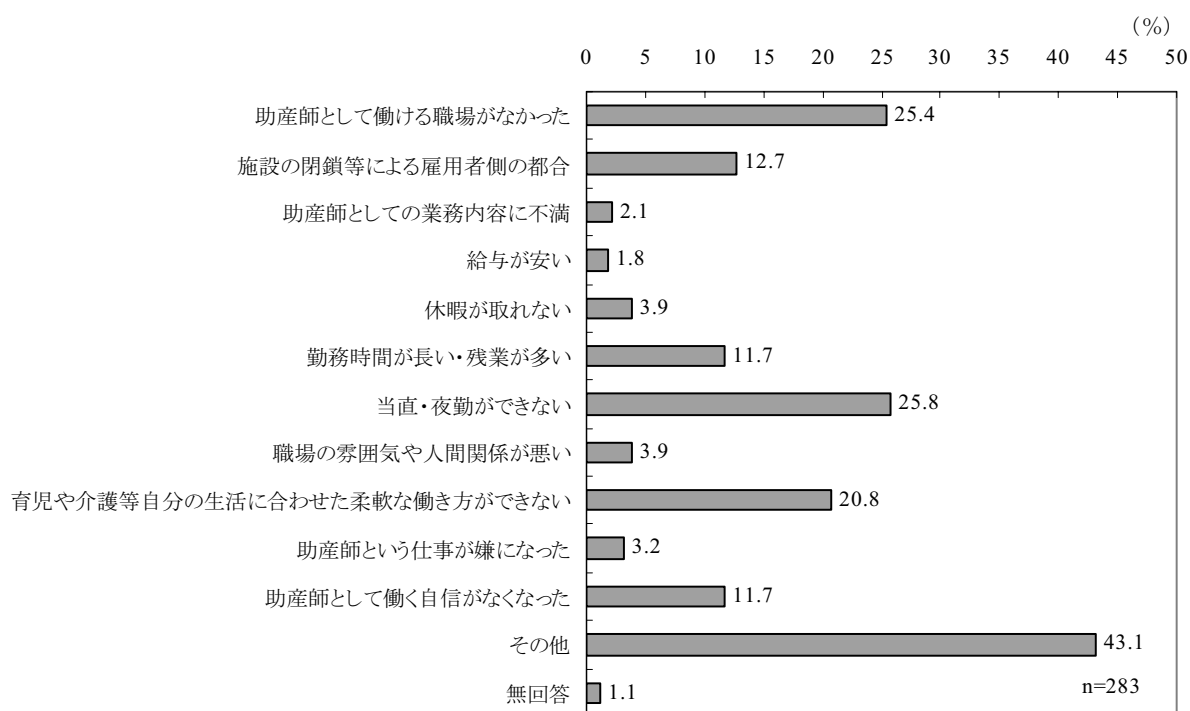


「助産師として働くようになってから、看護師など他の職種で働いた経験はありますか」の問いに、全体では「ある」が60.2%、「ない」が36.6%と回答している。

問18-1 助産師として働かなかった理由は何ですか（複数回答）

問13 あなたが助産師として働いた通算経験年数はどれくらいですか：助産師として働いた経験がある

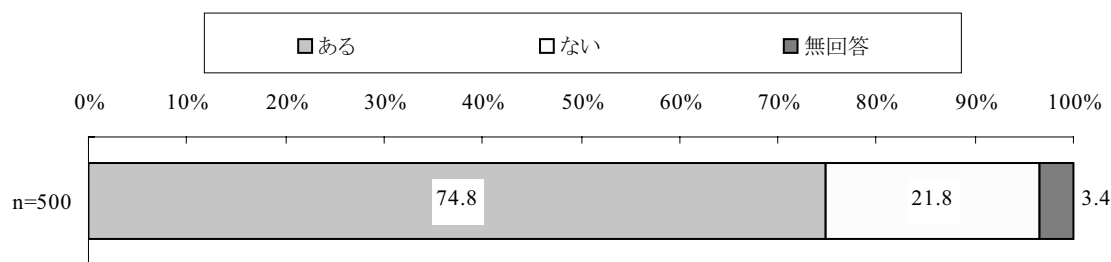
問18 助産師として働くようになってから、看護師など他の職種で働いた経験はありますか：ある



「助産師として働かなかった理由」の問いに、「当直・夜勤ができない」が25.8%、「助産師として働ける職場がなかった」25.4%、「育児や介護等自分の生活に合わせた柔軟な働き方ができない」20.8%などが、20%以上回答している。また、その他の理由としては、人事異動をあげている者が複数いる。

8. 転職経験

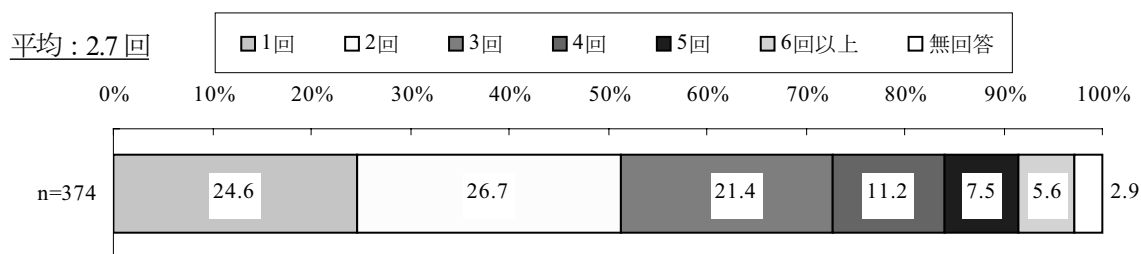
問 19 今までに職場を変った経験はありますか



「今までに職場を変った経験はありますか」の問いに、全体では「ある」が74.8%、「ない」が21.8%と回答している。

問 19-1 職場を変った回数は合計何回ですか

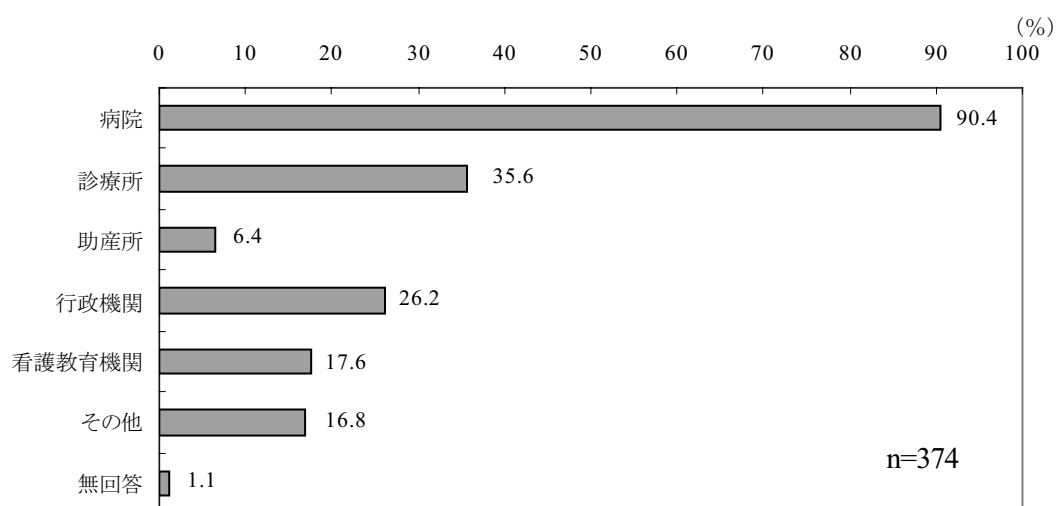
問 19 今までに職場を変った経験はありますか：ある



「職場を変った回数は合計何回ですか」の問いに、全体では「2回」が26.7%、「1回」が24.6%と回答している。

問 19-2 あなたが今までに働いたことのある職場は、どのような施設ですか（複数回答）

問 19 今までに職場を変った経験はありますか：ある



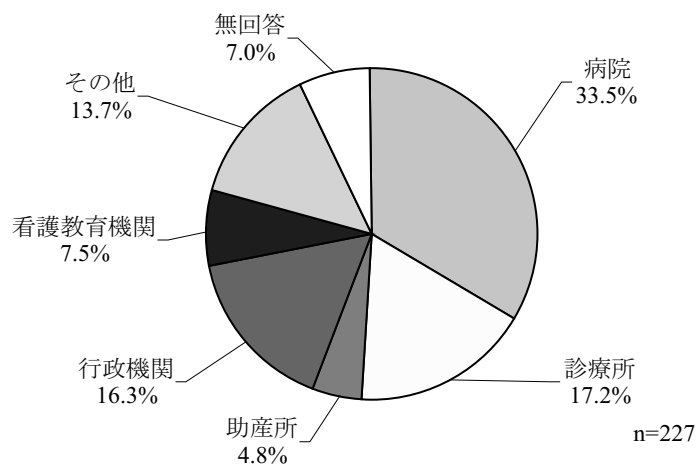
「あなたが今までに働いたことのある職場は、どのような施設ですか」の問いに、全体では「病院」が90.4%、「診療所」が35.6%と回答している。

V 現就業状況について

1. 現在就業中の職場

問20 あなたが現在働いている職場はどのような施設ですか

問14 現在離職中ですか：いいえ

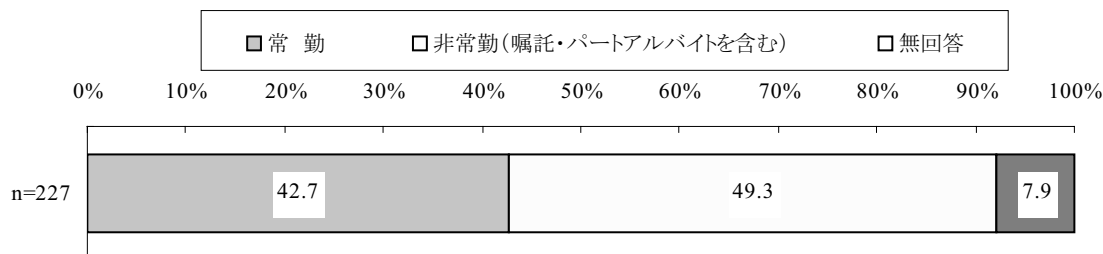


「あなたが現在働いている職場はどのような施設ですか」の問いに、全体では「病院」が33.5%、「診療所」が17.2%、「行政機関」が16.3%と回答している。

2. 勤務形態

問21 現在の勤務形態は何ですか

問14 現在離職中ですか：いいえ



「現在の勤務形態は何ですか」の問いに、全体では「常勤」が42.7%、「非常勤（嘱託・パートアルバイトを含む）」が49.3%と回答している。

3. 勤続年数

問22 あなたが現在の職場に就職して2005年12月時点で勤続何年何ヶ月になりますか

問14 現在離職中ですか：いいえ

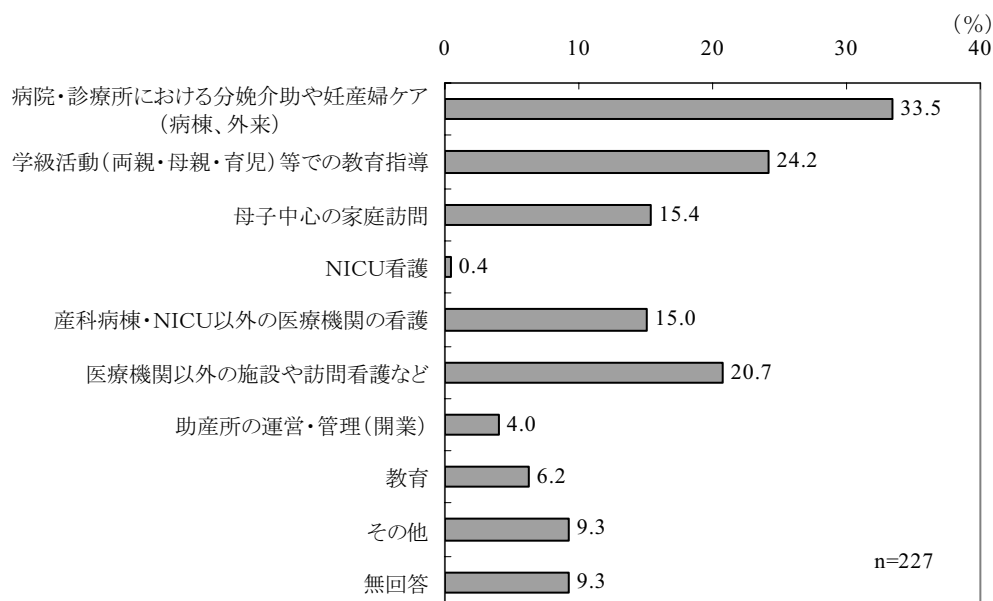
全体 n=227	1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10年以上	無回答
100.0%	34.4	17.6	15.9	13.2	10.1	8.8

「あなたが現在の職場に就職して2005年12月時点で勤続何年何ヶ月になりますか」の問いに、全体では「1年未満」が34.4%、「1～3年未満」が17.6%と回答している。

4. 関与業務

問23 あなたは現在の職場でどのような業務に携わっていますか（複数回答）

問14 現在離職中ですか：いいえ

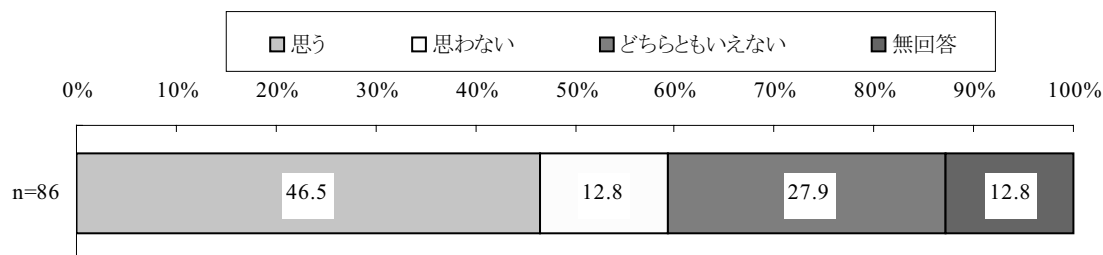


「あなたは現在の職場でどのような業務に携わっていますか」の問いに、「病院・診療所における分娩介助や妊産婦ケア（病棟、外来）」が 33.5%、「学級活動（両親・母親・育児）等での教育指導」24.2%、「医療機関以外の施設や訪問看護など」20.7%、「母子中心の家庭訪問」15.4%、「産科病棟・NICU 以外の医療機関の看護」15.0%などが 15.0%以上と回答している。

問23-1 分娩介助等、助産師として携われる業務につきたいと思いますか

問14 現在離職中ですか：いいえ

問23 あなたは現在の職場でどのような業務に携わっていますか：助産師としての業務に携わっていない



「分娩介助等、助産師として携われる業務につきたいと思いますか」の問いに、全体では「思う」が 46.5%、「思わない」が 12.8%と回答している。

5. 現職場選択理由

問24 現在の職場を選んだ理由について

問14 現在離職中ですか: いいえ

(%)

理由	n=227	(別掲) 現在働いている職場: 診療所 n=39
業務内容に満足している	18.5	12.8
通勤の便がよい	39.6	53.8
施設の運営・経営理念があっている	6.6	5.1
納得のできる看護ができる	7.0	5.1
日勤のみの勤務である	33.9	46.2
給与水準が高い	14.1	15.4
職場の雰囲気がよい	15.9	15.4
職場の人間関係がよい	18.5	25.6
教育・研究体制がしっかりしている	6.6	0.0
周囲に適した職場がない	19.4	33.3
休暇制度が充実している	7.9	7.7
業務の責任体制がしっかりしている	6.6	5.1
医療事故・傷害事故対策がしっかりしている	1.8	0.0
管理者などの人柄がよい	12.8	15.4
託児所があり子どもをあずけて働ける	0.4	0.0
体制が整っており、子育てと仕事の両立がしやすい	3.1	0.0
特になし	3.1	2.6
その他	24.2	17.9
無回答	19.8	10.3

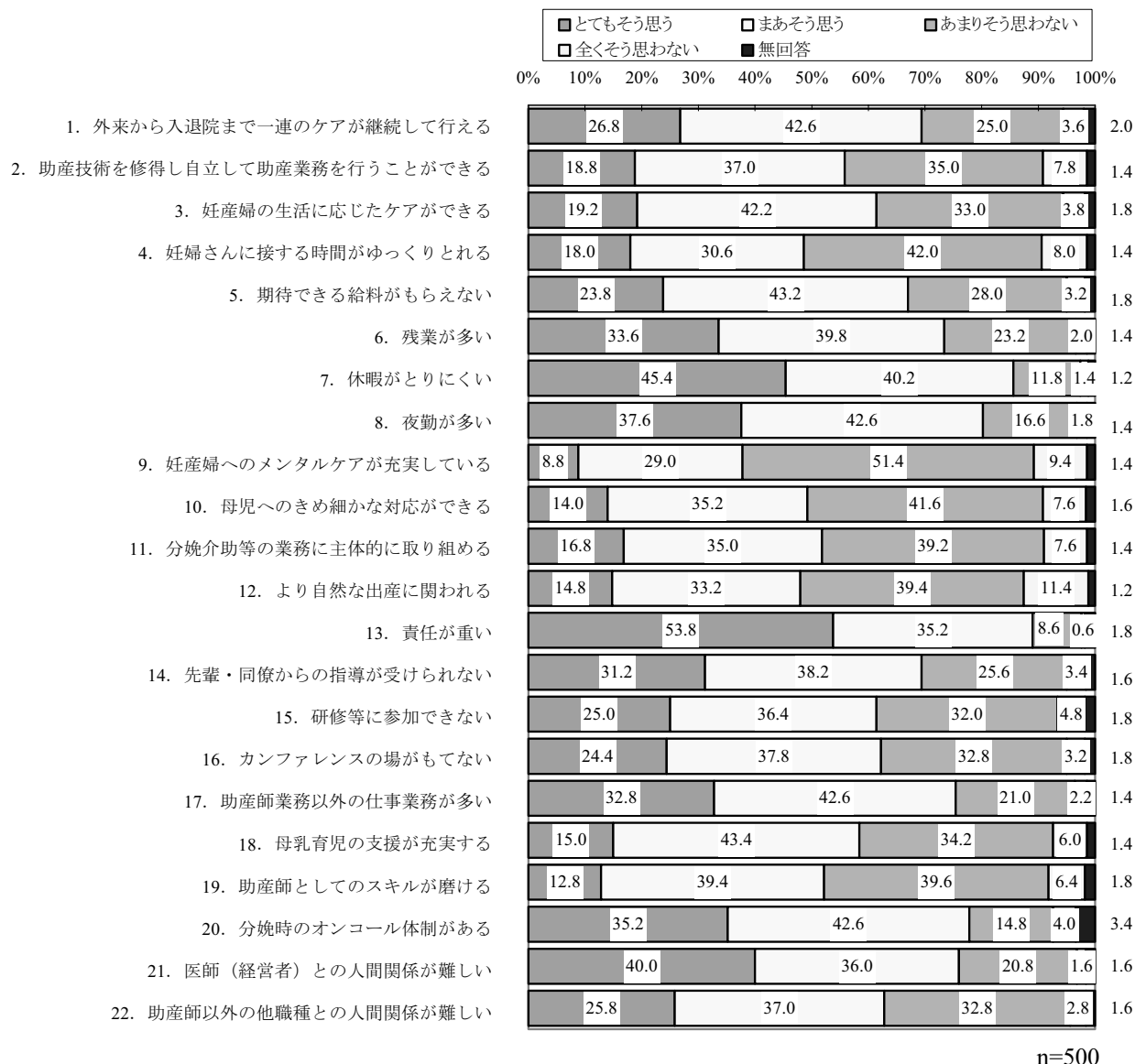
「現在の職場を選んだ理由について」の問いに、「通勤の便がよい」が39.6%、「日勤のみの勤務である」33.9%、「周囲に適した職場がない」19.4%、「業務内容に満足している」18.5%、「職場の人間関係がよい」18.5%、「職場の雰囲気がよい」15.9%などが15.0%以上と回答している。

現在、診療所に勤務している者についてみると、「通勤の便がよい」53.8%、「日勤のみの勤務である」46.2%、「周囲に適した職場がない」33.3%の順で、全体からみた理由の上位と一致している。

産科診療所で就業している者と全体との比較では、「通勤の便がよい」「日勤のみの勤務である」「周囲に適した職場がない」といった理由の上位は同じであるが、その割合が全体的に高い。

VI 産科診療所のイメージについて

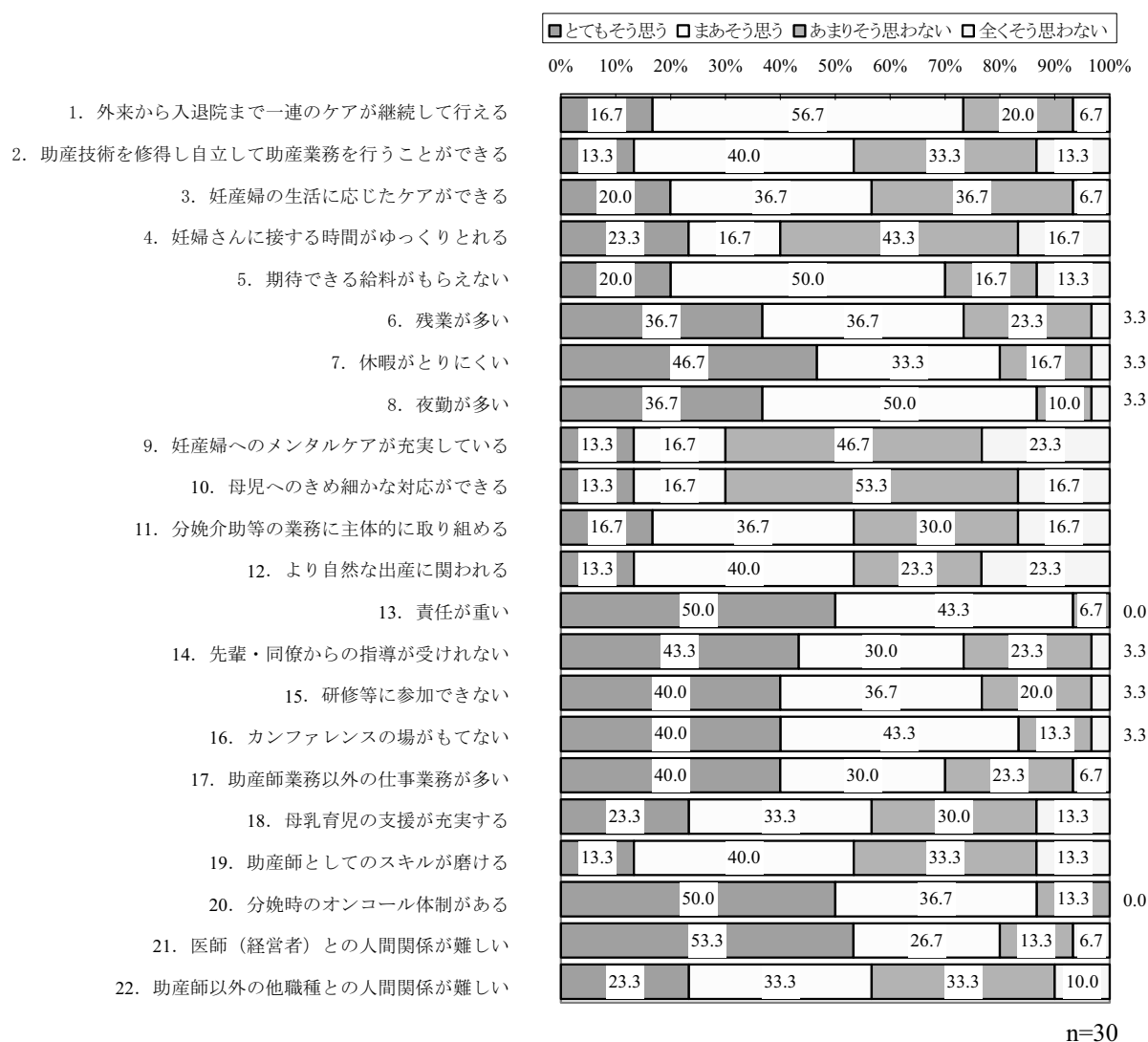
問 25 あなたが抱く産科診療所に対するイメージ（全体）



「あなたが抱く産科診療所に対するイメージ」の問いに、「とてもそう思う」と回答した項目では、「責任が重い」53.8%、「休暇がとりにくい」45.4%、「医師（経営者）との人間関係が難しい」40.0%、「夜勤が多い」37.6%、「分娩時のオンコール体制がある」35.2%、「残業が多い」33.6%、「助産師業務以外の仕事業務が多い」32.8%、「先輩・同僚からの指導が受けられない」31.2%などが30%以上と回答している。

また、「残業が多い」「休暇がとりにくい」「夜勤が多い」といった業務体制に対するネガティブなイメージを肯定する割合が高い。一方、2、3、4、9、10、11、12、18といった助産師としての能力を活かせるようなイメージに対しては否定的な回答の割合が高い。

問 25 あなたが抱く産科診療所に対するイメージ（退職前に働いていた職場が診療所である者）



「退職前に働いていた職場が診療所である者」と「回答者全体」とのイメージを比較すると、「先輩・同僚からの指導が受けられない」「研修等に参加できない」「カンファレンスの場がもてない」「分娩時のオンコール体制がある」「医師（経営者）との人間関係が難しい」などは「退職前に働いていた職場が診療所である者」のほうが全体と比べて「とてもそう思う」と回答した割合が高い。

反対に、「期待できる給料がもらえない」「妊産婦へのメンタルケアが充実している」「母児へのきめ細かな対応ができる」「分娩介助等の業務に主体的に取り組める」「より自然な出産に関われる」などは「退職前に働いていた職場が診療所である者」のほうが全体と比べて「全くそう思わない」と回答した割合が高い。

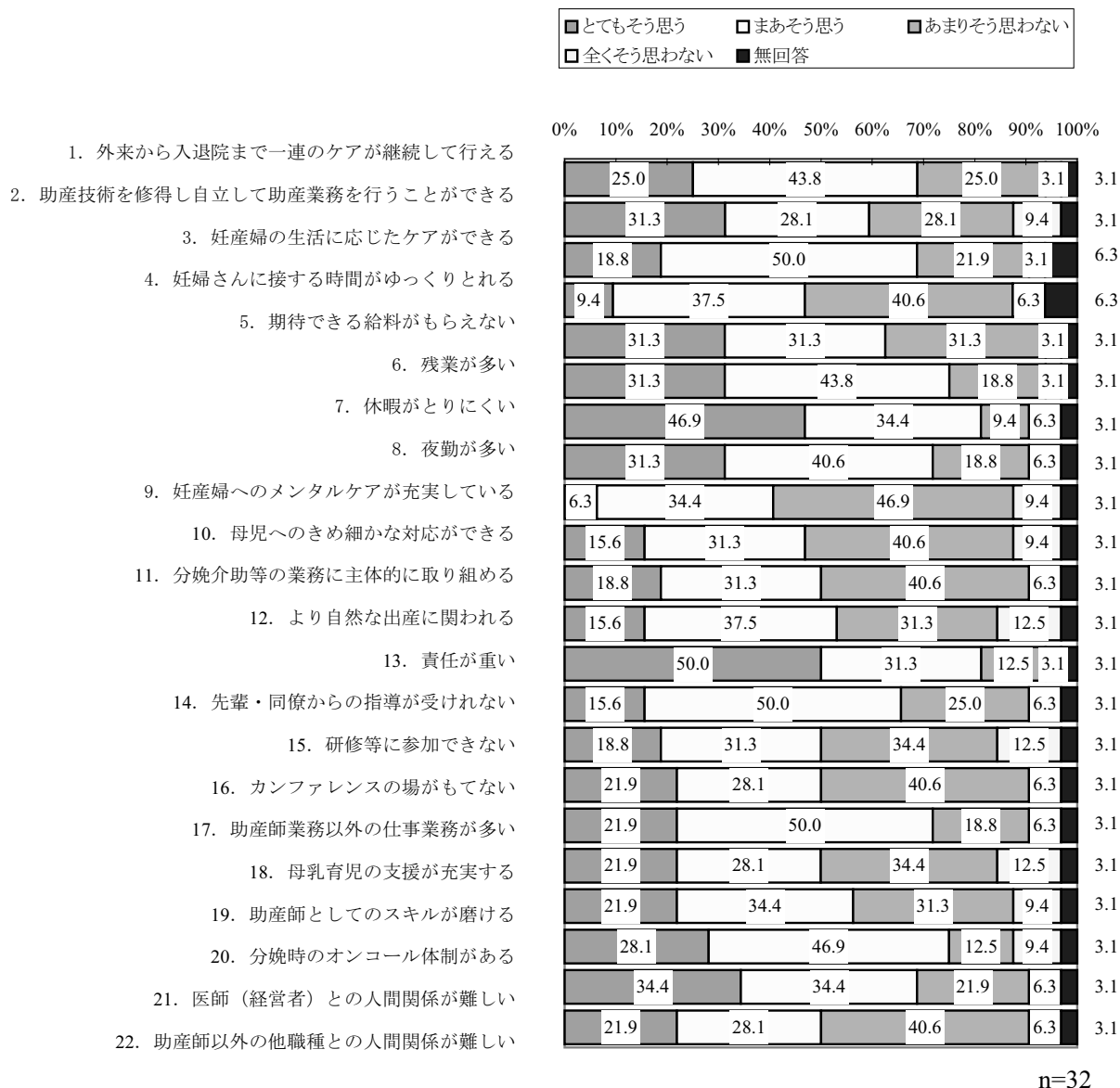
問25 あなたが抱く産科診療所に対するイメージ（診療所で働いたことがある者）



n=133

「診療所で働いたことがある者」と「回答者全体」とのイメージを比較すると、どちらの結果も同じような傾向がみられる。

問 25 あなたが抱く産科診療所に対するイメージ（基礎教育－看護系大学）



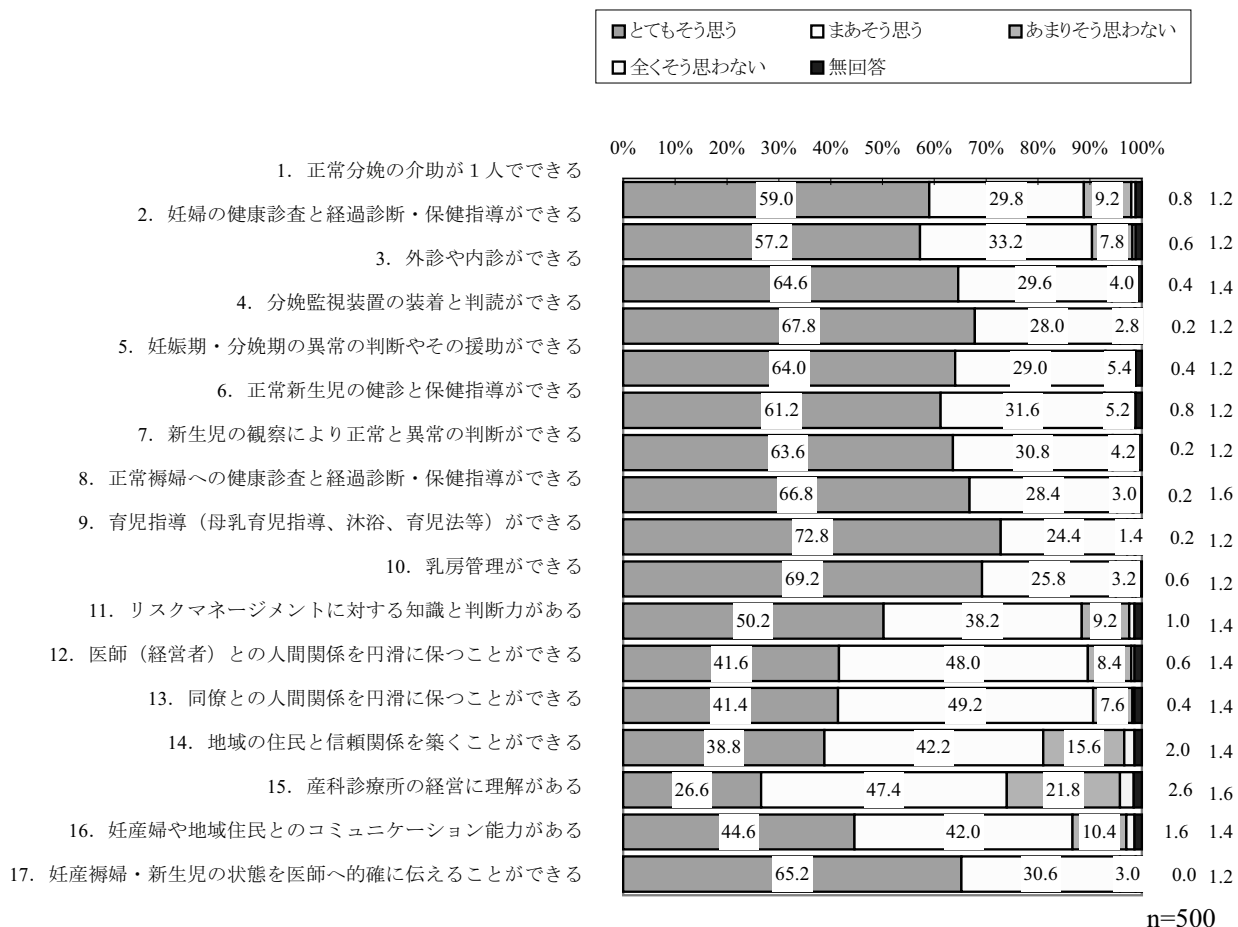
「基礎教育を受けた学校が大学の者」と「回答者全体」とのイメージを比較すると、「助産技術を修得し自立して助産業務を行うことができる」「助産師としてのスキルが磨ける」などは「基礎教育を受けた学校が大学の者」のほうが全体と比べて「とてもそう思う」と回答した割合が高い。

反対に、「妊婦さんに接する時間がゆつくりとれる」「先輩・同僚からの指導が受けれない」「研修等に参加できない」「助産師業務以外の仕事業務が多い」などは「基礎教育を受けた学校が大学の者」のほうが全体と比べて「とてもそう思う」と回答した割合が低い。

また、「妊産婦の生活に応じたケアができる」「助産師以外の他職種との人間関係が難しい」などは、「基礎教育を受けた学校が大学の者」で「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と否定的な回答をした割合が低い。

Ⅶ 期待される助産師の能力

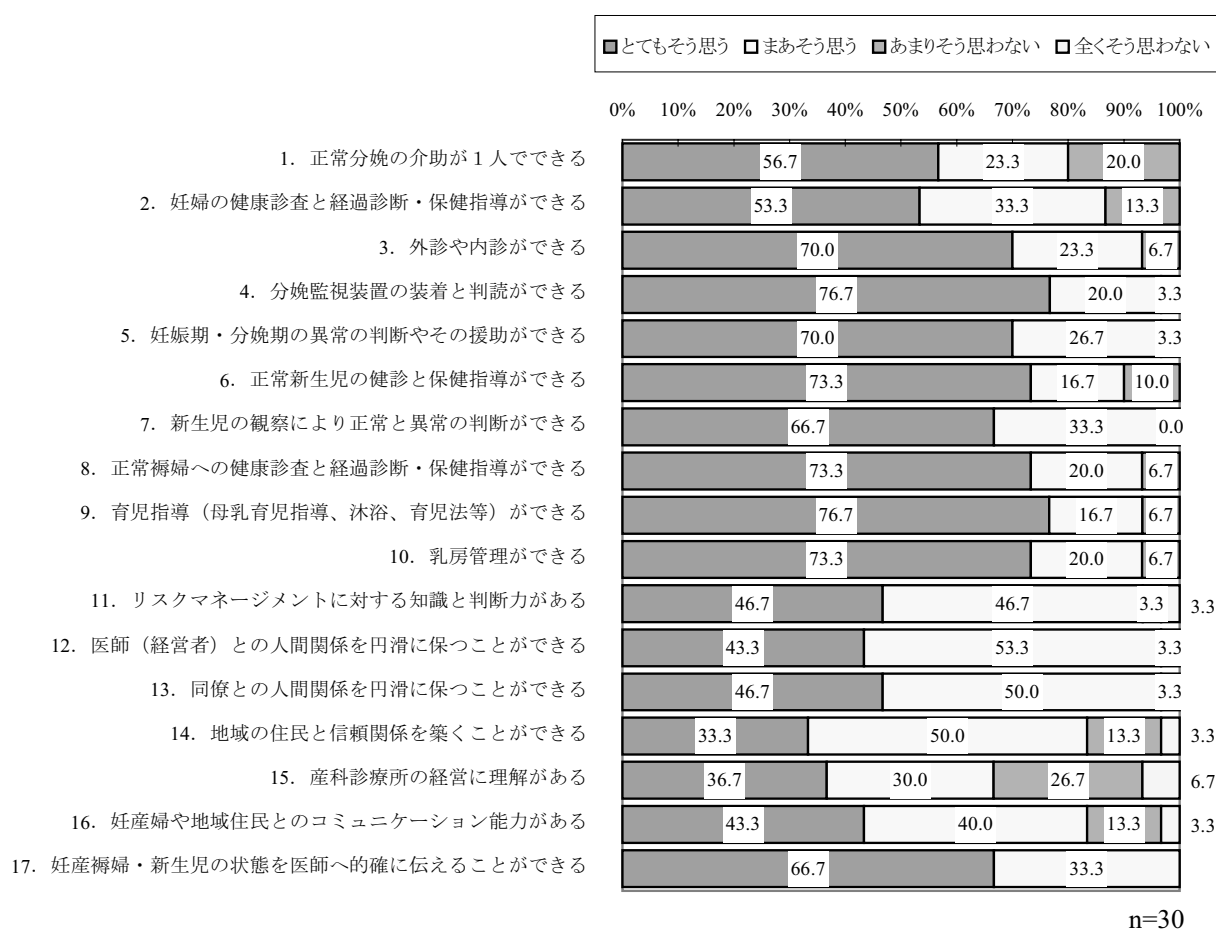
問 26 産科診療所で期待される助産師の能力（全体）



「産科診療所で期待される助産師の能力は」の問いに、全項目で「とてもそう思う」「まあそう思う」と回答した割合は74%以上である。なかでも「とてもそう思う」と回答した項目では、「育児指導（母乳育児指導、沐浴、育児法等）ができる」が72.8%、「乳房管理ができる」69.2%、「分娩監視装置の装着と判読ができる」67.8%、「正常褥婦への健康診査と経過診断・保健指導ができる」66.8%「妊産褥婦・新生児の状態を医師への確に伝えることができる」65.2%、「外診や内診ができる」64.6%、「妊娠期・分娩期の異常の判断やその援助ができる」64.0%「新生児の観察により正常と異常の判断ができる」63.6%、「正常新生児の健診と保健指導ができる」61.2%などが60%以上と回答している。

1～11、17といった助産師としての実践能力に関する項目に「とてもそう思う」と回答する割合が50%を上回るのに対し、「医師との人間関係を円滑に保つことができる」「同僚との人間関係を築くことができる」「地域の住民と信頼関係を築くことができる」「産科診療所の経営に理解がある」「妊産婦や地域住民とのコミュニケーション能力がある」に「とてもそう思う」と回答する割合は50%以下である。

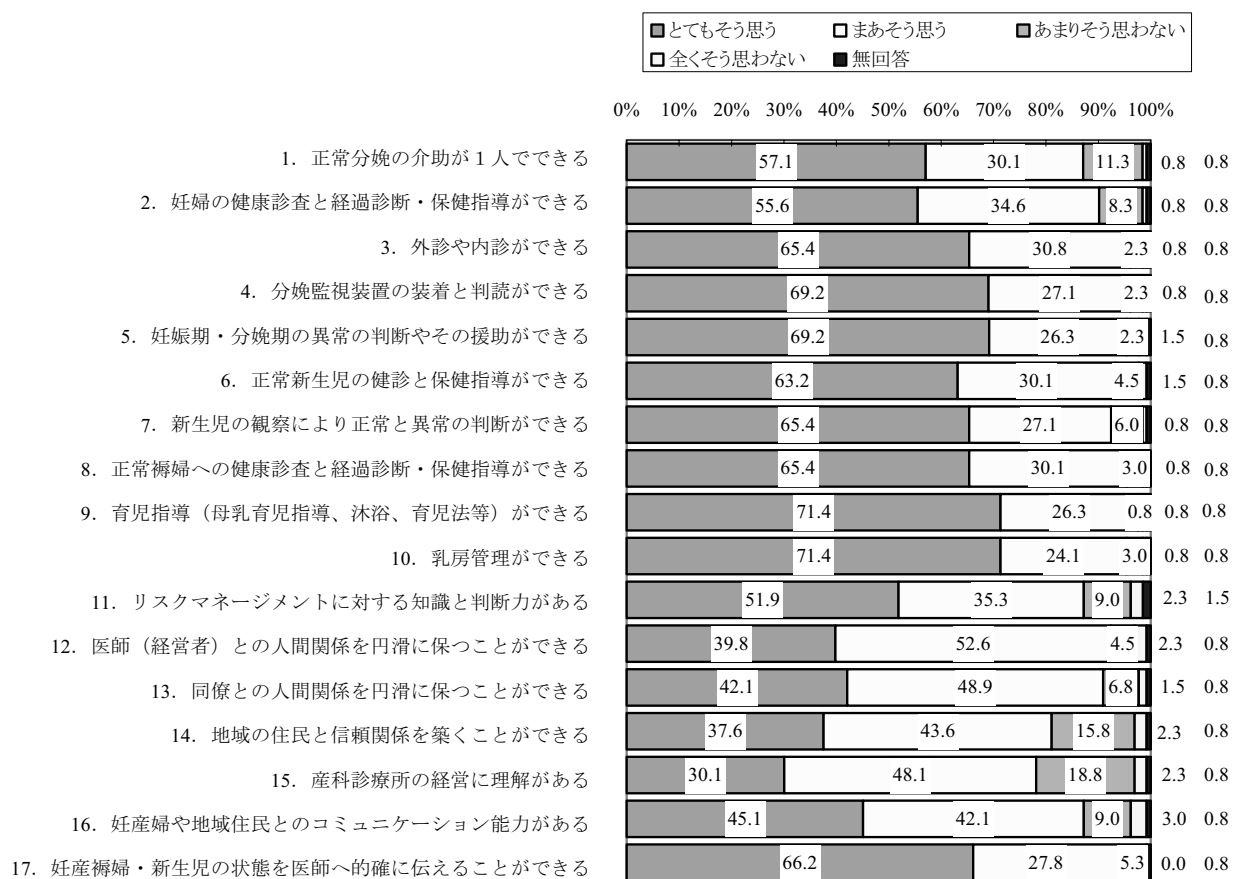
問 26 産科診療所で期待される助産師の能力（退職前の職場が診療所の者）



「退職前に働いていた職場が診療所である者」と「回答者全体」との期待される助産師の能力を比較すると、「産科診療所の経営に理解がある」について、「退職前に働いていた職場が診療所である者」のほうが全体と比べて「とてもそう思う」と回答した割合が高い。

反対に、「正常分娩の介助が1人で行える」については、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と否定的な回答をした割合が高い。

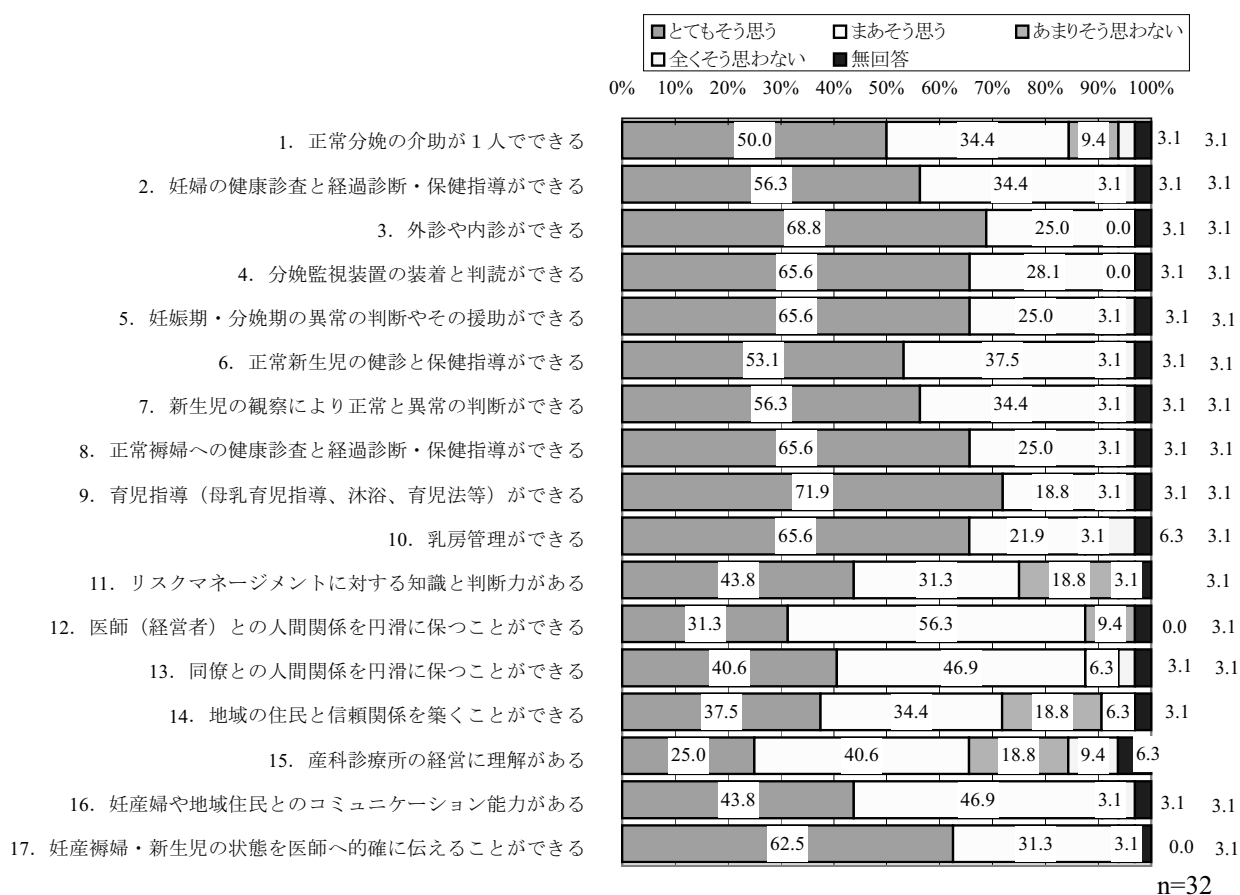
問 26 産科診療所で期待される助産師の能力（診療所で働いたことがある者）



n=133

「診療所で働いたことがある者」と「回答者全体」で期待される助産師の能力を比較すると、どちらの結果も同じような傾向がみられる。

問 26 産科診療所で期待される助産師の能力（基礎教育—看護系大学）



「基礎教育をうけた学校が大学の者」と「回答者全体」で期待される助産師の能力を比較すると、「とてもそう思う」と回答した割合は、全体的に「基礎教育をうけた学校が大学の者」のほうが低い傾向にある。外診や内診ができる」「妊娠期・分娩期の異常や判断やその援助ができる」は「基礎教育をうけた学校が大学の者」のほうが全体と比べて「とてもそう思う」と回答した割合が高い。

反対に、「リスクマネジメントに対する知識と判断力がある」は「基礎教育をうけた学校が大学の者」で「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と否定的な回答をした割合が高い。

VIII 就業の際の条件について

1. 産科診療所での就業意向

問27 あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか

問14&問23 あなたは産科診療所で助産師として就業していますか：産科診療所で助産師として就業していない

(%)

		合計	是非働きたい	選択肢として考えたい	気がすすまない	働く意向はまったくない	無回答
	全体 (n=358)	100.0	8.9	56.4	17.3	14.5	2.8
(別掲) 現在の生活における収入源	自分 (n=72)	100.0	4.2	55.6	19.4	18.1	2.8
	夫や家族 (n=190)	100.0	12.6	61.6	12.6	12.6	0.5
	自分と夫や家族 (n=92)	100.0	4.3	47.8	23.9	16.3	7.6
(別掲) 現在の生活状況	自分が働かなくても経済的に余裕がある (n=93)	100.0	7.5	48.4	14.0	28.0	2.2
	自分が働かなくても経済的にやっていけるが余裕はない (n=150)	100.0	9.3	62.0	18.0	8.0	2.7
	自分が働かないと経済的にやっていけない (n=37)	100.0	18.9	59.5	13.5	2.7	5.4
(別掲) 昼間や夜間に子ども(12歳以下)の世話をしてくれる家族や保育者等の有無	あり (n=51)	100.0	7.8	62.7	19.6	7.8	2.0
	なし (n=98)	100.0	13.3	67.3	13.3	5.1	1.0
(別掲) 助産師免許を取得するための基礎教育	看護系大学 (n=17)	100.0	17.6	52.9	11.8	11.8	5.9
	看護系短大専攻科 (n=95)	100.0	7.4	57.9	21.1	11.6	2.1
	助産師養成所 (n=244)	100.0	9.0	55.7	16.4	16.0	2.9
(別掲) 居住地近く(車で30分以内)で分娩を取り扱っている産科診療所の有無	ある (n=303)	100.0	10.2	57.1	17.5	12.2	3.0
	ない (n=26)	100.0	0.0	50.0	15.4	30.8	3.8
	わからない (n=25)	100.0	4.0	48.0	20.0	28.0	0.0
(別掲) 退職前の職場	病院 (n=200)	100.0	10.0	62.5	15.5	10.5	1.5
	診療所 (n=30)	100.0	20.0	43.3	23.3	13.3	0.0
	助産所 (n=5)	100.0	20.0	60.0	0.0	20.0	0.0
	行政機関 (n=9)	100.0	11.1	11.1	22.2	44.4	11.1
	看護教育機関 (n=16)	100.0	0.0	31.3	31.3	37.5	0.0
(別掲) 働いたことのある施設	診療所 (n=64)	100.0	14.1	43.8	21.9	17.2	3.1
(別掲) 現在働いている施設	病院 (n=25)	100.0	4.0	56.0	16.0	12.0	12.0
	行政機関 (n=10)	100.0	0.0	30.0	60.0	0.0	10.0
	看護教育機関 (n=14)	100.0	7.1	71.4	21.4	0.0	0.0

「あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか」の問いに、全体では「是非働きたい」「選択肢として考えたい」をあわせるとが65.3%、「気がすすまない」が17.3%と回答している。

現在の収入源が、「夫や家族」と回答している者の就業意向が高い。

生活状況では、「自分が働かなくても経済的に余裕がある」の就業意向の割合が低く、「自分が働かないと経済的にやっていけない」の割合が高い。

昼間や夜間に子ども(12歳以下)の世話をしてくれる家族や保育者等がある者となない者では、ないと回答している者のほうが、就業意向が高い。

看護系大学は、診療所で「是非働きたい」と回答する割合が高い。

退職前の職場が「診療所」「助産所」としている者は産科診療所で「是非働きたい」と回答する割合が高い。

2. 希望する勤務形態

問 28 働くとしたら、どのような勤務形態を希望しますか

問 14&問 23 あなたは産科診療所で助産師として就業していますか：産科診療所で助産師として就業していない

問 27 あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか：「働く意向はまったくない」以外

(%)

		合計	常勤	非常勤 (嘱託・パート・アルバイトを含む)	無回答
	全体 (n=296)	100.0	31.4	68.2	0.3
(別掲) 現在の生活における収入源	自分 (n=57)	100.0	61.4	38.6	0.0
	夫や家族 (n=165)	100.0	20.6	79.4	0.0
	自分と夫や家族 (n=70)	100.0	32.9	65.7	1.4
(別掲) 現在の生活状況	自分が働かなくても経済的に余裕がある (n=65)	100.0	23.1	76.9	0.0
	自分が働かなくても経済的にやっていたいけるが余裕はない (n=134)	100.0	20.1	79.1	0.7
	自分が働かないと経済的にやっていけない (n=34)	100.0	41.2	58.8	0.0
(別掲) 昼間や夜間に子ども (12 歳以下) の世話をしてくれる家族や保育者等の有無	あり (n=46)	100.0	21.7	76.1	2.2
	なし (n=92)	100.0	20.7	79.3	0.0

「働くとしたら、どのような勤務形態を希望しますか」の問いに、「非常勤 (嘱託・パート・アルバイトを含む)」と 68.2%が回答している。収入源が「夫や家族」あるいは「自分が働かなくても経済的にやっていたいける」と回答した者は、非常勤の希望が多い。

12 歳以下の子供がいる者は、世話をしてくれる者の有無に関わらず、非常勤の希望が多い。

3. 希望する勤務日数

問 29 勤務日数について

問 14&問 23 あなたは産科診療所で助産師として就業していますか：産科診療所で助産師として就業していない

問 27 あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか：「働く意向はまったくない」以外

(%)

		合計	週に 5 日程 程度	週 3 ～ 4 日程	週 1 ～ 2 日程	その他	無回答
	全体 (n=296)	100.0	39.9	47.3	10.5	1.7	0.7
(別掲) 現在の生活における収入源	自分 (n=57)	100.0	57.9	26.3	10.5	5.3	0.0
	夫や家族 (n=165)	100.0	31.5	56.4	10.3	1.2	0.6
	自分と夫や家族 (n=70)	100.0	45.7	41.4	11.4	0.0	1.4
(別掲) 現在の生活状況	自分が働かなくても経済的に余裕がある (n=65)	100.0	23.1	60.0	13.8	1.5	1.5
	自分が働かなくても経済的にやっていたいけるが余裕はない (n=134)	100.0	35.1	53.0	10.4	0.7	0.7
	自分が働かないと経済的にやっていけない (n=34)	100.0	61.8	32.4	5.9	0.0	0.0
(別掲) 昼間や夜間に子ども (12 歳以下) の世話をしてくれる家族や保育者等の有無	あり (n=46)	100.0	32.6	56.5	6.5	2.2	2.2
	なし (n=92)	100.0	34.8	59.8	4.3	1.1	0.0

「勤務日数について」の問いに、「週 3～4 日程」が 47.3%、「週に 5 日程」が 39.9%と回答している。

収入源が「自分」あるいは「自分が働かないと経済的にやってはいけない」と回答した者は、週の勤務日数が多い。

12 歳以下の子供を持つものは、週 3～4 日程を希望する割合が高い。

4. 希望する勤務時間

問30 1日の勤務時間について

問14&問23 あなたは産科診療所で助産師として就業していますか：産科診療所で助産師として就業していない

問27 あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか：「働く意向はまったくない」以外 (%)

		合計	7 ～ 8 時間	5 ～ 6 時間	3 ～ 4 時間	その他	無 回 答
	全体 (n=296)	100.0	44.6	39.5	14.9	0.3	0.7
(別掲) 現在の生活における収入源	自分 (n=57)	100.0	71.9	24.6	1.8	1.8	0.0
	夫や家族 (n=165)	100.0	30.3	45.5	23.6	0.0	0.6
	自分と夫や家族 (n=70)	100.0	54.3	38.6	5.7	0.0	1.4
(別掲) 現在の生活状況	自分が働かなくても経済的に余裕がある (n=65)	100.0	38.5	40.0	20.0	0.0	1.5
	自分が働かなくても経済的にやっていたり余裕はない (n=134)	100.0	32.8	47.8	18.7	0.0	0.7
	自分が働かないと経済的にやっていない (n=34)	100.0	52.9	35.3	11.8	0.0	0.0
(別掲) 昼間や夜間に子ども(12歳以下)の世話をしてくれる家族や保育者等の有無	あり (n=46)	100.0	34.8	43.5	19.6	0.0	2.2
	なし (n=92)	100.0	27.2	51.1	21.7	0.0	0.0

「1日の勤務時間について」の問いに、「7～8時間」が44.6%、「5～6時間」が39.5%と回答している。

収入源が「自分」あるいは「自分が働かなくて経済的にやっていたり余裕はない」と回答した者は、長い就労時間を希望する割合が高い。

12歳以下の子供を持つ者は、「1日5～6時間程度」の勤務を希望する割合が高い。

5. 希望勤務体制

問31 希望する勤務体制について

問14&問23 あなたは産科診療所で助産師として就業していますか：産科診療所で助産師として就業していない

問27 あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか：「働く意向はまったくない」以外 (%)

		合計	日勤のみ	月1～2 回程度の夜 勤なら可能	月3～5 回程度の夜 勤なら可能	月6～8 回程度の夜 勤なら可能	月9回以上 の夜勤で も可能	夜勤のみでも 可能	オンコールなら 可能	その他	無 回 答
	全体 (n=296)	100.0	64.2	15.2	10.8	3.4	1.0	2.4	0.3	1.4	1.4
(別掲) 現在の生活における収入源	自分 (n=57)	100.0	33.3	21.1	21.1	12.3	3.5	7.0	0.0	1.8	0.0
	夫や家族 (n=165)	100.0	78.2	10.3	6.7	1.8	0.0	0.6	0.6	0.6	1.2
	自分と夫や家族 (n=70)	100.0	54.3	22.9	12.9	0.0	1.4	2.9	0.0	2.9	2.9
(別掲) 現在の生活状況	自分が働かなくても経済的に余裕がある (n=65)	100.0	72.3	7.7	7.7	3.1	1.5	3.1	1.5	1.5	1.5
	自分が働かなくても経済的にやっていたり余裕はない (n=134)	100.0	75.4	14.2	6.7	0.0	0.0	0.7	0.0	1.5	1.5
	自分が働かないと経済的にやっていない (n=34)	100.0	52.9	26.5	14.7	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9
(別掲) 昼間や夜間に子ども(12歳以下)の世話をしてくれる家族や保育者等の有無	あり (n=46)	100.0	71.7	17.4	4.3	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3
	なし (n=92)	100.0	83.7	8.7	3.3	1.1	0.0	1.1	1.1	0.0	1.1

「希望する勤務体制について」の問いに、全体では「日勤のみ」が64.2%、「月1～2回程度の夜勤なら可能」が15.2%と回答している。

収入源が「夫や家族」あるいは「自分が働かなくても経済的にやっていたり余裕はない」と回答した者は、日勤のみを希望する割合が高い。

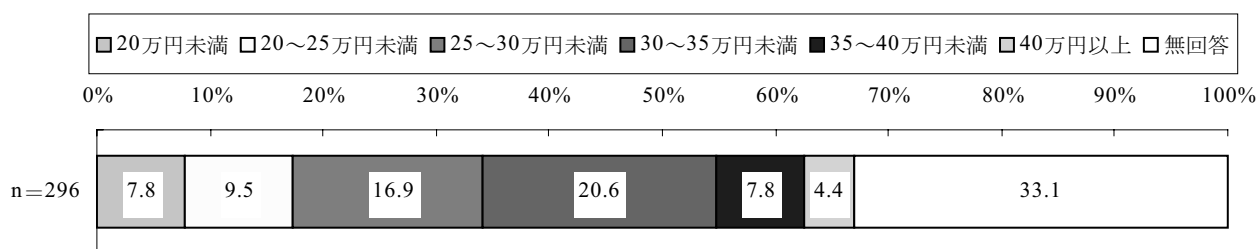
12歳以下の子供を持ち、子供の世話をしてくれる家族や保育者等がいない者は日勤のみを希望する割合が高い。

収入源が「自分」「自分や夫や家族」「自分が働かなくてやっていたり余裕はない」と回答している者は、全体との比較では夜勤ができる割合が高く、月の夜勤回数も多い。

6. 希望給与

問 32-1 希望給与額（税込み総支給額）／月給

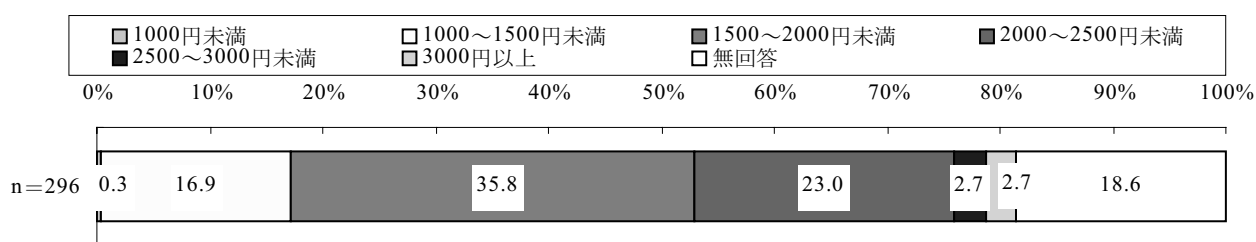
平均：268,762 円



「月給の希望給与額」の問いに、「30～35 万円未満」が 20.6%、「25～30 万円未満」が 16.9%と回答している。

問 32-2 希望給与額（税込み総支給額）／時給

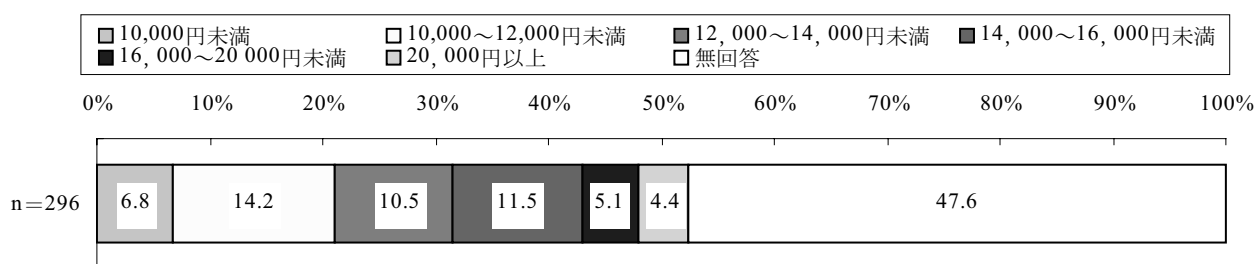
平均：1,721 円



「時給の希望給与額」の問いに、「1,500～2,000 円未満」が 35.8%、「2,000～2,500 円未満」が 23.0%と回答している。

問 32-3 希望給与額（税込み総支給額）／日給

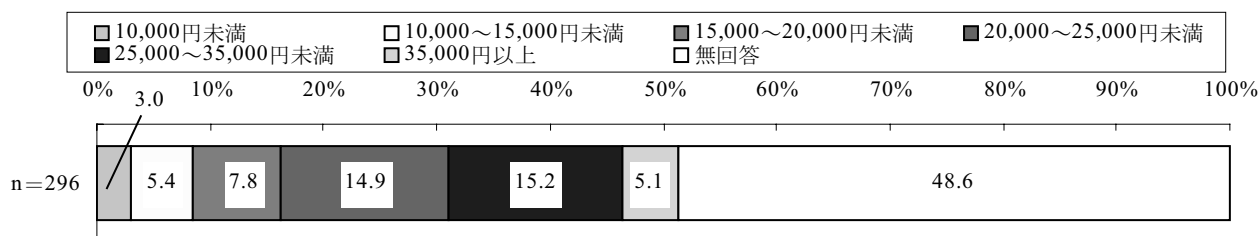
平均：13,343 円



「日給の希望給与額」の問いに、「10,000～12,000 円未満」が 14.2%、「14,000～16,000 円未満」が 11.5%と回答している。

問 32-4 希望給与額（税込み総支給額）／夜勤当直

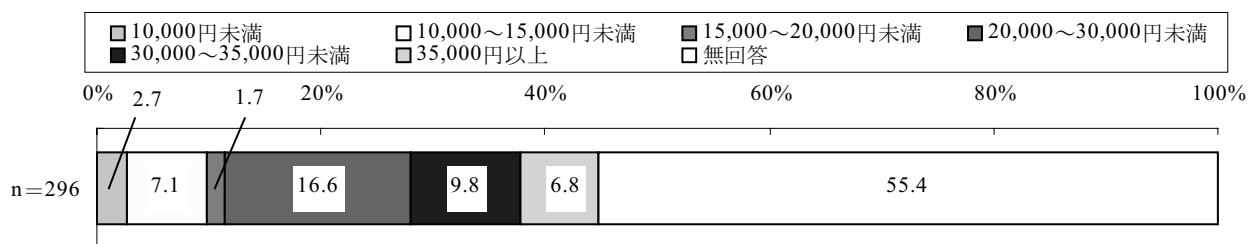
平均：22,474 円



「夜勤当直の希望給与額」の問いに、「25,000～35,000 円未満」が 15.2%、「20,000～25,000 円未満」が 14.9%と回答している。

問32-5 希望給与額（税込み総支給額）／分娩オンコール1件につき

平均：24,189円

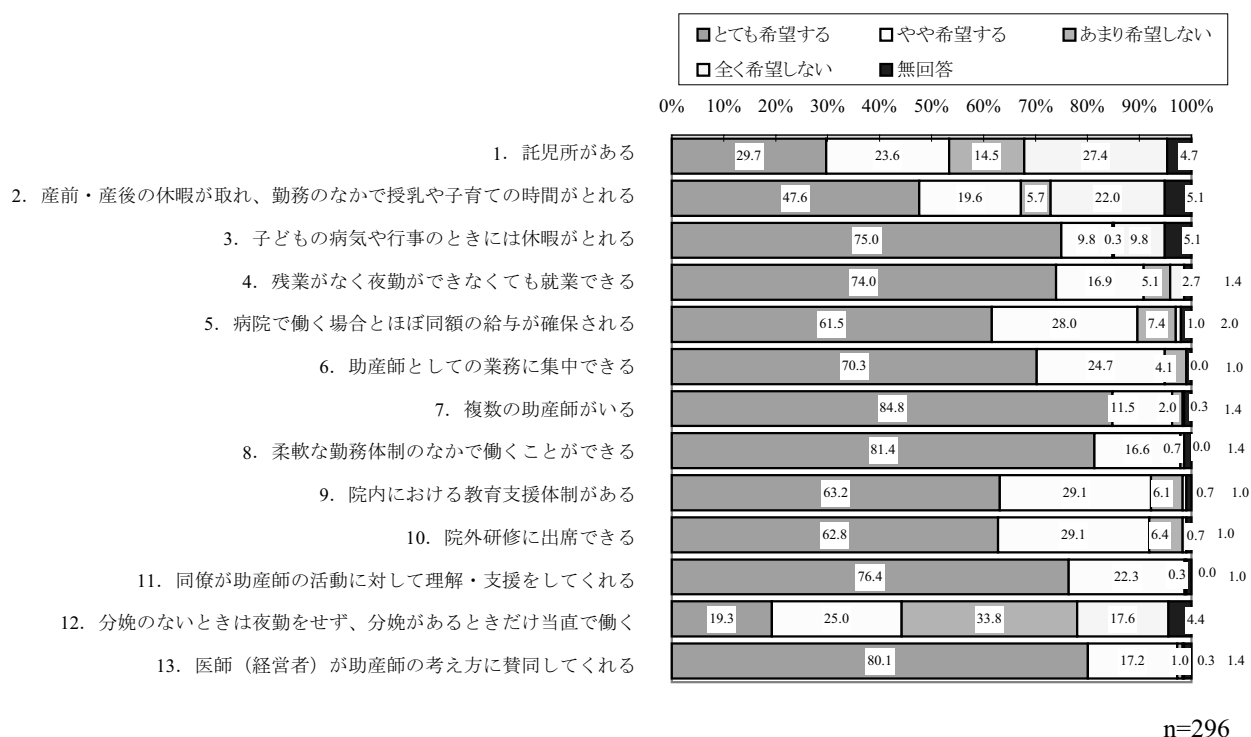


「分娩オンコール1件につきの希望給与額」の問いに、「20,000～30,000円未満」が16.6%、「30,000～35,000円未満」が9.8%と回答している。

7. 希望条件

問33 産科診療所に就業する際、希望する条件

問27 あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか：是非働きたい、選択肢として考えたい、気がすすまない



n=296

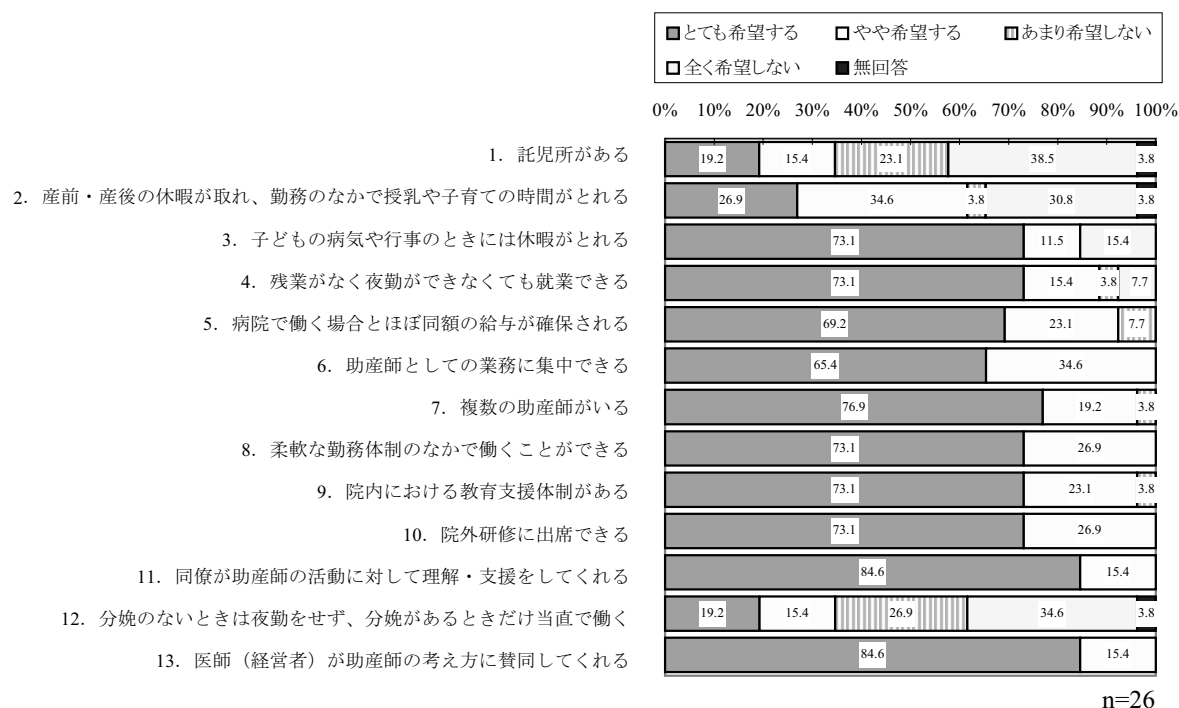
「産科診療所に就業する際、希望する条件」の問いに、「とても希望する」と回答した項目では、「複数の助産師がいる」が84.8%、「柔軟な勤務体制のなかで働くことができる」81.4%、「医師（経営者）が助産師の考え方に賛同してくれる」80.1%、「同僚が助産師の活動に対して理解・支援をしてくれる」76.4%、「子どもの病気や行事のときには休暇がとれる」75.0%、「残業がなく夜勤ができなくても就業できる」74.0%、「助産師としての業務に集中できる」70.3%などが70%以上の回答をしている。

「とても希望する」が80%以上の項目は「複数の助産師がいる」「柔軟な勤務体制のなかで働くことができる」「医師（経営者）が助産師の考え方に賛同してくれる」である。13項目中11項目が「とても希望する」を約5割以上の割合で希望しているが、「託児所がある」「分娩のないときは夜勤をせず、分娩があるときだけ当直で働く」は希望する割合が少ない。

「託児所がある」「産前・産後の休暇が取れ、勤務のなかで授乳や子育ての時間がとれる」「分娩のないときは夜勤をせず、分娩があるときだけ当直で働く」については「全く希望しない」の割合が高い。

問33 産科診療所に就業する際、希望する条件（退職前の職場が診療所の者）

問27 あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか：是非働きたい、選択肢として考えたい、気がすすまない



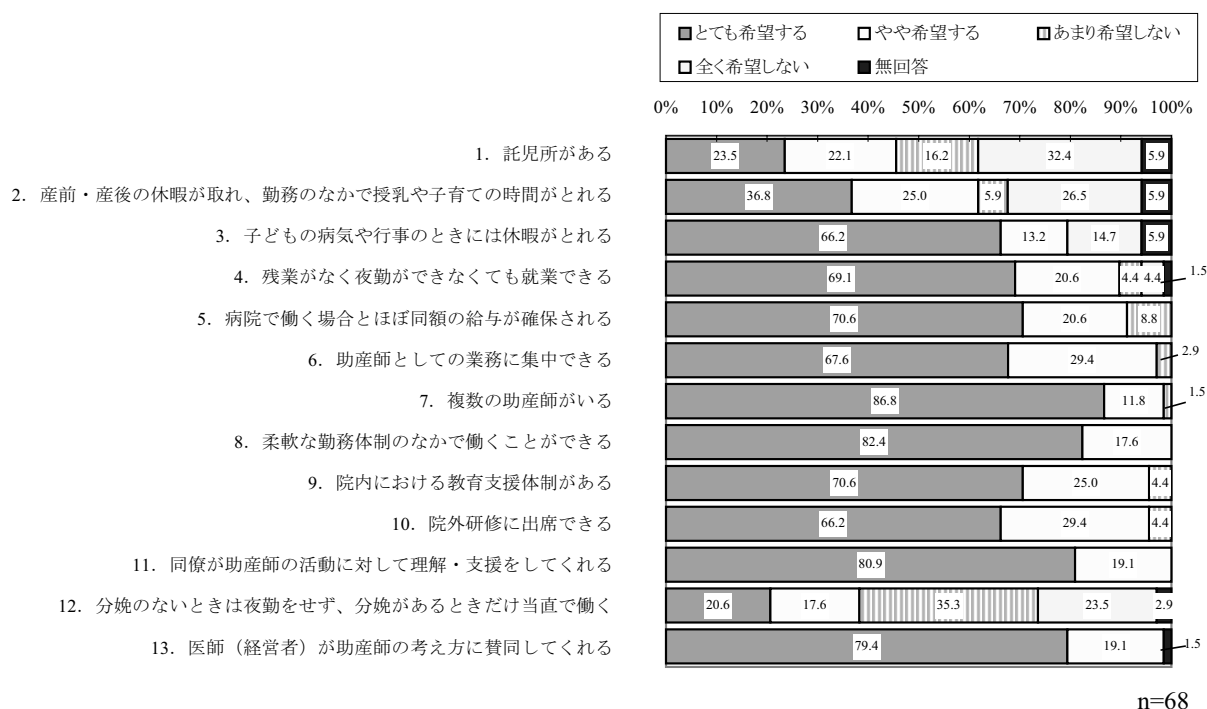
「退職前に働いていた職場が診療所である者」と「回答者全体」との希望する条件を比較すると、「院内における教育支援体制がある」「院外研修に出席できる」について、「退職前に働いていた職場が診療所である者」のほうが全体と比べて「とてもそう思う」と回答した割合が高い。

反対に、「託児所がある」「産前・産後の休暇が取れ、勤務のなかで授乳や子育ての時間がとれる」は「退職前に働いていた職場が診療所である者」のほうが「とてもそう思う」と回答した割合が低い。

また、「分娩のないときは夜勤をせず、分娩があるときだけ当直で働く」は、「退職前に働いていた職場が診療所である者」は「全く希望しない」の割合が高い。

問 33. 産科診療所に就業する際、希望する条件（診療所で働いたことがある者）

問 27. あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか：是非働きたい、選択肢として考えたい、気がすすまない



「診療所で働いたことがある者」と「回答者全体」で期待される助産師の能力を比較すると、どちらの結果も同じような傾向がみられる。

8. 就労希望時期

問 35 就労希望時期はいつごろですか

問 14&問 23 あなたは産科診療所で助産師として就業していますか：産科診療所で助産師として就業していない

問 27 あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか：「働く意向はまったくない」以外 (%)

		合計	すぐにも働きたい	約何ヶ月後に働きたい	約何年後に働きたい	わからない	無回答
	全体 (n=296)	100.0	28.7	17.9	13.2	34.1	6.1
(別掲) 現在の生活における収入源	自分 (n=57)	100.0	24.6	12.3	7.0	40.4	15.8
	夫や家族 (n=165)	100.0	29.7	23.6	17.6	25.5	3.6
	自分と夫や家族 (n=70)	100.0	28.6	10.0	8.6	48.6	4.3
(別掲) 現在の生活状況	自分が働かなくても経済的に余裕がある (n=65)	100.0	27.7	13.8	16.9	36.9	4.6
	自分が働かなくても経済的にやっていけるが余裕はない (n=134)	100.0	27.6	23.9	16.4	29.1	3.0
	自分が働かないと経済的にやっていけない (n=34)	100.0	41.2	14.7	5.9	35.3	2.9

「就労希望時期はいつごろですか」の問いに、全体では「わからない」が34.1%、「すぐにも働きたい」が28.7%と回答している。

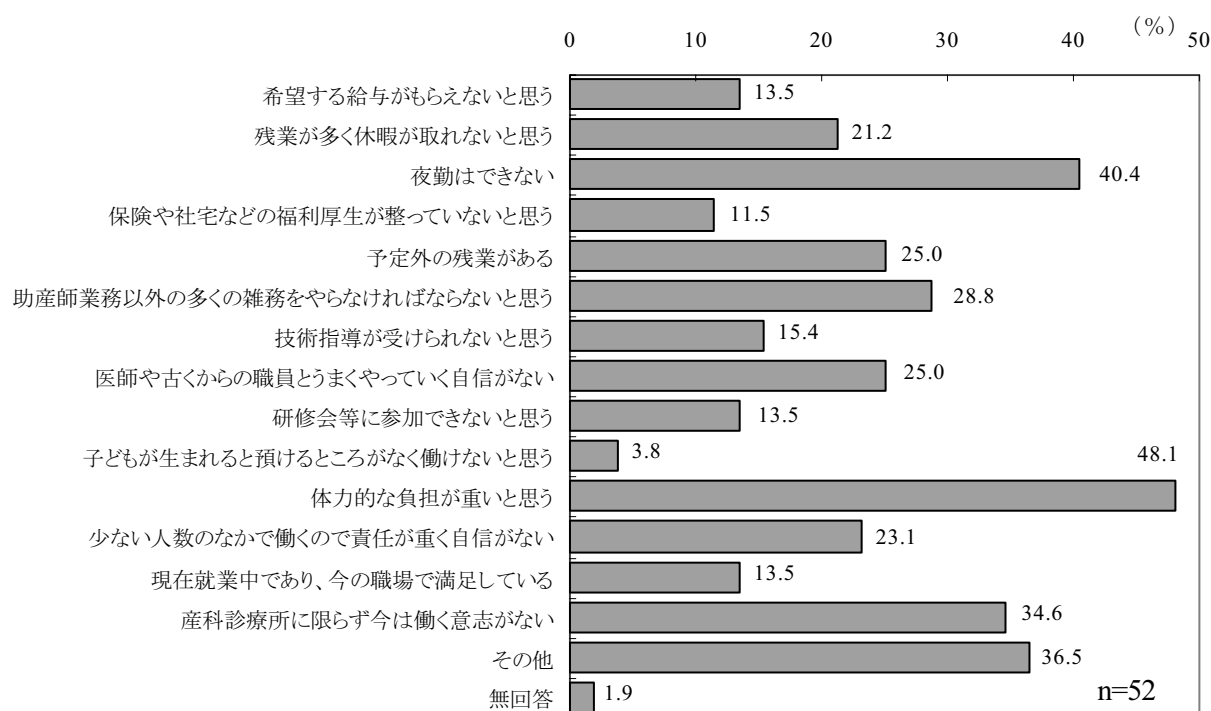
なかでも「現在の生活状況」でみると、「自分が働かないと経済的にやっていけない」と回答した人は「すぐにも働きたい」と回答した割合が高い。

9. 産科診療所での就労阻害要因

問 36 産科診療所での就業を希望しない理由（複数回答）

問 14&問 23 あなたは産科診療所で助産師として就業していますか：産科診療所で助産師として就業していない

問 27 あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか：働く意向はまったくない



「産科診療所での就業を希望しない理由」の問いに、「体力的な負担が重いと思う」が48.1%、「夜勤はできない」40.4%、「産科診療所に限らず今は働く意志がない」34.6%、「助産師業務以外の多くの雑務をやらなければならないと思う」28.8%、「予定外の残業がある」25.0%、「医師や古くからの職員とうまくやっていく自信がない」25.0%などが25.0%以上と回答している。

Ⅸ 研修への参加意向について

1. 研修参加意向

問 37 助産師としての、スキルアップ研修などの研修が開催される場合、参加を希望しますか (%)

		合計	参加したい	参加したくない	わからない	無回答
	全体 (n=500)	100.0	81.4	3.6	10.4	4.6
(別掲) 基礎教育を受けた学校の種類	看護系大学 (n=32)	100.0	75.0	0.0	18.8	6.3
	看護系短大専攻科 (n=137)	100.0	85.4	1.5	10.9	2.2
	助産師養成所 (n=327)	100.0	80.4	4.9	9.5	5.2
(別掲) 助産師として働いた通算経験年数	1年未満 (n=37)	100.0	62.2	13.5	16.2	8.1
	1～2年未満 (n=25)	100.0	80.0	0.0	12.0	8.0
	2～3年未満 (n=25)	100.0	88.0	4.0	8.0	0.0
	3～4年未満 (n=48)	100.0	87.5	4.2	6.3	2.1
	4～5年未満 (n=39)	100.0	89.7	0.0	7.7	2.6
	5～10年未満 (n=159)	100.0	84.3	1.9	11.9	1.9
	10～20年未満 (n=110)	100.0	82.7	1.8	9.1	6.4
	20年以上 (n=53)	100.0	69.8	7.5	11.3	11.3
(別掲) 就業状況	離職中 (n=272)	100.0	77.2	4.0	13.2	5.5
	就業中 (n=227)	100.0	86.3	3.1	7.0	3.5
(別掲) 前回の職場を退職してからの離職期間	1年未満 (n=86)	100.0	84.9	1.2	10.5	3.5
	1～3年未満 (n=60)	100.0	78.3	5.0	13.3	3.3
	3～5年未満 (n=40)	100.0	75.0	0.0	20.0	5.0
	5～10年未満 (n=41)	100.0	75.6	7.3	9.8	7.3
	10～15年未満 (n=21)	100.0	66.7	0.0	19.0	14.3
	15年以上 (n=19)	100.0	63.2	15.8	15.8	5.3
(別掲) 退職前に働いていた職場	診療所 (n=30)	100.0	90.0	-	6.7	3.3
(別掲) 働いたことのある職場	診療所 (n=133)	100.0	88.0	2.3	6.8	3.0
(別掲) 就業意向	是非働きたい・選択肢として考えたい (n=234)	100.0	89.7	0.9	6.8	2.6

「助産師としての、スキルアップ研修などの研修が開催される場合、参加を希望しますか」の問いに、全体では81.4%が「参加したい」と回答している。

助産師の経験年数別でみると、経験年数「1年未満」「20年以上」は「参加したい」の割合が低く、「2～5年未満」の範囲で、「参加したい」の割合が高い。

看護系大学は全体と比較して研修への参加意向が低い。

就業中の者や、離職期間が短い者ほど研修への参加意向が高い傾向にある。

診療所への就業意向のある者は、研修への参加意向が高い。

2. 希望する研修内容

問 37-1 研修で受けた内容は何ですか (%)

	全体 (n=407)	(別掲) 基礎教育を受けた学校の種類			(別掲) 就業意向
		看護系大学 (n=24)	看護系短大専 攻科 (n=117)	助産師養成所 (n=263)	是非働きたい・選択肢と して考えたい (n=210)
分娩介助等の実技演習	49.4	45.8	50.4	49.0	53.8
最近の産科管理	69.5	62.5	68.4	70.3	72.9
母乳育児管理	68.8	62.5	72.6	67.3	67.1
超音波分娩監視装置など最近の医療	69.5	54.2	70.1	70.7	71.9
妊婦健康診査・標準的保健指導	42.5	33.3	37.6	45.2	42.4
妊・産・褥婦のケアと実際	41.3	45.8	36.8	42.6	40.5
助産記録のあり方と実際	31.2	16.7	31.6	32.3	36.7
産科救急の対処	67.6	66.7	70.1	66.2	71.4
アクティブバース・フリースタイルなどのスタイルについて	61.2	62.5	63.2	60.1	62.9
産科の医療安全と事故防止	52.1	45.8	51.3	53.2	57.6
子育て支援と虐待防止	44.0	37.5	47.9	43.0	41.4
コミュニケーションスキル	28.5	20.8	26.5	29.7	27.6
助産師のキャリア開発	38.1	37.5	34.2	39.5	40.0
新生児のケアと実際	50.4	37.5	47.9	52.5	48.6
その他	6.9	4.2	6.8	7.2	6.2
無回答	0.5	4.2	0.9	0.0	0.0

「研修で受けた内容は何ですか」の問いに、「最近の産科管理」69.5%、「超音波分娩監視装置など最近の医療」69.5%、「母乳育児管理」が68.8%、「産科救急の対処」67.6%、「アクティブバース・フリースタイルなどのスタ

イルについて」61.2%などが60%以上と回答している。

逆に、「コミュニケーションスキル」、「助産記録のあり方と実際」、「助産師のキャリア開発」の希望が少ない。

全体と就業意向のある者とを比較すると「助産記録のあり方と実際」、「産科救急の対処」「産科の医療安全と事故防止」の割合が高い。

基礎教育を受けた学校の種類別でみると、看護系大学は「超音波分娩監視装置など最近の医療」「助産記録のあり方と実際」「新生児のケアと実際」を希望する割合が特に低くほとんどの項目において希望する割合が低い傾向にある。反対に、看護系大学で希望する割合が高いのは、「妊・産・褥婦のケアと実際」である。

(再掲) 問37-1. 研修で受けたい内容は何ですか(助産師の通算経験年数別)(複数回答) (%)

	全体 (n=404)	1年 (n=23)	1～2年 (n=20)	2～3年 (n=22)	3～4年 (n=42)	4～5年 (n=35)	5～10年 (n=134)	10～20年 (n=91)	20年～ (n=37)
分娩介助等の実技演習	49.4	69.6	75.0	77.3	64.3	68.6	44.0	35.2	21.6
最近の産科管理	69.5	60.9	75.0	72.7	71.4	65.7	73.9	69.2	56.8
母乳育児管理	68.8	87.0	85.0	72.7	81.0	68.6	70.9	58.2	48.6
超音波分娩監視装置など最近の医療	69.5	56.5	80.0	77.3	83.3	82.9	64.9	69.2	54.1
妊婦健康診査・標準的保健指導	42.5	65.2	75.0	50.0	45.2	45.7	42.5	33.0	21.6
妊・産・褥婦のケアと実際	41.3	60.9	80.0	50.0	45.2	37.1	39.6	34.1	21.6
助産記録のあり方と実際	31.2	17.4	55.0	45.5	28.6	37.1	30.6	26.4	29.7
産科救急の対処	67.6	56.5	75.0	77.3	81.0	80.0	65.7	60.4	59.5
アクティブバース・フリースタイル などのスタイルについて	61.2	52.2	85.0	68.2	69.0	60.0	59.0	64.8	43.2
産科の医療安全と事故防止	52.1	34.8	60.0	50.0	54.8	48.6	50.0	54.9	62.2
子育て支援と虐待防止	44.0	65.2	55.0	31.8	47.6	34.3	41.8	42.9	51.4
コミュニケーションスキル	28.5	26.1	40.0	27.3	23.8	20.0	26.1	35.2	32.4
助産師のキャリア開発	38.1	26.1	60.0	36.4	21.4	34.3	36.6	48.4	40.5
新生児のケアと実際	50.4	65.2	65.0	40.9	71.4	51.4	48.5	45.1	35.1
その他	6.9	3	0.0	0.0	19.0	2.9	6.7	6.6	2.7
無回答	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	1.1	0.0

通算経験年数別でみると、それぞれの研修内容に対して、経験年数5年未満で「参加したい」の割合が概ね高い。反対に、経験20年以上では、「参加したい」の割合は概ね低い。ただし、「産科の医療安全と事故防止」と「子育て支援と虐待防止」は「参加したい」の割合が高い。ただし、経験「1年未満」は、「最近の産科管理」「超音波分娩監視装置など最近の医療」「助産記録のあり方と実際」「産科救急の対処」「アクティブバース・フリースタイルなどのスタイルについて」「産科の医療安全と事故防止」について、「参加したい」の割合が低い。平均と比べて「参加したい」の割合が高いのは、「分娩介助等の実技演習」の「1年未満～5年未満」、「母乳育児管理」の「1年未満～4年未満」、「超音波分娩監視装置など最近の医療」の「1年～5年未満」、「妊婦健康診査・標準的保健指導」の「1年未満～2年未満」、「妊・産・褥婦のケアと実際」の「1年未満～3年未満」、「助産記録のあり方と実際」の「1年～3年未満」、「産科救急の対処」の「1年～5年未満」、「アクティブバース・フリースタイルなどのスタイルについて」の「1年～4年未満」、「子育て支援と虐待防止」の「1年未満」、「助産師のキャリア開発」の「1～2年未満」、「新生児のケアと実際」の「1年未満～2年未満・3～4年未満」である。

「分娩介助等の実技演習」は経験5年未満で希望する割合が高い。

「超音波分娩監視装置など最近の医療」については、経験1年未満と20年以上で希望する割合が低い。

「妊婦健康診査・標準的保健指導」「妊・産・褥婦のケアと実際」は経験20年以上で希望する割合が低い。

「助産記録のあり方と実際」「産科の医療安全と事故防止」を希望する割合は経験1年未満の者で低いが、反対に「子育て支援と虐待防止」は1年未満の者で高い。

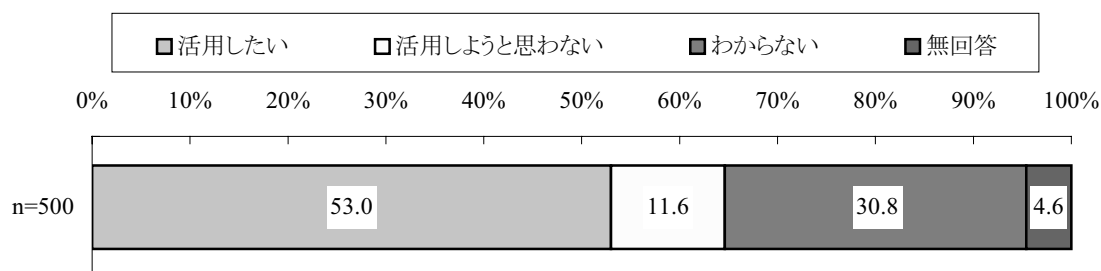
「アクティブバース・フリースタイルなどのスタイルについて」を希望する割合は経験20年以上の者で低いが、反対に「産科の医療安全と事故防止」は20年以上の者で高い。

「新生児のケアと実際」は、経験20年以上では希望する割合が低い。

X 求職活動について

1. 就業支援活用意向

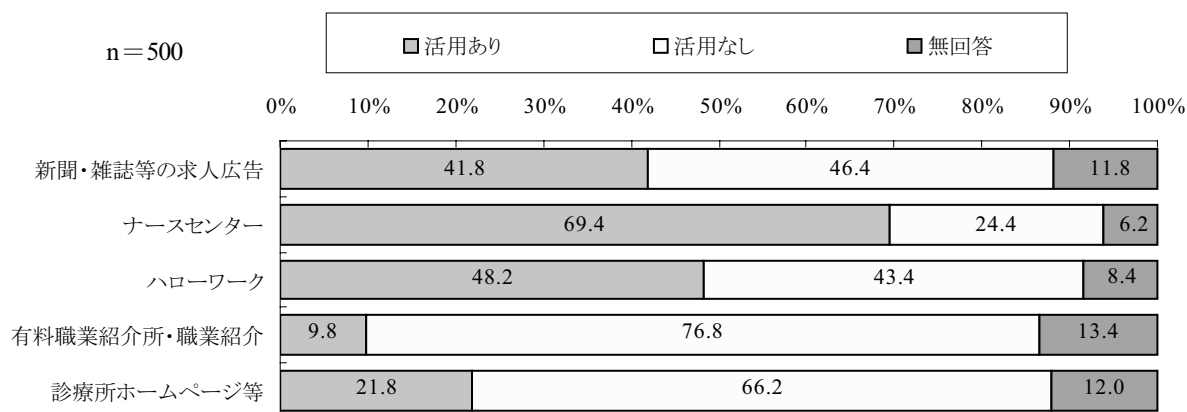
問 38 もし、キャリアカウンセラーが身近にいる場合、就職活動に活用したいと思いますか



「もし、キャリアカウンセラーが身近にいる場合、就職活動に活用したいと思いますか」の問いに、全体では「活用したい」が53.0%、「わからない」が30.8%と回答している。

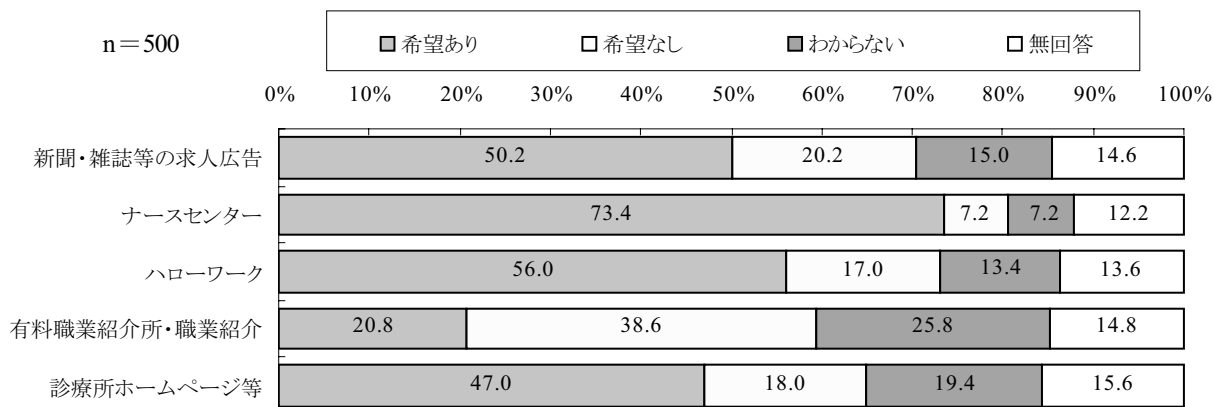
2. 求職活動手段

問 39 活用経験



「活用経験」の問いに、「活用あり」では「ナースセンター」69.4%、「ハローワーク」48.2%、「新聞・雑誌等の求人広告」41.8%、「診療所ホームページ等」21.8%、「有料職業紹介所・職業紹介」9.8%と回答している。

問 39 活用希望



「活用希望」の問いに、「希望あり」では「ナースセンター」73.4%、「ハローワーク」56.0%、「新聞・雑誌等の求人広告」50.2%、「診療所ホームページ等」47.0%、「有料職業紹介所・職業紹介」20.8%と回答している。

XI 1年以内の就業希望者の就業条件について

1. 分娩介助件数、通算経験年数、離職期間、退職前職場施設

問10 助産師になってから現在までの総分娩介助件数

	合計	～20件	20～50件	50～100件	100～200件	200～500件	500～1000件	1000件～	無回答	平均件数
全体 (n=500)	100.0%	8.4	4.2	8.2	19.8	26.6	13.4	10.8	8.6	396.2件

(別掲) 就労希望時期：すぐにでも働きたい・約何ヶ月後に働きたい

	合計	～20件	20～50件	50～100件	100～200件	200～500件	500～1000件	1000件～	無回答	平均件数
全体 (n=124)	100.0%	5.6	4.0	5.6	23.4	30.6	14.5	10.5	5.6	328.5件

分娩介助件数の平均値は、全体と比べると診療所での就業を1年以内に希望する者のほうが少ないが、分娩介助件数の区分でみると100件未満の各区分では全体よりも割合は低く、100件以上～1000件未満の区分では全体よりその割合が高い。

問13 あなたが助産師として働いた通算経験年数はどれくらいですか

	合計	～1年	1～2年	2～3年	3～4年	4～5年	5～10年	10～20年	20年～	無回答	平均経験年数
全体 (n=500)	100.0%	7.4	5.0	5.0	9.6	7.8	31.8	22.0	10.6	0.8	8.8年

(別掲) 就労希望時期：すぐにでも働きたい・約何ヶ月後に働きたい

	合計	～1年	1～2年	2～3年	3～4年	4～5年	5～10年	10～20年	20年～	無回答	平均経験年数
全体 (n=124)	100.0%	1.6	6.5	4.0	12.1	8.9	34.7	24.2	8.1	0.0	8.5年

全体と診療所での就業を1年以内に希望する者との通算経験年数をみると、3年未満の割合は全体のほうが高い。平均経験年数でみると、就業を1年以内に希望する者のほうが短い。

問15 前回の職場を退職してからの離職期間はどれくらいですか

問14 現在離職中ですか：はい

	合計	～1年	1～3年	3～5年	5～10年	10～15年	15年～	無回答	平均離職期間
全体 (n=272)	100.0%	31.6	22.1	14.7	15.1	7.7	7.0	1.8	4.6年

(別掲) 就労希望時期：すぐにでも働きたい・約何ヶ月後に働きたい

	合計	～1年	1～3年	3～5年	5～10年	10～15年	15年～	無回答	平均離職期間
全体 (n=106)	100.0%	39.6	23.6	14.2	10.4	7.5	3.8	0.9	3.7年

全体と診療所での就業を1年以内に希望する者との離職期間をみると、診療所での就業を1年以内に希望する者の方が離職期間が短い。

問16 退職前に働いていた職場はどのような施設ですか

問14 現在離職中ですか：はい

	合計	病院	診療所	助産所	行政機関	看護教育機関	その他	無回答
全体 (n=272)	100.0%	73.5	11.0	1.8	3.3	5.9	2.9	1.5

(別掲) 就労希望時期：すぐにでも働きたい・約何ヶ月後に働きたい

	合計	病院	診療所	助産所	行政機関	看護教育機関	その他	無回答
全体 (n=106)	100.0%	76.4	12.3	2.8	1.9	2.8	3.8	0.0

全体と診療所での就業を1年以内に希望する者との退職前の職場をみると、病院で働いていた人の就業希望者が最も多く、次いで診療所という結果は変わりはない。

2. 退職理由

問 17 前回の職場を退職した理由は何ですか（複数回答）

問 14 現在離職中ですか：はい (%)

退職理由	n=272	(別掲) 就業意向： 是非働きたい・選択肢として考えたい n=106※
結婚	22.8	21.7
出産・育児	23.9	23.6
家族の健康・介護	9.2	7.5
自分の健康	18.8	17.0
定年	4.4	0.9
転居	13.2	16.0
進学	3.7	3.8
留学	0.4	0.0
夫の転勤	16.9	21.7
給与が安い	3.3	2.8
施設の閉鎖等による雇用者側の都合	5.1	8.5
雇用形態への不満	5.9	7.5
勤務時間が長い・残業が多い	14.3	15.1
休暇が取れない	9.6	10.4
夜勤負担が大きい	13.2	14.2
通勤時間がかかる	5.1	3.8
業務負担が大きい	12.9	12.3
同僚との関係が悪い	3.7	5.7
上司や雇用者との関係が悪い	5.9	5.7
分娩を扱っていないため助産師としての業務ができない	3.3	2.8
経営理念（看護理念）や方針に不満	7.7	8.5
自立性や専門性が認められないなど業務内容に不満	7.0	8.5
仕事への興味ややりがいを持ってない	3.3	2.8
自分の適性への不安	5.5	1.9
技術が磨けないなどのキャリアアップの機会がない	3.3	1.9
責任の重さや医療事故への不安	13.6	12.3
他の職場への興味	4.0	3.8
医療の IT 化についていけない	1.1	0.9
その他	14.0	11.3
無回答	0.7	0.0

※離職者のなかでの、就業意向のある者

全体と診療所での就業を 1 年以内に希望する者との退職理由をみると、「出産・育児」「結婚」「夫の転勤」「自分の健康」の順となっており、全体と比べてほぼ同じ傾向にある。

3. 希望する勤務形態、勤務日数、勤務時間、勤務体制

勤務形態

	合計	常勤	非常勤（嘱託・パートアルバイトを含む）	無回答
全体（n=296）	100.0%	31.4	68.2	0.3

（別掲）就労希望時期：すぐにでも働きたい・約何ヶ月後に働きたい

	合計	常勤	非常勤（嘱託・パートアルバイトを含む）	無回答
全体（n=124）	100.0%	37.1	62.9	0.0

全体と診療所での就業を 1 年以内に希望する者との勤務形態をみると、診療所での就業を 1 年以内に希望する者は常勤希望の割合が高い。

勤務日数

	合計	週に 5 日程度	週 3～4 日程度	週 1～2 日程度	その他	無回答
全体（n=296）	100.0%	39.9	47.3	10.5	1.7	0.7

（別掲）就労希望時期：すぐにでも働きたい・約何ヶ月後に働きたい

	合計	週に 5 日程度	週 3～4 日程度	週 1～2 日程度	その他	無回答
全体（n=124）	100.0%	49.2	43.5	5.6	1.6	0.0

全体と診療所での就業を 1 年以内に希望する者との勤務日数をみると、診療所での就業を 1 年以内に希望する者は、週に 5 日程度働ける割合が高い。

勤務時間

	合計	7～8 時間	5～6 時間	3～4 時間	その他	無回答
全体 (n=296)	100.0%	44.6	39.5	14.9	0.3	0.7

(別掲) 就労希望時期：すぐにでも働きたい・約何ヶ月後に働きたい

	合計	7～8 時間	5～6 時間	3～4 時間	その他	無回答
全体 (n=124)	100.0%	56.5	31.5	11.3	0.8	0.0

全体と診療所での就業を1年以内に希望する者との勤務時間をみると、診療所での就業を1年以内に希望する者は1日7～8時間を希望する割合が最も高く、全体と比較してもその割合が高い。

勤務体制

	合計	日勤のみ	月1～2回程度の夜勤なら可能	月3～5回程度の夜勤なら可能	月6～8回程度の夜勤なら可能	月9回以上の夜勤でも可能	夜勤のみでも可能	オンコールなら可能	その他	無回答
全体 (n=296)	100.0%	64.2	15.2	10.8	3.4	1.0	2.4	0.3	1.4	1.4

(別掲) 就労希望時期：すぐにでも働きたい・約何ヶ月後に働きたい

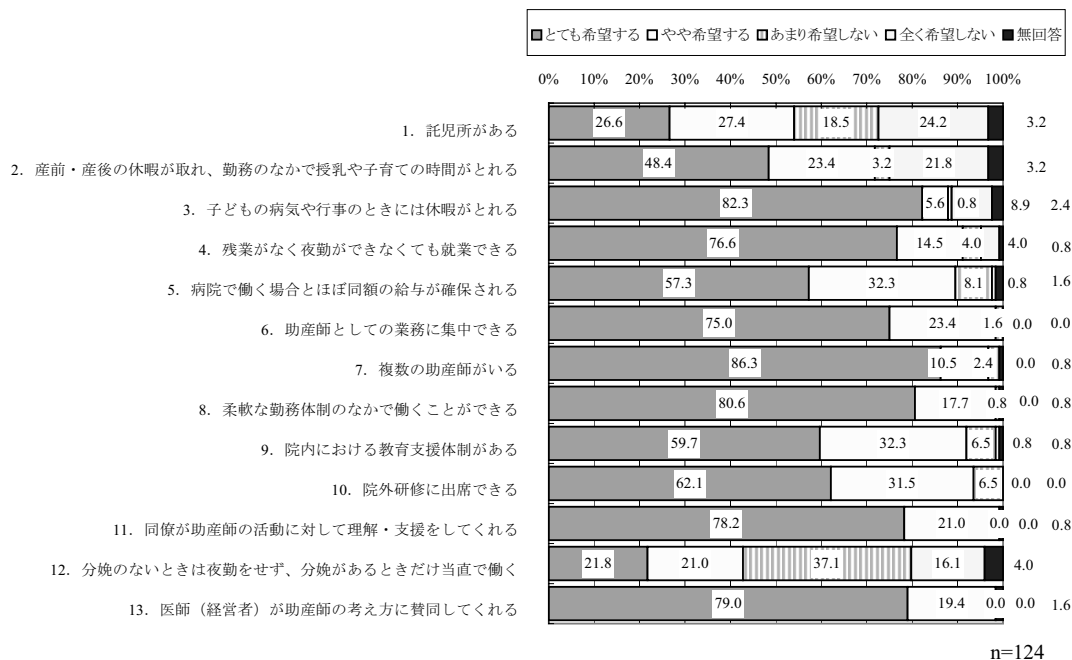
	合計	日勤のみ	月1～2回程度の夜勤なら可能	月3～5回程度の夜勤なら可能	月6～8回程度の夜勤なら可能	月9回以上の夜勤でも可能	夜勤のみでも可能	オンコールなら可能	その他	無回答
全体 (n=124)	100.0%	62.1	16.9	13.7	4.0	0.8	1.6	0.0	0.0	0.8

全体と診療所での就業を1年以内に希望する者との勤務体制をみると、就業を1年以内に希望する者のほうが夜勤可能な割合が高く、概ね可能な日数も長い。

4. 希望条件

問33 産科診療所に就業する際、希望する条件

就労希望時期（すぐにでも働きたい・約何ヶ月後に働きたい）



全体と診療所での就業を1年以内に希望する者との希望する条件をみると、どちらの結果も同じような傾向がみられる。

5. 研修参加意向と内容

問37 助産師としての、スキルアップ研修などの研修が開催される場合、参加を希望しますか

	合計	参加したい	参加したくない	わからない	無回答
全体 (n=500)	100.0%	81.4	3.6	10.4	4.6

(別掲) 就労希望時期：すぐにでも働きたい・約何ヶ月後に働きたい

	合計	参加したい	参加したくない	わからない	無回答
全体 (n=124)	100.0%	95.2	0.8	3.2	0.8

全体と診療所での就業を1年以内に希望する者との研修参加意向をみると、診療所での就業を1年以内に希望する者は研修参加意向が高く、95%以上が希望している。

研修内容

(%)

	n=407	(別掲) 就労希望時期： すぐにでも働きたい・約何ヶ月後に働きたい n=118※
分娩介助等の実技演習	49.4	55.1
最近の産科管理	69.5	73.7
母乳育児管理	68.8	68.6
超音波分娩監視装置など最近の医療	69.5	74.6
妊婦健康診査・標準的保健指導	42.5	47.5
妊・産・褥婦のケアと実際	41.3	44.9
助産記録のあり方と実際	31.2	37.3
産科救急の対処	67.6	74.6
アクティブバース・フリースタイルなどのスタイルについて	61.2	62.7
産科の医療安全と事故防止	52.1	60.2
子育て支援と虐待防止	44.0	44.1
コミュニケーションスキル	28.5	31.4
助産師のキャリア開発	38.1	39.0
新生児のケアと実際	50.4	49.2
その他	6.9	6.8
無回答	0.5	0.0

※研修意向のある者のみ

全体と診療所での就業を1年以内に希望する者との希望する研修内容をみると、診療所での就業を1年以内に希望する者は、どの研修内容においても概ね受講希望の割合が高い。

6. 求職活動手段

		合計	活用あり	活用なし	無回答
新聞・雑誌等の求人広告	全体 (n=500)	100.0%	41.8	46.4	11.8
	(別掲) 就労希望時期：すぐにでも働きたい・約何ヶ月後に働きたい (n=124)	100.0%	56.5	36.3	7.3
ナースセンター (e-ナースセンターも含む)	全体 (n=500)	100.0%	69.4	24.4	6.2
	(別掲) 就労希望時期：すぐにでも働きたい・約何ヶ月後に働きたい (n=124)	100.0%	83.1	15.3	1.6
ハローワーク	全体 (n=500)	100.0%	48.2	43.4	8.4
	(別掲) 就労希望時期：すぐにでも働きたい・約何ヶ月後に働きたい (n=124)	100.0%	58.1	37.9	4.0
有料職業紹介所・職業紹介サイト (派遣も含む)	全体 (n=500)	100.0%	9.8	76.8	13.4
	(別掲) 就労希望時期：すぐにでも働きたい・約何ヶ月後に働きたい (n=124)	100.0%	9.7	78.2	12.1
診療所ホームページ等による求人に関するページ	全体 (n=500)	100.0%	21.8	66.2	12.0
	(別掲) 就労希望時期：すぐにでも働きたい・約何ヶ月後に働きたい (n=124)	100.0%	29.0	61.3	9.7
知人・友人等の紹介	全体 (n=500)	100.0%	44.6	45.4	10.0
	(別掲) 就労希望時期：すぐにでも働きたい・約何ヶ月後に働きたい (n=124)	100.0%	48.4	45.2	6.5

全体と診療所での就業を1年以内に希望する者との求職活動手段をみると、診療所での就業を1年以内に希望する者は、概ね求職活動に様々な媒体を活用した割合が高い。特に、「新聞・雑誌等の求人広告」「ナースセンター」「ハローワーク」の利用率が高い。

問 39 活用希望

		合計	希望あり	希望なし	わからない	無回答
新聞・雑誌等の求人広告	全体 (n=500)	100.0%	50.2	20.2	15.0	14.6
	(別掲) 就労希望時期：すぐにも働きたい・約何ヶ月後に働きたい (n=124)	100.0%	62.1	11.3	13.7	12.9
ナースセンター(e-ナースセンターも含む)	全体 (n=500)	100.0%	73.4	7.2	7.2	12.2
	(別掲) 就労希望時期：すぐにも働きたい・約何ヶ月後に働きたい (n=124)	100.0%	82.3	0.8	4.0	12.9
ハローワーク	全体 (n=500)	100.0%	56.0	17.0	13.4	13.6
	(別掲) 就労希望時期：すぐにも働きたい・約何ヶ月後に働きたい (n=124)	100.0%	64.5	9.7	12.1	13.7
有料職業紹介所・職業紹介サイト(派遣も含む)	全体 (n=500)	100.0%	20.8	38.6	25.8	14.8
	(別掲) 就労希望時期：すぐにも働きたい・約何ヶ月後に働きたい (n=124)	100.0%	25.8	33.9	26.6	13.7
診療所ホームページ等による求人に関するページ	全体 (n=500)	100.0%	47.0	18.0	19.4	15.6
	(別掲) 就労希望時期：すぐにも働きたい・約何ヶ月後に働きたい (n=124)	100.0%	56.5	7.3	21.0	15.3
知人・友人等の紹介	全体 (n=500)	100.0%	59.6	12.6	14.8	13.0
	(別掲) 就労希望時期：すぐにも働きたい・約何ヶ月後に働きたい (n=124)	100.0%	71.0	6.5	12.9	9.7

全体と診療所での就業を1年以内に希望する者で就職活動における媒体の活用希望状況をみると、診療所での就業を1年以内に希望する者はすべての媒体において活用の希望が高い。

■調査結果総括

1. 調査対象者の背景

調査対象者の年齢は30～40代が63.2%で、平均年齢は41.6歳である。全体の62.6%に子供がいて、6歳以下の子どもを持つ者はそのうち39.7%である。昼間や夜間に12歳以下の子どもの世話をしてくれる家族や保育者等が「いない」と回答し、産科診療所で助産師として就業していない者98人のうち、80人(80.6%)が、産科診療所で「是非働きたい」「選択肢として考えたい」と回答している。このことから、子どもの世話をしてくれる家族や保育者等がいない者であっても、産科診療所への就業を希望している者が多いといえる。

経済状況を見ると、収入源は「自分」と回答した者が119人(23.8%)である。また、「自分」と回答しなかった者のうち「夫や家族」「自分と夫や家族」と回答した者は375人(75.0%)で、そのうち「自分が働かなくても経済的に余裕がある」とした者が114人(30.4%)、「自分が働かないと経済的にやっていけない」とした者は55人(14.7%)であった。収入源が「自分」以外で、産科診療所で助産師として就業していない者の就業意向をみると、「自分が働かなくても経済的に余裕がある」と回答した者では、93人中の55.9%が、「自分が働かないと経済的にやっていけない」と回答した者では37人中の78.4%が、「是非働きたい」「選択肢として考えたい」と回答している。つまり、経済状況に関わらず、半数以上は産科診療所への就業意向を持っているといえる。

助産師として働いた通算経験年数は、「5～10年」とする者が31.8%で最も多く、次いで「10～20年」が22.0%であり、平均では8.8年である。過去の総分娩介助件数では「100件以上」とする者が7割を超え、平均396.2件である。通算経験年数と総分娩介助件数の関係を見ると、経験年数が長くなるにつれて総分娩介助件数が増える結果となっている。

就業状況については、現在就業中の者が45.4%、離職中の者が54.4%で離職中の者の離職期間は、「1年未満」とする者が31.6%、「1～3年未満」とする者が22.1%と、比較的直近の離職である。また、助産師として働くようになってから、看護師など他の職種で働いたことがある者は60.2%で、転職経験者は74.8%、1人平均2.7回である。助産師としての経験年数をみると10年以上ある者は3割を超え、5年以上では6割を超える。助産師以外の職種での就労経験や転職経験者も多い。また、離職期間が短い者が多いことから、即戦力となり得る人材が多いのではないかということがいえる。

現在離職中の助産師が前回の職場を退職した理由をみると、全体では「結婚」「出産」「夫の転勤」といったライフステージの変化、「自分の健康」といった要因や、「勤務時間が長い・残業が多い」「責任の重さや医療事故への不安」など労働条件や職場環境に起因するものが多い。しかし、退職前職場が「診療所」であった者の退職理由は、全体と比較すると「結婚」「出産・育児」「転居」等の理由とする割合が低い。反対に「自分の健康」「経営理念(看護理念)や方針に不満」「給与が安い」「施設の閉鎖等による雇用者側の都合」「業務負担が大きい」といった割合が高く、なかでも「経営理念(看護理念)や方針に不満」と回答した割合が全体の回答と比べて15.6ポイント高い。つまり、診療所で働いていた者では、職場環境や労働条件のミスマッチによって退職した割合が高いということがいえる。

また、診療所での就業を1年以内に希望する者の前回の職場の退職理由をみると「出産・育児」「結婚」「夫の転勤」「自分の健康」が多く、ライフイベントによる退職者が多く、診療所への就業意向のある者が一定数存在しているということがいえる。

産科診療所の存在については、「車で30分以内のところに分娩を取り扱っている産科診療所がある」と全体の86.2%が回答していることから、居住地近くに産科診療所がある者が多いといえる。

2. 産科診療所への就業意向に関する実態

潜在助産師と産科診療所以外に勤務している助産師358人のうち、産科診療所で働きたいとする者は、「是非働きたい」8.9%、「選択肢として考えたい」56.4%をあわせて65.3%であった。また、就業意向のある者の就業希望時期は1年以内を希望する者が46.6%であることから、潜在助産師と産科診療所以外に勤務している助産師は何らかの条件が整えば産科診療所への就業が可能であり、できるだけ早く就労したいとの意向を持つ助産師が相当数いることがわかった。

1) 就業意向がある助産師の望む就業条件

潜在助産師と産科診療所以外に勤務している助産師358人のうち、産科診療所に是非働きたい・選択肢として考えたいとする助産師は65.3%であった。これらの就業意向がある助産師の望む就業条件をみると、雇用形態は7割

近くが「非常勤」を希望している。勤務日数は週3～4日、1日に7～8時間が最も多い。勤務体系については64%が「日勤のみ」を希望しているが、「月1～2回程度の夜勤なら可能」が15.2%、「月3～5回程度の夜勤なら可能」が10.8%である。

希望給与額をみると月給（税込み支給額）は「30～35」万円を希望する者が20.6%と最も多く、次いで「25～30万円」が16.9%である。希望給与額の平均は、月給約269,000円、時給約1,700円、日給約13,300円、夜勤当直約22,500円、分娩オンコール1件につき約24,200円である。

このほかに希望する条件としては、「複数の助産師がいる」「柔軟な勤務体制のなかで働くことができる」「医師（経営者）が助産師の考え方に賛同してくれる」「同僚が助産師の活動に対して理解・支援をしてくれる」「子どもの病気や行事のときには休暇がとれる」「残業がなく夜勤ができなくても就業できる」「助産師としての業務に集中できる」を望む割合が高い。職場に相談する助産師がいることは診療所で働く助産師にとって心強く、夜勤が労働負担にならない点からみても助産師の複数配置が望まれる。

子育て中の助産師が多く、週に3～4日、1日に7～8時間くらいの働き方を望んでいる助産師が多いことから、常勤としてのフルタイムでの働き方だけでなく、働ける時間帯を調整しながら複数の助産師でシフトを組むなど、柔軟な勤務体制の整備が必要である。また給与は経験年数等が考慮され子育てが終われば常勤として働き甲斐があると感じられるような処遇も必要である。労働環境としては医師や同僚との相互理解や支援があり、産科診療所ならではの助産業務が提供でき、職務満足感が得られるような環境が望まれる。

2) 就業意向がある助産師の求職活動

求職活動の手段は、「ナースセンター」「ハローワーク」「新聞・雑誌等の求人広告」の順で多いがキャリアカウンセラーの活用については53.0%の助産師が希望している。

産科診療所への助産師就業のためには、常勤でフルタイムとしての働き方以外にも、短時間勤務ができるような働き方や、日勤だけの働き方などが求められるため、よりきめ細やかな就業相談や診療所との調整が望まれる。そのためにはキャリアカウンセラーといった就職に対する専門家の活用が期待される。また、産科診療所において助産師の採用が積極的に行われるためには、助産師がいることで「安全で安心なお産」や「充実した妊産婦ケアの提供」にもつながることを産科診療所の医師に周知してもらう必要がある。そのためには、キャリアカウンセラーが介入して、産科診療所や助産師に対して啓蒙活動を行っていくことが重要である。

求職活動の際の産科診療所のホームページ利用率は21.8%であるが、活用希望者は47.0%である。診療所のホームページのなかで、施設の理念やそこで働く職員の様子、実施しているケアや求人情報などがわかり、求人条件の問合せ等が出来れば、助産師にとってより積極的な求職活動が展開できると期待される。そのためには、産科診療所において、職場の状況がわかるようなホームページの充実が望まれる。また、一度に複数の職場が検索できるような、助産師の産科診療所就業のための求人・求職専用サイトなどの構築も検討する必要がある。

3. 産科診療所で期待される助産師の能力と必要な研修

産科診療所で期待される助産師の能力のうち、「育児指導（母乳育児指導、沐浴、育児法等）ができる」、「乳房管理ができる」、「分娩監視装置の装着と判読ができる」、「正常褥婦への健康診査と経過診断・保健指導ができる」、「妊産褥婦・新生児の状態を医師へ的確に伝えることができる」、「外診や内診ができる」、「妊娠期・分娩期の異常の判断やその援助ができる」、「新生児の観察により正常と異常の判断ができる」、「正常新生児の健診と保健指導ができる」などは60%以上が「とてもそう思う」と回答している。

希望する研修内容は、「最近の産科管理」「母乳育児管理」「超音波分娩監視装置など最近の医療」「産科救急の対処」「アクティブベース、フリースタイルなどのスタイルについて」といった内容を6割以上が希望している。これらの研修は「乳房管理ができる」、「分娩監視装置の装着と判読ができる」などの「期待される助産師の能力」と一致している。

8割以上の助産師は研修への参加を希望しており、助産師としての経験年数5年未満の者、就業中の者、離職期間が短い者、診療所への就業意向がある者は研修への参加意向が高い。特に1年以内に診療所へ就業意向をもつ者は、研修参加意向が95%を超えている。分娩介助等の実技演習は経験5年未満の者で希望する割合が高い。

経験年数が長くなるにつれて、助産師としての経験業務が増える傾向にあるが、「退院後の訪問指導」「ハイリスク新生児のケア（NICU）」「不妊相談」「中高年相談」については、分娩介助件数が1,000件以上の者でも、経験の割合が少ない。経験したことのない業務に関する研修や、要望の高い内容を研修科目にとり入れ、ニーズにあ

った研修を実施することが重要である。また、離職後できるだけ早期に研修を受けられることは就業意欲を高め学習効果も高いことから研修の提供方法が課題となる。

4. 産科診療所に対するイメージ

産科診療所のイメージに関して、「責任が重い」、「休暇がとりにくい」、「医師（経営者）との人間関係が難しい」、「夜勤が多い」などは、「とてもそう思う」と回答した割合が高く、労働条件や人間関係においてネガティブなイメージをもつ傾向がみられる。退職前の職場が診療所であった者のイメージは、「先輩・同僚からの指導が受けられない」「研修等に参加できない」「カンファレンスの場がもてない」「分娩時のオンコール体制がある」「医師（経営者）との人間関係が難しい」などを「とてもそう思う」とあげる割合が高い。

しかし一方で、ポジティブなイメージを肯定（とてもそう思う・まあそう思う）する割合が5割以上だったものには、「外来から入退院まで一連のケアが継続して行える」「助産技術を習得し自立して助産業務を行うことができる」「妊産婦の生活に応じたケアができる」「分娩介助等の業務に主体的に取り組める」「母乳育児の支援が充実する」「助産師としてのスキルが磨かれる」などがある。

「助産師確保対策に関する調査研究報告書」^{*1}によると、診療所で働いている助産師は、診療所で働くメリットとして「外来、分娩、産褥までトータルなケアが実施できる」「正常分娩に主体的に関われる」「個を尊重したケアができる」などをあげており、利用者のニーズに応えた出産を実施し、そこにやりがいを感じているという報告もある。

産科診療所で就業したい助産師がいても、イメージがネガティブであれば就業には結びつきにくい。産科診療所のイメージをよりよく変えていくような方策の検討とともにポジティブなイメージの情報も広く提供される必要がある。

5. 就業支援のあり方

潜在・退職助産師就業意向調査結果にもとづき、産科診療所へ助産師の就業が促進されるための支援策について検討した。

1) 産科診療所の職場環境の改善

- ①医師（経営者）との信頼関係の形成
- ②助産師の能力を発揮して自立して業務を遂行できる体制
- ③同僚や他職種との指導・協力体制
- ④カンファレンス等の時間の確保
- ⑤研修機会の確保

2) 産科診療所の労働条件の改善

- ①常勤のみでなく、パートや嘱託など多様な就業形態を工夫
- ②夜勤のみ、オンコールのみ、夜勤回数の制限等多様な勤務体制の工夫
- ③育児休業の取得を可能にする
- ④育児中の多様な出来事（病気や行事等）に休暇が取れる
- ⑤託児所を整備する
- ⑥病院との給与格差がない
- ⑦助産師を複数採用する

3) 潜在・退職助産師の研修

- ①最新の産科医療・管理・助産技術、産科救急処置、産科の医療安全と事故防止など現実の水準に対応した知識・技術の提供
- ②受講生の学習ニーズの査定のうえで補強が必要なプログラムを提供
- ③研修開催の広報を強化し、子育て後や離職後はできるだけ早い時期に研修を受けられるようにする

4) ナースセンターにおける事業

- (1) 潜在・退職助産師の確保

^{*1} 加藤尚美：助産師確保対策に関する調査研究報告書，平成16年度厚生労働省科学研究費補助金，2005.3

相談員は、e-ナースセンター（NCCS）に登録される求人・求職者のみでなく、地域の助産師の動向に関連する団体や施設、個人などのインフォーマル情報も積極的に収集し、人脈の拡大を促進し、潜在助産師の所在を把握し、再就業に資する情報を提供する。

(2) 情報の周知

県行政ホームページ、県協会ホームページ、地域の各種新聞等の広報媒体を通して、産科診療所における助産師の必要性や求人広告を掲載する。

(3) 求人支援

産科診療所の求人施設に対して、職場環境や労働条件の改善、助産師の就業意向等について情報を提供し、人材確保を支援する。

(4) 求職相談

潜在・退職助産師の保有能力、希望条件に関する相談、就業の意思決定、教育や訓練の必要性について面談し、就業先の選択とマッチングに向けた支援をする。

●自由記述

1. 労働条件について

- ・ 職場に助産師が少ないと母乳支援や自然なお産への支援がなかなか難しいので、同じ価値観をもつスタッフが同じ職場にいることはとても重要だと思う。
- ・ 分娩は何が起こるかわからないので、複数のスタッフが揃う環境を希望する。
- ・ 夜勤時にも利用出来る託児所があると良い。
- ・ 病児も預かってくれる託児所がほしい。
- ・ 学校や幼稚園等の急な呼び出し等に、早退など対応してほしい。
- ・ 残業がないような職場を希望したい。
- ・ 託児所が併設されて、勤務の中で授乳等の時間がもらえれば、勤務可能な時間も長くなると思う。
- ・ 子供が小さいので、日勤だけでも常勤で働ける職場があるとよい。
- ・ 子供の病気等で急に休んでも、業務に支障のないスタッフが確保されていてほしい。
- ・ 複数の助産師がいれば技術向上に切磋できるし、長期休暇や休みの都合をつけやすい。
- ・ モニタリングの責任が重大である為、夜勤は複数で産婦に専念できるようにしてほしい。
- ・ 主婦にとって始業時間が日勤9:00であるとありがたい。4週8休程度の休みが取れるとよい。
- ・ 社会保険や福利厚生ないと長く働くことは難しい。
- ・ 就業するかどうか決めるために、試用期間があるとよい。
- ・ 深夜勤のあと日勤があったり、朝まで働いたが休みと考えられ丸1日の休みが少ない。
- ・ 定年まで安定して働ける施設を望む。
- ・ 産科看護婦をおかないでほしい。
- ・ 助産婦としての資格は活かしたいと思うが、家庭や子育てに対する時間的な問題を理解してもらえないと助産師だけではなく看護師としても働けない。賃金についてはあまり優先順位は高くないので時間的に融通のきく職場があるとよい。
- ・ 当直の次の日を休み（週休）にしても、昼近くまで働くことが多いので休みにはならない。休暇が保障される職場を希望する。
- ・ 助産師の産休育休にあたり、派遣体制が出来ると良い。
- ・ オンコールなら可能でも常時となると負担なので、助産師何名かを登録制にして、何日おきに担当するなどあれば、60歳の自分でも可能だと思う。
- ・ 現在未就業であるが、夜勤が複数の助産師で勤務できれば就業できる。
- ・ 不妊治療等又その他疾病治療を受けながらも仕事出来る（時間休がとりやすい）。
- ・ 何人かの助産師が交代で、入れる日に入るというようであれば働けると思う。
- ・ 診療所での勤務形態が今でも朝8時～翌日朝8時、9時までの施設があり、行政指導などで職場改善してほしい。
- ・ 助産師は看護師と比較して責任が重い割には、給与面で優遇されているとはいえない。もう少し仕事量や責任に見合った地位や待遇をしなければ定着は難しいと考える。
- ・ 都心部で就職したいと考えても、自宅通勤でなかったら家賃が高く生活できないので、家賃手当等が欲しい
- ・ 「試用期間」中でも生活できるだけの身分保障がされないと働けない。

2. 人間関係について

- ・ 診療所によってはすでに就業している助産師の考え方に合わないと感じるところがある。
- ・ 医師と助産師とのコミュニケーションが取りやすい状況が良い。
- ・ 看護師や准看護師などの職種との連携や互いの役割分担がしっかりできているところがよい。
- ・ スタッフ間の人間関係が良好なことが何よりの希望である。
- ・ 人間関係が良く、働きやすい環境があれば良い。もし人間関係に問題が生じた場合、上司が察知して解決してくれるような上司がいるところで働きたい。

3. 業務について

- ・ 医師の当直／宅直や病院などとの連携先が決まっている。受入れ症例の基準が明確である施設がよい。
- ・ 助産師、看護師、保健師など様々な職種の役割分担が明確で責任所在が明確である。

- ・ 正常分娩は、できる限り医療介入なしで助産師の判断で経過観察できる。
- ・ 乳房マッサージや妊産褥婦指導が行えるところで働きたい。
- ・ 助産師外来、母乳外来などが充実している。
- ・ 常に相談可能な体制及び、出産後も訪問指導など柔軟に対応しているような施設で働きたい。
- ・ 個々の能力や資格（例えば、マタニティヨガ、ベビーマッサージなど）を発揮できるようにしてもらいたい。
- ・ 母親（両親）学級や母乳外来（相談）、助産婦外来など、母親が最も得たい情報や、相談したい事、困る事などに直接関わっていけるような職場を望む。
- ・ 産科医の仕事まで任せられず、助産業務の範囲で正常分娩を取り扱える安全な環境を望む。
- ・ 地域の助産所、助産師とネットワークが充実して支援が得られる体制が欲しい。
- ・ 満足の行くケアの充実など皆で取り組んでいる所や定期的にハイリスク者のカンファレンスなど医師も助産師も学び合える所で働きたい。
- ・ 分娩介助だけにこだわらず、乳房管理、乳房マッサージ、母乳育児指導など保健指導のみで働ける選択肢も欲しい。
- ・ 医師と対等な立場で妊産婦管理、分娩介助に関われる。
- ・ 助産師業務に集中できる環境を望む。

4. 職場環境について

- ・ 高齢化社会が進み、助産師として働きたくても働く場がないのが現状です（通勤圏内にない）。月にわずかでも助産師として働ける場がほしい。
- ・ 都市では70歳代～80歳代でも助産師は活動可能と聞いていますが、地方では殆ど60才定年で、求人票の募集年齢は40代～50歳以下となっております。60才は未だ現場で働けると自負していますので雇用の場があるとよい。

5. 教育・支援体制について

- ・ 潜在ナースで、現場から何年も離れていると、働けるかどうか不安が大きいので自信が持てるように手取り足取り教えてくれるような指導者、また相談できる先輩がほしい。医療事故に前向きに取り組んでほしい。
- ・ 助産師経験なしなので就職するのが怖いです。未経験やブランク者に対する支援があれば望みます。
- ・ 離職期間が長かったため、業務を行うことができるようになるまで、ある程度の支援をしていただきたい。
- ・ 私はブランクが10年程あり、総合病院に再就職したが、年令的に仲間より上の年令になるので、ブランクがあっても「すぐ現場で力を発揮できる」と誤解され、過度の期待感からのプレッシャーがつらく辞めました。ブランクのある助産師が自信を持ち復帰出来る教育・研修を各地で実施していただければ、是非参加し、フルタイムでの復帰が可能と考えます。再教育に力を入れて下さい。お願い致します。復帰したくても自信がなく家庭に居る仲間がたくさんいます。「分娩をとる自信がない。ブランクが長く怖い」という声があります。数日での研修ではなく、実習も含めて、数ヶ月単位の研修を希望します。
- ・ 新人指導を充分に行ってくれる施設があるとよい。
- ・ 離職期間が長い程、再就職の不安は強い。適宜離職者用の研修を組んで欲しい。
- ・ 現在働いている助産師向けの研修があれば受けたい。
- ・ 勉強や研究を続けるのに時間的配慮や理解の有るところで、仕事を続けたい。

6. 求職活動について

- ・ 現在まで助産師としての就職経験がないので、キャリアカウンセラーに相談し是非病院で経験を積みたい。
- ・ ホームページや携帯情報サイトを使ってより詳細な求人情報（時給、勤務体制、分娩件数、経営理念など）の公開を希望する。
- ・ 転勤族なのでほかの地域でも就職できるような紹介制度があるとよい。
- ・ 日勤のみ希望するパートの助産師の求人が少ないので、需要が増えることを期待する。

7. 経営者の理念について

- ・ 診療所医師がまず、助産師を必要としてほしい。
- ・ 助産師にしか出来ない事も多くあるので、医師には、助産師とお互い協力していくという立場でいて欲しい。
- ・ 経営者が母乳や分娩に対して理解があり、医師と話し合うことができる職場を望む。

- ・ 医師が助産師の仕事を理解しているか否かや医師の分娩に対する考え方などが重要だと思う。
- ・ お産に対する考え方の方向性が同じで助産師としての業務に集中できるのであれば、給料が病院より安くても働くことは可能だと思う。
- ・ 医師の具体的な考え方について知りたいです。お互いの理解があれば十分に協力して仕事出来るのではないかなと思う。お互いに協力的な関係が出来れば働きやすいのではないかなと思う。
- ・ 助産師と協力しあい診療所を発展向上していこうとする考えのある経営者のもとで働きたい。
- ・ 助手や看護師との業務の違いを明確にして助産師の業務について理解し、意見や考え方を受け入れてくれる医師のもとで働きたい。
- ・ 医師の分娩に対する信念や価値観が合致すれば働きたいと思う。

8. その他

- ・ 4 年半診療所で働きました。このアンケートのなかで問題とされていること全てを感じました。何より助産師の就職意欲を高めるには一番の医師に助産師や、新しいお産スタイル、妊産婦のニーズを理解してもらうことだと思います。産科医に対する働きかけ、改善が望まれます。もちろん産科医の中には助産師と一緒にどんどん改革をして下さる、素晴らしい方もいらっしゃいます。そんな先生方とコミュニケーションを計りながら妊産婦にすばらしい出産・子育てをしてもらいたいです。
- ・ 産科診療所では助産師の数が不足していることを実感している。どんなに助産師の仕事が好きでも 24 時間待機の状態が多く、自分の時間がとれなければ、身体的にも精神的にも自分自身にゆとりがなくなる。又助産師がいると妊婦健診や産後ケアが充実するが、助産師の数が少なければ、助産師一人にかかる負担が大きく、外来ケアの充実がはかれない。
- ・ 診療所は勤務が過酷で責任が重すぎる。保健師と違い助産師は地位が低い。また、働きたくても分娩件数が減少し働ける場所が少ない。
- ・ 診療所で 1 年働いたが人間関係が大変で、分娩が多いところだったので月に 1 日も休暇が無い。一月の半分はオンコールであったが給料が安いといった環境であった。施設によっては待遇等にかなり差があると思う。
- ・ 診療所は院長の考え方で方針が決まる為、ホームページ等で院長の方針を明確されていると、就業先の診療所を選ぶ際の目安になる。
- ・ 現在病院で勤務しているが、給与、待遇が同等であれば診療所での就職も考えるが、現在の立場を捨ててまでとは考えにくい。
- ・ 看護師、准看護師に内診・分娩介助等の助産師業務をさせない施設、きちんと助産師を雇用している施設で働きたい。
- ・ 診療所では看護師が分娩に関わっている所も多く、経営者が助産師の雇用を希望していないところも多い。医師に看護師の助産行為は違法であること、また助産師がいることでよいお産にもつながることを理解してほしい。
- ・ 医師が助産師や看護師の勤務内容を理解し、助産師にまかせられる部分を見守ってほしい（きめ細やかな保健指導やケアができる時間を確保し、サービスの向上に努めたい）。
- ・ 資格がありながらずっと助産師として働いていない人が、助産師として働く場合に、即戦力じゃなくても拒まず受け入れて、育てていけるような柔軟性をもった施設が増えてほしい。
- ・ 子育て中でも研修が受けられるように、託児所をつけてほしい。
- ・ 学生向けのリクルート雑誌に「助産師」という仕事があることなど、助産師の仕事をもっとアピールしてほしい。職場は病院等だけでなく、地域（保健センターなど）や保育所などに助産師の設置をもっと強く要請してほしい。
- ・ 医師は 1 回の当直で、分娩が無くても 10 万以上もらえるところもあるので、助産師の待遇もよくしてほしい。

統計表

問 1. 所在地

	件数	%
合計	500	100.0
北海道	23	4.6
青森県	13	2.6
岩手県	7	1.4
宮城県	12	2.4
秋田県	4	0.8
山形県	1	0.2
福島県	2	0.4
茨城県	8	1.6
栃木県	9	1.8
群馬県	9	1.8
埼玉県	5	1.0
千葉県	15	3.0
東京都	64	12.8
神奈川県	20	4.0
新潟県	3	0.6
富山県	2	0.4
石川県	1	0.2
福井県	—	—
山梨県	4	0.8
長野県	9	1.8
岐阜県	7	1.4
静岡県	8	1.6
愛知県	14	2.8
三重県	7	1.4
滋賀県	6	1.2
京都府	9	1.8
大阪府	16	3.2
兵庫県	16	3.2
奈良県	4	0.8
和歌山県	2	0.4
鳥取県	7	1.4
島根県	2	0.4
岡山県	25	5.0
広島県	11	2.2
山口県	6	1.2
徳島県	3	0.6
香川県	17	3.4
愛媛県	1	0.2
高知県	4	0.8
福岡県	22	4.4
佐賀県	3	0.6
長崎県	7	1.4
熊本県	10	2.0
大分県	23	4.6
宮崎県	22	4.4
鹿児島県	22	4.4
沖縄県	13	2.6
無回答	2	0.4

問 2. 年齢

	件数	%
合計	500	100.0
20代	64	12.8
30代	185	37.0
40代	131	26.2
50代	81	16.2
60歳以上	36	7.2
無回答	3	0.6

問 3. 現在の生活における収入源は誰ですか

	件数	%
合計	500	100.0
自分	119	23.8
夫や家族	222	44.4
自分と夫や家族	153	30.6
無回答	6	1.2

問 4. 現在の生活状況について

問 3. 現在の生活における収入源は誰ですか…夫や家族、自分と夫や家族

	件数	%
合計	375	100.0
自分が働かなくても経済的に余裕がある	114	30.4
自分が働かなくても経済的にやっつけけるが余裕はない	202	53.9
自分が働かないと経済的にやっつけけない	55	14.7
無回答	4	1.1

問 5. 子どもの有無

	件数	%
合計	500	100.0
あり	313	62.6
なし	167	33.4
無回答	20	4.0

問 5. 子どもの人数

問 5. 子どもの有無…あり

	件数	%
合計	313	100.0
1人	70	22.4
2人	156	49.8
3人	72	23.0
4人	14	4.5
5人以上	1	0.3
無回答	—	—

問 5. 末子の年齢

問 5. 子どもの有無…あり

	件数	%
合計	313	100.0
1歳未満	18	5.8
1～3歳未満	50	16.0
3～6歳未満	56	17.9
6～12歳未満	68	21.7
12～18歳未満	34	10.9
18～27歳未満	35	11.2
27歳以上	27	8.6
無回答	25	8.0

問 5-1. 昼間や夜間に子どもの世話をしてくれる家族や保育者等の有無

問 5. 子どもの有無…あり

問 5. 末子の年齢…12歳以下

	件数	%
合計	199	100.0
あり	71	35.7
なし	125	62.8
無回答	3	1.5

問５－２．保育所等の利用の有無

問５．子どもの有無…あり

問５．末子の年齢…６歳以下

	件数	%
合計	135	100.0
あり	62	45.9
なし	70	51.9
無回答	3	2.2

問５－３．子どもの世話をしてもらえる頻度〔日数〕

問５．子どもの有無…あり

問５．末子の年齢…12歳以下

	件数	%
合計	199	100.0
毎日	24	12.1
週に５～６回	44	22.1
週に３～４回	7	3.5
週に１～２回	39	19.6
無回答	85	42.7

問５－３．子どもの世話をしてもらえる頻度〔時間帯〕

問５．子どもの有無…あり

問５．末子の年齢…12歳以下

	件数	%
合計	199	100.0
夜間を含めていつでも可	17	8.5
昼間ならいつでも可	37	18.6
昼間のみ半日程度なら可	33	16.6
その他	34	17.1
無回答	78	39.2

問６．あなたが介護をしている家族等はいですか

	件数	%
合計	500	100.0
いる	39	7.8
いない	458	91.6
無回答	3	0.6

問７．あなたがお持ちの資格

	件数	%
合計	500	100.0
助産師	494	98.8
保健師	109	21.8
看護師	496	99.2
その他	74	14.8
無回答	1	0.2

問８．助産師免許を取得するための基礎教育はどこで受けましたか

	件数	%
合計	500	100.0
看護系大学	32	6.4
看護系短大専攻科	137	27.4
助産師養成所	327	65.4
無回答	4	0.8

問９．助産師免許取得年はいつですか

	件数	%
合計	500	100.0
1965年以前	9	1.8
1966～1970年	33	6.6
1971～1975年	32	6.4
1976～1980年	40	8.0
1981～1985年	74	14.8
1986～1990年	71	14.2
1991～1995年	92	18.4
1996～2000年	86	17.2
2001年以降	49	9.8
無回答	14	2.8

問10. 助産師になってから現在までの総分娩介助件数

	件数	%
合計	500	100.0
20件未満	42	8.4
20～50件未満	21	4.2
50～100件未満	41	8.2
100～200件未満	99	19.8
200～500件未満	133	26.6
500～1000件未満	67	13.4
1000件以上	54	10.8
無回答	43	8.6

問11. あなたがこれまでに助産師として経験した業務

	件数	%
合計	500	100.0
妊婦の診察	358	71.6
妊婦の保健指導	457	91.4
産婦の診察	434	86.8
分娩介助	470	94.0
褥婦の診察	470	94.0
褥婦の保健指導	469	93.8
1ヶ月健診	326	65.2
母乳保育への指導	454	90.8
新生児の観察とケア	473	94.6
乳房管理	458	91.6
退院後の訪問指導	204	40.8
育児相談	341	68.2
学級活動（両親・母親・育児）	422	84.4
ハイリスク妊産婦のケア	368	73.6
ハイリスク新生児のケア（NICU）	154	30.8
婦人科業務	376	75.2
不妊相談	106	21.2
中高年相談	79	15.8
家族計画指導	361	72.2
その他	41	8.2
無回答	14	2.8

問12. あなたの居住地の近く（車などで30分以内）に分娩を取り扱っている産科診療所はありますか

	件数	%
合計	500	100.0
ある	431	86.2
ない	31	6.2
わからない	33	6.6
無回答	5	1.0

問13. あなたが助産師として働いた通算経験年数はどれくらいですか

	件数	%
合計	500	100.0
1年未満	37	7.4
1～2年未満	25	5.0
2～3年未満	25	5.0
3～4年未満	48	9.6
4～5年未満	39	7.8
5～10年未満	159	31.8
10～20年未満	110	22.0
20年以上	53	10.6
無回答	4	0.8

問14. 現在離職中ですか

	件数	%
合計	500	100.0
はい	272	54.4
いいえ	227	45.4
無回答	1	0.2

問15. 前回の職場を退職してからの離職期間はどれぐらいですか

問14. 現在離職中ですか…はい

	件数	%
合計	272	100.0
1年未満	86	31.6
1～3年未満	60	22.1
3～5年未満	40	14.7
5～10年未満	41	15.1
10～15年未満	21	7.7
15年以上	19	7.0
無回答	5	1.8

問16. 退職前に働いていた職場はどのような施設ですか

問14. 現在離職中ですか…はい

	件数	%
合計	272	100.0
病院	200	73.5
診療所	30	11.0
助産所	5	1.8
行政機関	9	3.3
看護教育機関	16	5.9
その他	8	2.9
無回答	4	1.5

問17. 前回の職場を退職した理由は何ですか

問14. 現在離職中ですか…はい

	件数	%
合計	272	100.0
結婚	62	22.8
出産・育児	65	23.9
家族の健康・介護	25	9.2
自分の健康	51	18.8
定年	12	4.4
転居	36	13.2
進学	10	3.7
留学	1	0.4
夫の転勤	46	16.9
給与が安い	9	3.3
施設の閉鎖等による雇用者側の都合	14	5.1
雇用形態への不満	16	5.9
勤務時間が長い・残業が多い	39	14.3
休暇が取れない	26	9.6
夜勤負担が大きい	36	13.2
通勤時間がかかる	14	5.1
業務負担が大きい	35	12.9
同僚との関係が悪い	10	3.7
上司や雇用者との関係が悪い	16	5.9
分娩を扱っていないため助産師としての業務ができない	9	3.3
経営理念（看護理念）や方針に不満	21	7.7
自立性や専門性が認められないなど業務内容に不満	19	7.0
仕事への興味ややりがいがない	9	3.3
自分の適性への不安	15	5.5
技術が磨けないなどのキャリアアップの機会がない	9	3.3
責任の重さや医療事故への不安	37	13.6
他の職場への興味	11	4.0
医療のIT化についていけない	3	1.1
その他	38	14.0
無回答	2	0.7

問18. 助産師として働くようになってから、看護師など他の職種で働いた経験はありますか

問13. あなたが助産師として働いた通算経験年数はどれぐらいですか…助産師として働いた経験がある

	件数	%
合計	470	100.0
ある	283	60.2
ない	172	36.6
無回答	15	3.2

問18－ 1．助産師として働けなかった理由は何ですか

問13. あなたが助産師として働いた通算経験年数はどれくらいですか…助産師として働いた経験がある

問18. 助産師として働くようになってから、看護師など他の職種で働いた経験はありますか…ある

	件数	%
合計	283	100.0
助産師として働ける職場がなかった	72	25.4
施設の閉鎖等による雇用者側の都合	36	12.7
助産師としての業務内容に不満	6	2.1
給与が安い	5	1.8
休暇が取れない	11	3.9
勤務時間が長い・残業が多い	33	11.7
当直・夜勤ができない	73	25.8
職場の雰囲気や人間関係が悪い	11	3.9
育児や介護等自分の生活に合わせた柔軟な働き方ができない	59	20.8
助産師という仕事が嫌になった	9	3.2
助産師として働く自信がなくなった	33	11.7
その他	122	43.1
無回答	3	1.1

問19. 今までに職場を変わった経験はありますか

	件数	%
合計	500	100.0
ある	374	74.8
ない	109	21.8
無回答	17	3.4

問19－ 1．職場を変わった回数は合計何回ですか

問19. 今までに職場を変わった経験はありますか…ある

	件数	%
合計	374	100.0
1回	92	24.6
2回	100	26.7
3回	80	21.4
4回	42	11.2
5回	28	7.5
6回以上	21	5.6
無回答	11	2.9

問19－ 2．あなたが今までに働いたことのある職場は、どのような施設ですか

問19. 今までに職場を変わった経験はありますか…ある

	件数	%
合計	374	100.0
病院	338	90.4
診療所	133	35.6
助産所	24	6.4
行政機関	98	26.2
看護教育機関	66	17.6
その他	63	16.8
無回答	4	1.1

問20. あなたが現在働いている職場はどのような施設ですか

問14. 現在離職中ですか…いいえ

	件数	%
合計	227	100.0
病院	76	33.5
診療所	39	17.2
助産所	11	4.8
行政機関	37	16.3
看護教育機関	17	7.5
その他	31	13.7
無回答	16	7.0

問21. 現在の勤務形態は何ですか

問14. 現在離職中ですか…いいえ

	件数	%
合計	227	100.0
常勤	97	42.7
非常勤（嘱託・パートアルバイトを含む）	112	49.3
無回答	18	7.9

問22. あなたが現在の職場に就職して2005年12月時点で勤続何年何ヶ月になりますか

問14. 現在離職中ですか…いいえ

	件数	%
合計	227	100.0
1年未満	78	34.4
1～3年未満	40	17.6
3～5年未満	36	15.9
5～10年未満	30	13.2
10年以上	23	10.1
無回答	20	8.8

問23. あなたは現在の職場でどのような業務に携わっていますか

問14. 現在離職中ですか…いいえ

	件数	%
合計	227	100.0
病院・診療所における分娩介助や妊産婦ケア（病棟、外来）	76	33.5
学級活動（両親・母親・育児）等での教育指導	55	24.2
母子中心の家庭訪問	35	15.4
NICU看護	1	0.4
産科病棟・NICU以外の医療機関の看護	34	15.0
医療機関以外の施設や訪問看護など	47	20.7
助産所の運営・管理（開業）	9	4.0
教育	14	6.2
その他	21	9.3
無回答	21	9.3

問23－1. 分娩介助等、助産師として携われる業務につきたいと思いますか

問14. 現在離職中ですか…いいえ

問23. あなたは現在の職場でどのような業務に携わっていますか…助産師としての業務に携わっていない

	件数	%
合計	86	100.0
思う	40	46.5
思わない	11	12.8
どちらともいえない	24	27.9
無回答	11	12.8

問24. 現在の職場を選んだ理由について

問14. 現在離職中ですか…いいえ

	件数	%
合計	227	100.0
業務内容に満足している	42	18.5
通勤の便がよい	90	39.6
施設の運営・経営理念があっている	15	6.6
納得のできる看護ができる	16	7.0
日勤のみの勤務である	77	33.9
給与水準が高い	32	14.1
職場の雰囲気がよい	36	15.9
職場の人間関係がよい	42	18.5
教育・研究体制がしっかりしている	15	6.6
周囲に適した職場がない	44	19.4
休暇制度が充実している	18	7.9
業務の責任体制がしっかりしている	15	6.6
医療事故・傷害事故対策がしっかりしている	4	1.8
管理者などの人柄がよい	29	12.8
託児所があり子どもをあずけて働ける	1	0.4
体制が整っており、子育てと仕事の両立がしやすい	7	3.1
特になし	7	3.1
その他	55	24.2
無回答	45	19.8

問25. あなたが抱く産科診療所に対するイメージにはどのようなものがありますか

問25－1. 外来から入退院まで一連のケアが継続して行える

	件数	%
合計	500	100.0
とてもそう思う	134	26.8
まあそう思う	213	42.6
あまりそう思わない	125	25.0
全くそう思わない	18	3.6
無回答	10	2.0

問25－ 2．助産技術を修得し自立して助産業務を行うことができる

件数 %

合計	500	100.0
とても思う	94	18.8
まあ思う	185	37.0
あまりそう思わない	175	35.0
全くそう思わない	39	7.8
無回答	7	1.4

問25－ 3．妊産婦の生活に応じたケアができる

件数 %

合計	500	100.0
とても思う	96	19.2
まあ思う	211	42.2
あまりそう思わない	165	33.0
全くそう思わない	19	3.8
無回答	9	1.8

問25－ 4．妊婦さんに接する時間がゆっくりとれる

件数 %

合計	500	100.0
とても思う	90	18.0
まあ思う	153	30.6
あまりそう思わない	210	42.0
全くそう思わない	40	8.0
無回答	7	1.4

問25－ 5．期待できる給料がもらえない

件数 %

合計	500	100.0
とても思う	119	23.8
まあ思う	216	43.2
あまりそう思わない	140	28.0
全くそう思わない	16	3.2
無回答	9	1.8

問25－ 6．残業が多い

件数 %

合計	500	100.0
とても思う	168	33.6
まあ思う	199	39.8
あまりそう思わない	116	23.2
全くそう思わない	10	2.0
無回答	7	1.4

問25－ 7．休暇がとりにくい

件数 %

合計	500	100.0
とても思う	227	45.4
まあ思う	201	40.2
あまりそう思わない	59	11.8
全くそう思わない	7	1.4
無回答	6	1.2

問25－ 8．夜勤が多い

件数 %

合計	500	100.0
とても思う	188	37.6
まあ思う	213	42.6
あまりそう思わない	83	16.6
全くそう思わない	9	1.8
無回答	7	1.4

問25－9. 妊産婦へのメンタルケアが充実している

件数 %

合計	500	100.0
とてもそう思う	44	8.8
まあそう思う	145	29.0
あまりそう思わない	257	51.4
全くそう思わない	47	9.4
無回答	7	1.4

問25－10. 母児へのきめ細かな対応ができる

件数 %

合計	500	100
とてもそう思う	70	14.0
まあそう思う	176	35.2
あまりそう思わない	208	41.6
全くそう思わない	38	7.6
無回答	8	1.6

問25－11. 分娩介助等の業務に主体的に取り組める

件数 %

合計	500	100.0
とてもそう思う	84	16.8
まあそう思う	175	35.0
あまりそう思わない	196	39.2
全くそう思わない	38	7.6
無回答	7	1.4

問25－12. より自然な出産に関われる

件数 %

合計	500	100.0
とてもそう思う	74	14.8
まあそう思う	166	33.2
あまりそう思わない	197	39.4
全くそう思わない	57	11.4
無回答	6	1.2

問25－13. 責任が重い

件数 %

合計	500	100.0
とてもそう思う	269	53.8
まあそう思う	176	35.2
あまりそう思わない	43	8.6
全くそう思わない	3	0.6
無回答	9	1.8

問25－14. 先輩・同僚からの指導が受けれない

件数 %

合計	500	100.0
とてもそう思う	156	31.2
まあそう思う	191	38.2
あまりそう思わない	128	25.6
全くそう思わない	17	3.4
無回答	8	1.6

問25－15. 研修等に参加できない

件数 %

合計	500	100.0
とてもそう思う	125	25.0
まあそう思う	182	36.4
あまりそう思わない	160	32.0
全くそう思わない	24	4.8
無回答	9	1.8

問25－16. カンファレンスの場がもてない

件数 %

合計	500	100.0
とてもそう思う	122	24.4
まあそう思う	189	37.8
あまりそう思わない	164	32.8
全くそう思わない	16	3.2
無回答	9	1.8

問25－17. 助産師業務以外の仕事業務が多い

	件数	%
合計	500	100.0
とてもそう思う	164	32.8
まあそう思う	213	42.6
あまりそう思わない	105	21.0
全くそう思わない	11	2.2
無回答	7	1.4

問25－18. 母乳育児の支援が充実する

	件数	%
合計	500	100.0
とてもそう思う	75	15.0
まあそう思う	217	43.4
あまりそう思わない	171	34.2
全くそう思わない	30	6.0
無回答	7	1.4

問25－19. 助産師としてのスキルが磨ける

	件数	%
合計	500	100.0
とてもそう思う	64	12.8
まあそう思う	197	39.4
あまりそう思わない	198	39.6
全くそう思わない	32	6.4
無回答	9	1.8

問25－20. 分娩時のオンコール体制がある

	件数	%
合計	500	100.0
とてもそう思う	176	35.2
まあそう思う	213	42.6
あまりそう思わない	74	14.8
全くそう思わない	20	4.0
無回答	17	3.4

問25－21. 医師（経営者）との人間関係が難しい

	件数	%
合計	500	100.0
とてもそう思う	200	40.0
まあそう思う	180	36.0
あまりそう思わない	104	20.8
全くそう思わない	8	1.6
無回答	8	1.6

問25－22. 助産師以外の他職種との人間関係が難しい

	件数	%
合計	500	100.0
とてもそう思う	129	25.8
まあそう思う	185	37.0
あまりそう思わない	164	32.8
全くそう思わない	14	2.8
無回答	8	1.6

問26. 産科診療所で期待される助産師の能力はどのようなものがあると考えますか

問26－1. 正常分娩の介助が1人でできる

	件数	%
合計	500	100.0
とてもそう思う	295	59.0
まあそう思う	149	29.8
あまりそう思わない	46	9.2
全くそう思わない	4	0.8
無回答	6	1.2

問26－2. 妊婦の健康診査と経過診断・保健指導ができる

	件数	%
合計	500	100.0
とてもそう思う	286	57.2
まあそう思う	166	33.2
あまりそう思わない	39	7.8
全くそう思わない	3	0.6
無回答	6	1.2

問26－ 3． 外診や内診ができる

	件数	%
合計	500	100.0
とてもそう思う	323	64.6
まあそう思う	148	29.6
あまりそう思わない	20	4.0
全くそう思わない	2	0.4
無回答	7	1.4

問26－ 4． 分娩監視装置の装着と判読ができる

	件数	%
合計	500	100.0
とてもそう思う	339	67.8
まあそう思う	140	28.0
あまりそう思わない	14	2.8
全くそう思わない	1	0.2
無回答	6	1.2

問26－ 5． 妊娠期・分娩期の異常の判断やその援助ができる

	件数	%
合計	500	100.0
とてもそう思う	320	64.0
まあそう思う	145	29.0
あまりそう思わない	27	5.4
全くそう思わない	2	0.4
無回答	6	1.2

問26－ 6． 正常新生児の健診と保健指導ができる

	件数	%
合計	500	100.0
とてもそう思う	306	61.2
まあそう思う	158	31.6
あまりそう思わない	26	5.2
全くそう思わない	4	0.8
無回答	6	1.2

問26－ 7． 新生児の観察により正常と異常の判断ができる

	件数	%
合計	500	100.0
とてもそう思う	318	63.6
まあそう思う	154	30.8
あまりそう思わない	21	4.2
全くそう思わない	1	0.2
無回答	6	1.2

問26－ 8． 正常褥婦への健康診査と経過診断・保健指導ができる

	件数	%
合計	500	100.0
とてもそう思う	334	66.8
まあそう思う	142	28.4
あまりそう思わない	15	3.0
全くそう思わない	1	0.2
無回答	8	1.6

問26－ 9． 育児指導（母乳育児指導、沐浴、育児法等）ができる

	件数	%
合計	500	100.0
とてもそう思う	364	72.8
まあそう思う	122	24.4
あまりそう思わない	7	1.4
全くそう思わない	1	0.2
無回答	6	1.2

問26－10． 乳房管理ができる

	件数	%
合計	500	100.0
とてもそう思う	346	69.2
まあそう思う	129	25.8
あまりそう思わない	16	3.2
全くそう思わない	3	0.6
無回答	6	1.2

問26－11. リスクマネジメントに対する知識と判断力がある

	件数	%
合計	500	100.0
とてもそう思う	251	50.2
まあそう思う	191	38.2
あまりそう思わない	46	9.2
全くそう思わない	5	1.0
無回答	7	1.4

問26－12. 医師（経営者）との人間関係を円滑に保つことができる

	件数	%
合計	500	100.0
とてもそう思う	208	41.6
まあそう思う	240	48.0
あまりそう思わない	42	8.4
全くそう思わない	3	0.6
無回答	7	1.4

問26－13. 同僚との人間関係を円滑に保つことができる

	件数	%
合計	500	100.0
とてもそう思う	207	41.4
まあそう思う	246	49.2
あまりそう思わない	38	7.6
全くそう思わない	2	0.4
無回答	7	1.4

問26－14. 地域の住民と信頼関係を築くことができる

	件数	%
合計	500	100.0
とてもそう思う	194	38.8
まあそう思う	211	42.2
あまりそう思わない	78	15.6
全くそう思わない	10	2.0
無回答	7	1.4

問26－15. 産科診療所の経営に理解がある

	件数	%
合計	500	100.0
とてもそう思う	133	26.6
まあそう思う	237	47.4
あまりそう思わない	109	21.8
全くそう思わない	13	2.6
無回答	8	1.6

問26－16. 妊産婦や地域住民とのコミュニケーション能力がある

	件数	%
合計	500	100.0
とてもそう思う	223	44.6
まあそう思う	210	42.0
あまりそう思わない	52	10.4
全くそう思わない	8	1.6
無回答	7	1.4

問26－17. 妊産婦・新生児の状態を医師へ的確に伝えることができる

	件数	%
合計	500	100.0
とてもそう思う	326	65.2
まあそう思う	153	30.6
あまりそう思わない	15	3.0
全くそう思わない	—	—
無回答	6	1.2

問27. あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか

問14&問23. あなたは産科診療所で助産師として就業していますか…産科診療所で助産師として就業していない

	件数	%
合計	358	100.0
是非働きたい	32	8.9
選択肢として考えたい	202	56.4
気がすすまない	62	17.3
働く意向はまったくない	52	14.5
無回答	10	2.8

問28. 働くとしたら、どのような勤務形態を希望しますか

問14&問23. あなたは産科診療所で助産師として就業していますか…産科診療所で助産師として就業していない

問27. あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか…是非働きたい、選択肢として考えたい、気がすすまない

	件数	%
合計	296	100.0
常勤	93	31.4
非常勤（嘱託・パートアルバイトを含む）	202	68.2
無回答	1	0.3

問29. 勤務日数について

問14&問23. あなたは産科診療所で助産師として就業していますか…産科診療所で助産師として就業していない

問27. あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか…是非働きたい、選択肢として考えたい、気がすすまない

	件数	%
合計	296	100.0
週に5日程度	118	39.9
週3～4日程度	140	47.3
週1～2日程度	31	10.5
その他	5	1.7
無回答	2	0.7

問30. 1日の勤務時間について

問14&問23. あなたは産科診療所で助産師として就業していますか…産科診療所で助産師として就業していない

問27. あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか…是非働きたい、選択肢として考えたい、気がすすまない

	件数	%
合計	296	100.0
7～8時間	132	44.6
5～6時間	117	39.5
3～4時間	44	14.9
その他	1	0.3
無回答	2	0.7

問31. 希望する勤務体制について

問14&問23. あなたは産科診療所で助産師として就業していますか…産科診療所で助産師として就業していない

問27. あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか…是非働きたい、選択肢として考えたい、気がすすまない

	件数	%
合計	296	100.0
日勤のみ	190	64.2
月1～2回程度の夜勤なら可能	45	15.2
月3～5回程度の夜勤なら可能	32	10.8
月6～8回程度の夜勤なら可能	10	3.4
月9回以上の夜勤でも可能	3	1.0
夜勤のみでも可能	7	2.4
オンコールなら可能	1	0.3
その他	4	1.4
無回答	4	1.4

問31. 希望する勤務体制について

問14&問23. あなたは産科診療所で助産師として就業していますか…産科診療所で助産師として就業していない

問27. あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか…是非働きたい、選択肢として考えたい、気がすすまない

問31. 希望する勤務体制について…夜勤のみでも可能

	件数	%
合計	7	100.0
4回未満	2	28.6
4～6回未満	2	28.6
6～8回未満	1	14.3
8回以上	1	14.3
無回答	1	14.3

問32－1. 希望給与額（税込み総支給額）／月給

問14&問23. あなたは産科診療所で助産師として就業していますか…産科診療所で助産師として就業していない

問27. あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか…是非働きたい、選択肢として考えたい、気がすすまない

	件数	%
合計	296	100.0
20万円未満	23	7.8
20～25万円未満	28	9.5
25～30万円未満	50	16.9
30～35万円未満	61	20.6
35～40万円未満	23	7.8
40万円以上	13	4.4
無回答	98	33.1

問32－ 2. 希望給与額（税込み総支給額）／時給

問14&問23. あなたは産科診療所で助産師として就業していますか…産科診療所で助産師として就業していない

問27. あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか…是非働きたい、選択肢として考えたい、気がすすまない

	件数	%
合計	296	100.0
1 0 0 0 円未満	1	0.3
1 0 0 0 ～ 1 5 0 0 円未満	50	16.9
1 5 0 0 ～ 2 0 0 0 円未満	106	35.8
2 0 0 0 ～ 2 5 0 0 円未満	68	23.0
2 5 0 0 ～ 3 0 0 0 円未満	8	2.7
3 0 0 0 円以上	8	2.7
無回答	55	18.6

問32－ 3. 希望給与額（税込み総支給額）／日給

問14&問23. あなたは産科診療所で助産師として就業していますか…産科診療所で助産師として就業していない

問27. あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか…是非働きたい、選択肢として考えたい、気がすすまない

	件数	%
合計	296	100.0
1 0 0 0 0 円未満	20	6.8
1 0 0 0 0 ～ 1 2 0 0 0 円未満	42	14.2
1 2 0 0 0 ～ 1 4 0 0 0 円未満	31	10.5
1 4 0 0 0 ～ 1 6 0 0 0 円未満	34	11.5
1 6 0 0 0 ～ 2 0 0 0 0 円未満	15	5.1
2 0 0 0 0 円以上	13	4.4
無回答	141	47.6

問32－ 4. 希望給与額（税込み総支給額）／夜勤当直

問14&問23. あなたは産科診療所で助産師として就業していますか…産科診療所で助産師として就業していない

問27. あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか…是非働きたい、選択肢として考えたい、気がすすまない

	件数	%
合計	296	100.0
1 0 0 0 0 円未満	9	3.0
1 0 0 0 0 ～ 1 5 0 0 0 円未満	16	5.4
1 5 0 0 0 ～ 2 0 0 0 0 円未満	23	7.8
2 0 0 0 0 ～ 2 5 0 0 0 円未満	44	14.9
2 5 0 0 0 ～ 3 5 0 0 0 円未満	45	15.2
3 5 0 0 0 円以上	15	5.1
無回答	144	48.6

問32－ 5. 希望給与額（税込み総支給額）／分娩オンコール 1 件につき

問14&問23. あなたは産科診療所で助産師として就業していますか…産科診療所で助産師として就業していない

問27. あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか…是非働きたい、選択肢として考えたい、気がすすまない

	件数	%
合計	296	100.0
1 0 0 0 0 円未満	8	2.7
1 0 0 0 0 ～ 1 5 0 0 0 円未満	21	7.1
1 5 0 0 0 ～ 2 0 0 0 0 円未満	5	1.7
2 0 0 0 0 ～ 3 0 0 0 0 円未満	49	16.6
3 0 0 0 0 ～ 3 5 0 0 0 円未満	29	9.8
3 5 0 0 0 円以上	20	6.8
無回答	164	55.4

問33. あなたが産科診療所に就業する際、以下の条件をどれくらい希望しますか

問33－ 1. 託児所がある

問14&問23. あなたは産科診療所で助産師として就業していますか…産科診療所で助産師として就業していない

問27. あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか…是非働きたい、選択肢として考えたい、気がすすまない

	件数	%
合計	296	100.0
とても希望する	88	29.7
やや希望する	70	23.6
あまり希望しない	43	14.5
全く希望しない	81	27.4
無回答	14	4.7

問33－ 2. 産前・産後の休暇が取れ、勤務のなかで授乳や子育ての時間がとれる

問14&問23. あなたは産科診療所で助産師として就業していますか…産科診療所で助産師として就業していない

問27. あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか…是非働きたい、選択肢として考えたい、気がすすまない

	件数	%
合計	296	100.0
とても希望する	141	47.6
やや希望する	58	19.6
あまり希望しない	17	5.7
全く希望しない	65	22.0
無回答	15	5.1

問33－ 3．子どもの病気や行事のときには休暇がとれる

問14&問23. あなたは産科診療所で助産師として就業していますか…産科診療所で助産師として就業していない

問27. あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか…是非働きたい、選択肢として考えたい、気がすすまない

	件数	%
合計	296	100.0
とても希望する	222	75.0
やや希望する	29	9.8
あまり希望しない	1	0.3
全く希望しない	29	9.8
無回答	15	5.1

問33－ 4．残業がなく夜勤ができなくても就業できる

問14&問23. あなたは産科診療所で助産師として就業していますか…産科診療所で助産師として就業していない

問27. あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか…是非働きたい、選択肢として考えたい、気がすすまない

	件数	%
合計	296	100.0
とても希望する	219	74.0
やや希望する	50	16.9
あまり希望しない	15	5.1
全く希望しない	8	2.7
無回答	4	1.4

問33－ 5．病院で働く場合とほぼ同額の給与が確保される

問14&問23. あなたは産科診療所で助産師として就業していますか…産科診療所で助産師として就業していない

問27. あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか…是非働きたい、選択肢として考えたい、気がすすまない

	件数	%
合計	296	100.0
とても希望する	182	61.5
やや希望する	83	28.0
あまり希望しない	22	7.4
全く希望しない	3	1.0
無回答	6	2.0

問33－ 6．助産師としての業務に集中できる

問14&問23. あなたは産科診療所で助産師として就業していますか…産科診療所で助産師として就業していない

問27. あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか…是非働きたい、選択肢として考えたい、気がすすまない

	件数	%
合計	296	100.0
とても希望する	208	70.3
やや希望する	73	24.7
あまり希望しない	12	4.1
全く希望しない	—	—
無回答	3	1.0

問33－ 7．複数の助産師がいる

問14&問23. あなたは産科診療所で助産師として就業していますか…産科診療所で助産師として就業していない

問27. あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか…是非働きたい、選択肢として考えたい、気がすすまない

	件数	%
合計	296	100.0
とても希望する	251	84.8
やや希望する	34	11.5
あまり希望しない	6	2.0
全く希望しない	1	0.3
無回答	4	1.4

問33－ 8．柔軟な勤務体制のなかで働くことができる

問14&問23. あなたは産科診療所で助産師として就業していますか…産科診療所で助産師として就業していない

問27. あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか…是非働きたい、選択肢として考えたい、気がすすまない

	件数	%
合計	296	100.0
とても希望する	241	81.4
やや希望する	49	16.6
あまり希望しない	2	0.7
全く希望しない	－	－
無回答	4	1.4

問33－ 9．院内における教育支援体制がある

問14&問23. あなたは産科診療所で助産師として就業していますか…産科診療所で助産師として就業していない

問27. あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか…是非働きたい、選択肢として考えたい、気がすすまない

	件数	%
合計	296	100.0
とても希望する	187	63.2
やや希望する	86	29.1
あまり希望しない	18	6.1
全く希望しない	2	0.7
無回答	3	1.0

問33－10．院外研修に出席できる

問14&問23. あなたは産科診療所で助産師として就業していますか…産科診療所で助産師として就業していない

問27. あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか…是非働きたい、選択肢として考えたい、気がすすまない

	件数	%
合計	296	100.0
とても希望する	186	62.8
やや希望する	86	29.1
あまり希望しない	19	6.4
全く希望しない	2	0.7
無回答	3	1.0

問33－11．同僚が助産師の活動に対して理解・支援をしてくれる

問14&問23. あなたは産科診療所で助産師として就業していますか…産科診療所で助産師として就業していない

問27. あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか…是非働きたい、選択肢として考えたい、気がすすまない

	件数	%
合計	296	100.0
とても希望する	226	76.4
やや希望する	66	22.3
あまり希望しない	1	0.3
全く希望しない	－	－
無回答	3	1.0

問33－12．分娩のないときは夜勤をせず、分娩があるときだけ当直で働く

問14&問23. あなたは産科診療所で助産師として就業していますか…産科診療所で助産師として就業していない

問27. あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか…是非働きたい、選択肢として考えたい、気がすすまない

	件数	%
合計	296	100.0
とても希望する	57	19.3
やや希望する	74	25.0
あまり希望しない	100	33.8
全く希望しない	52	17.6
無回答	13	4.4

問33－13．医師（経営者）が助産師の考え方に賛同してくれる

問14&問23. あなたは産科診療所で助産師として就業していますか…産科診療所で助産師として就業していない

問27. あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか…是非働きたい、選択肢として考えたい、気がすすまない

	件数	%
合計	296	100.0
とても希望する	237	80.1
やや希望する	51	17.2
あまり希望しない	3	1.0
全く希望しない	1	0.3
無回答	4	1.4

問35. 就労希望時期はいつごろですか

問14&問23. あなたは産科診療所で助産師として就業していますか…産科診療所で助産師として就業していない

問27. あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか…是非働きたい、選択肢として考えたい、気がすすまない

	件数	%
合計	296	100.0
すぐにでも働きたい	85	28.7
約何ヶ月後に働きたい	53	17.9
約何年後に働きたい	39	13.2
わからない	101	34.1
無回答	18	6.1

問35. 就労希望時期はいつごろですか

問14&問23. あなたは産科診療所で助産師として就業していますか…産科診療所で助産師として就業していない

問27. あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか…是非働きたい、選択肢として考えたい、気がすすまない

問35. 就労希望時期はいつごろですか…約何ヶ月後に働きたい

	件数	%
合計	53	100.0
1ヶ月後	3	5.7
2ヶ月後	15	28.3
3ヶ月後	24	45.3
4ヶ月後	4	7.5
5ヶ月後	1	1.9
6ヶ月後	5	9.4
7ヶ月後以上	1	1.9
無回答	—	—

問35. 就労希望時期はいつごろですか

問14&問23. あなたは産科診療所で助産師として就業していますか…産科診療所で助産師として就業していない

問27. あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか…是非働きたい、選択肢として考えたい、気がすすまない

問35. 就労希望時期はいつごろですか…約何年後に働きたい

	件数	%
合計	39	100.0
1年後	15	38.5
2年後	11	28.2
3年後	6	15.4
4年後	2	5.1
5年後	3	7.7
6年後以上	2	5.1
無回答	—	—

問36. 産科診療所での就業を希望しない理由

問14&問23. あなたは産科診療所で助産師として就業していますか…産科診療所で助産師として就業していない

問27. あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか…働く意向はまったくない

	件数	%
合計	52	100.0
希望する給与がもらえないと思う	7	13.5
残業が多く休暇が取れないと思う	11	21.2
夜勤はできない	21	40.4
保険や社宅などの福利厚生が整っていないと思う	6	11.5
予定外の残業がある	13	25.0
助産師業務以外の多くの雑務をやらなければならないと思う	15	28.8
技術指導が受けられないと思う	8	15.4
医師や古くからの職員とうまくやっていく自信がない	13	25.0
研修会等に参加できないと思う	7	13.5
子どもが生まれると預けるところがなく働けないと思う	2	3.8
体力的な負担が重いと思う	25	48.1
少ない人数のなかで働くので責任が重く自信がない	12	23.1
現在就業中であり、今の職場で満足している	7	13.5
産科診療所に限らず今は働く意志がない	18	34.6
その他	19	36.5
無回答	1	1.9

問37. 助産師としての、スキルアップ研修などの研修が開催される場合、参加を希望しますか

	件数	%
合計	500	100.0
参加したい	407	81.4
参加したくない	18	3.6
わからない	52	10.4
無回答	23	4.6

問37－ 1. 研修で受けた内容は何ですか

問37. 助産師としての、スキルアップ研修などの研修が開催される場合、参加を希望しますか…参加したい

	件数	%
合計	500	100.0
分娩介助等の実技演習	201	49.4
最近の産科管理	283	69.5
母乳育児管理	280	68.8
超音波分娩監視装置など最近の医療	283	69.5
妊婦健康診査・標準的保健指導	173	42.5
妊・産・褥婦のケアと実際	168	41.3
助産記録のあり方と実際	127	31.2
産科救急の対処	275	67.6
アクティブベース・フリースタイルなどのスタイルについて	249	61.2
産科の医療安全と事故防止	212	52.1
子育て支援と虐待防止	179	44.0
コミュニケーションスキル	116	28.5
助産師のキャリア開発	155	38.1
新生児のケアと実際	205	50.4
その他	28	6.9
無回答	2	0.5

問38. もし、キャリアカウンセラーが身近にいる場合、就職活動に活用したいと思いますか

	件数	%
合計	500	100.0
活用したい	265	53.0
活用しようと思わない	58	11.6
わからない	154	30.8
無回答	23	4.6

問39. 求職活動を行う際に以下の方法を活用したことがありますか。また今後活用したいと思いますか

問39－ 1. 活用状況／新聞・雑誌等の求人広告

	件数	%
合計	500	100.0
活用あり	209	41.8
活用なし	232	46.4
無回答	59	11.8

問39－ 1. 活用希望／新聞・雑誌等の求人広告

	件数	%
合計	100.0	251.0
希望あり	251	50.2
希望なし	101	20.2
わからない	75	15.0
無回答	73	14.6

問39－ 2. 活用状況／ナースセンター（e－ナースセンターも含む）

	件数	%
合計	500	100.0
活用あり	347	69.4
活用なし	122	24.4
無回答	31	6.2

問39－ 2. 活用希望／ナースセンター（e－ナースセンターも含む）

	件数	%
合計	500	100.0
希望あり	367	73.4
希望なし	36	7.2
わからない	36	7.2
無回答	61	12.2

問39－ 3．活用状況／ハローワーク

	件数	%
合計	500	100.0
活用あり	241	48.2
活用なし	217	43.4
無回答	42	8.4

問39－ 3．活用希望／ハローワーク

	件数	%
合計	500	100.0
希望あり	280	56.0
希望なし	85	17.0
わからない	67	13.4
無回答	68	13.6

問39－ 4．活用状況／有料職業紹介所・職業紹介サイト（派遣も含む）

	件数	%
合計	500	100.0
活用あり	49	9.8
活用なし	384	76.8
無回答	67	13.4

問39－ 4．活用希望／有料職業紹介所・職業紹介サイト（派遣も含む）

	件数	%
合計	500	100.0
希望あり	104	20.8
希望なし	193	38.6
わからない	129	25.8
無回答	74	14.8

問39－ 5．活用状況／診療所ホームページ等による求人に関するページ

	件数	%
合計	500	100.0
活用あり	109	21.8
活用なし	331	66.2
無回答	60	12.0

問39－ 5．活用希望／診療所ホームページ等による求人に関するページ

	件数	%
合計	500	100.0
希望あり	235	47.0
希望なし	90	18.0
わからない	97	19.4
無回答	78	15.6

問39－ 6．活用状況／知人・友人等の紹介

	件数	%
合計	500	100.0
活用あり	223	44.6
活用なし	227	45.4
無回答	50	10.0

問39－ 6．活用希望／知人・友人等の紹介

	件数	%
合計	500	100.0
希望あり	298	59.6
希望なし	63	12.6
わからない	74	14.8
無回答	65	13.0

調査票

〔潜在助産師・退職助産師の就業意向調査〕

【あなたご自身やご家族についておたずねします】

以下の質問に対して、あてはまるものに○や数字等を入れてください。

【問1】都道府県所在地 () 都・道・府・県

【問2】年齢 () 歳

【問3】現在の生活における収入源は誰ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 自分 2. 夫や家族 3. 自分と夫や家族

※上記「問3」で回答番号「2, 3」を選択した方におたずねします。回答番号「1」を選択した方は「問5」におすすみください。

【問4】現在の生活状況についてあてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 自分が働かなくても経済的に余裕がある
2. 自分が働かなくても経済的にやっていけるが余裕はない
3. 自分が働かないと経済的にやっていけない

【問5】子どもの有無

1. あり 【人数 () 人 末子年齢 満 () 歳】

問5. 1) 昼間や夜間に子どもの世話をしてくれる家族や保育者等の有無

- 1) あり 2) なし

問5. 2) 保育所等の利用の有無

- 1) あり 2) なし

問5. 3) 子どもの世話をしてもらえる頻度

〔日数〕

- 1) 毎日 2) 週に5～6日 3) 週に3～4日 4) 週に1～2日

〔時間帯〕

- 1) 夜間を含めいつでも可 2) 昼間ならいつでも可 3) 昼間のみ半日程度なら可
4) その他 ()

2. なし

【問6】あなたが介護をしている家族等はいいますか。

1. いる 2. いない

【問7】あなたがお持ちの資格すべてに○をつけてください。

1. 助産師 2. 保健師 3. 看護師
4. その他 ()

【問8】助産師免許を取得するための基礎教育はどこで受けましたか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 看護系大学 2. 看護系短大専攻科 3. 助産師養成所

【問9】助産師免許取得年はいつですか。あてはまる番号に○をつけ、取得年をご記入ください。

1. 昭和 () 年 2. 平成 () 年

【問10】助産師になってから現在までの総分娩介助件数 約 () 件

【問11】あなたがこれまでに助産師として経験した業務すべてに○をつけてください。

- | | | | |
|-----------------------|--------------------|-----------------|-------------|
| 1. 妊婦の診察 | 2. 妊婦の保健指導 | 3. 産婦の診察 | 4. 分娩助 |
| 5. 褥婦の観察 | 6. 褥婦の保健指導 | 7. 1ヶ月健診 | 8. 母乳保育への指導 |
| 9. 新生児の観察とケア | 10. 乳房管理 | 11. 退院後の訪問指導 | |
| 12. 育児相談 | 13. 学級活動(両親・母親・育児) | 14. ハイリスク妊産婦のケア | |
| 15. ハイリスク新生児のケア(NICU) | 16. 婦人科業務 | 17. 不妊相談 | |
| 18. 中高年相談 | 19. 家族計画指導 | | |
| 20. その他(| | |) |

【問12】あなたの居住地の近く(車などで30分以内)に分娩を取り扱っている産科診療所はありますか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

- | | | |
|-------|-------|----------|
| 1. ある | 2. ない | 3. わからない |
|-------|-------|----------|

【職歴についておたずねします】

【問13】あなたが助産師として働いた通算経験年数はどれくらいですか。助産師として働いた経験がない方は「(0)年(0)ヶ月」とご記入ください。
()年 ()ヶ月

【問14】現在離職中ですか。

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

※上記【問14】で回答番号「1」を選択した方は以下の質問にお答えください。また、回答番号「2」を選択し助産師として働いた経験のある方は【問18】へ、働いた経験のない方は【問19】におすすみください。

【問15】前回の職場を退職してからの離職期間はどれくらいですか。
()年 ()ヶ月

【問16】退職前に働いていた職場はどのような施設ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- | | | | | |
|---------|--------|--------|---------|-----------|
| 1. 病院 | 2. 診療所 | 3. 助産所 | 4. 行政機関 | 5. 看護教育機関 |
| 6. その他(| | | |) |

【問17】前回の職場を退職した理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | | | | |
|-------------------------------|-----------------------------|--------------------|----------|-----------|
| 1. 結婚 | 2. 出産・育児 | 3. 家族の健康・介護 | 4. 自分の健康 | 5. 定年 |
| 6. 転居 | 7. 進学 | 8. 留学 | 9. 夫の転勤 | 10. 給与が安い |
| 11. 施設の閉鎖等による雇用者側の都合 | 12. 雇用形態への不満 | 13. 勤務時間が長い・残業が多い | | |
| 14. 休暇が取れない | 15. 夜勤負担が大きい | 16. 通勤時間がかかる | | |
| 17. 業務負担が大きい | 18. 同僚との関係が悪い | 19. 上司や雇用者との関係が悪い | | |
| 20. 分娩を扱っていないため助産師としての業務ができない | 21. 経営理念(看護理念)や方針に不満 | | | |
| 22. 自立性や専門性が認められないなど業務内容に不満 | 23. 仕事への興味ややりがいがない | | | |
| 24. 自分の適性への不安 | 25. 技術が磨けないなどのキャリアアップの機会がない | | | |
| 26. 責任の重さや医療事故への不安 | 27. 他の職場への興味 | 28. 医療のIT化についていけない | | |
| 29. その他(| | | |) |

※助産師として働いた経験のある方におたずねします。経験のない方は「問19」におすすみください。

【問18】助産師として働くようになってから、看護師など他の職種で働いた経験がありますか。

1. ある 2. ない →【問19】におすすみください。

問18. 1) 助産師として働けなかった理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | | |
|-----------------------------------|--------------------------------|---------------|
| 1) 助産師として働ける職場がなかった(助産師の採用枠がなかった) | | |
| 2) 施設の閉鎖等による雇用者側の都合 | 3) 助産師としての業務内容に不満 | 4) 給与が安い |
| 5) 休暇が取れない | 6) 勤務時間が長い・残業が多い | 7) 当直・夜勤ができない |
| 8) 職場の雰囲気や人間関係が悪い | 9) 育児や介護等自分の生活に合わせた柔軟な働き方ができない | |
| 10) 助産師という仕事が嫌になった | 11) 助産師として働く自信がなくなった | |
| 12) その他(| |) |

【問19】今までに職場を変った経験はありますか。

1. ある

2. ない

→現在就業中の方は【問20】におすすみください。

現在未就業の方は【問25】におすすみください。

問19. 1) 職場を変った回数は合計何回ですか。 () 回

問19. 2) あなたが今までに働いたことのある職場は、どのような施設ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | | | | |
|-----------|--------|--------|---------|-----------|
| 1) 病院 | 2) 診療所 | 3) 助産所 | 4) 行政機関 | 5) 看護教育機関 |
| 6) その他() | | | | |

※現在就業中の方におたずねします。未就業の方は【問25】におすすみください。

【問20】あなたが現在働いている職場はどのような施設ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- | | | | | |
|-----------|--------|--------|---------|-----------|
| 1. 病院 | 2. 診療所 | 3. 助産所 | 4. 行政機関 | 5. 看護教育機関 |
| 6. その他() | | | | |

【問21】現在の勤務形態は何ですか。

- | | |
|-------|------------------------|
| 1. 常勤 | 2. 非常勤(嘱託・パートアルバイトを含む) |
|-------|------------------------|

【問22】あなたが現在の職場に就職して2005年12月時点で勤続何年何ヶ月になりますか。

() 年 () ヶ月

【問23】あなたは現在の職場でどのような業務に携わっていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | |
|--------------------------------|--------------------------|
| 1. 病院・診療所における分娩助産や妊産婦ケア(病棟、外来) | 2. 学級活動(両親・母親・育児)等での教育指導 |
| 3. 母子中心の家庭訪問 | 4. NICU看護 |
| 5. 産科病棟・NICU以外の医療機関の看護 | 6. 医療機関以外の施設や訪問看護など |
| 7. 助産所の運営・管理(開業) | |
| 8. その他() | |

※上記【問23】の回答のなかで、助産師として業務に全く携わっていない方におたずねします。

現在就業中で、助産師としての業務に携わっている方は「問24」におすすみください。

問23. 1) 分娩助産等、助産師として携われる業務につきたいと思いますか。

あてはまるもの1つに○をつけてください。

- | | | |
|-------|---------|--------------|
| 1) 思う | 2) 思わない | 3) どちらともいえない |
|-------|---------|--------------|

【問24】現在の職場を選んだ理由についてあてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | | |
|---|-----------------|----------------------|
| 1. 業務内容に満足している | 2. 通勤の便がよい | 3. 施設の運営・経営理念があっている |
| 4. 納得のできる看護ができる | 5. 日勤のみの勤務である | 6. 給与水準が高い |
| 7. 職場の雰囲気がい | 8. 職場の人間関係がよい | 9. 教育・研究体制がしっかりしている |
| 10. 周囲に適した職場がない | 11. 休暇制度が充実している | 12. 業務の責任体制がしっかりしている |
| 13. 医療事故・傷害事故対策がしっかりしている | 14. 管理者などの人柄がよい | |
| 15. 託児所があり子どもをあずけて働ける | | |
| 16. 育児休暇や時差出勤などの体制が整っており、子育てと仕事の両立がしやすい | | |
| 17. 特になし | | |
| 18. その他() | | |

【産科診療所に対するイメージや、産科診療所で期待される助産師の能力についておたずねします】

【問25】あなたが抱く産科診療所に対するイメージにはどのようなものがありますか。あてはまるところに○をつけてください。

	1 とてもそう 思う	2 まあそう 思う	3 あまりそう 思わない	4 全くそう 思わない
1) 外来から入退院まで一連のケアが継続して行える	1	2	3	4
2) 助産技術を修得し自立して助産業務を行うことができる	1	2	3	4
3) 妊産婦の生活に応じたケアができる	1	2	3	4
4) 妊婦さんに接する時間がゆっくりとれる	1	2	3	4
5) 期待できる給料がもらえない	1	2	3	4
6) 残業が多い	1	2	3	4
7) 休暇がとりにくい	1	2	3	4
8) 夜勤が多い	1	2	3	4
9) 妊産婦へのメンタルケアが充実している	1	2	3	4
10) 母児へのきめ細かな対応ができる	1	2	3	4
11) 分娩介助等の業務に主体的に取り組める	1	2	3	4
12) より自然な出産に関われる	1	2	3	4
13) 責任が重い	1	2	3	4
14) 先輩・同僚からの指導が受けられない	1	2	3	4
15) 研修等に参加できない	1	2	3	4
16) カンファレンスの場がもてない	1	2	3	4
17) 助産師業務以外の仕事業務が多い	1	2	3	4
18) 母乳育児の支援が充実する	1	2	3	4
19) 助産師としてのスキルが磨ける	1	2	3	4
20) 分娩時のオンコール体制がある	1	2	3	4
21) 医師(経営者)との人間関係が難しい	1	2	3	4
22) 助産師以外の他職種との人間関係が難しい	1	2	3	4

【問26】産科診療所で期待される助産師の能力はどのようなものがあると考えますか。あてはまるところに○をつけてください。

	1 とてもそう 思う	2 まあそう 思う	3 あまりそう 思わない	4 全くそう 思わない
1) 正常分娩の介助が1人でできる	1	2	3	4
2) 妊婦の健康診査と経過診断・保健指導ができる	1	2	3	4
3) 外診や内診ができる	1	2	3	4
4) 分娩監視装置の装着と判読ができる	1	2	3	4
5) 妊娠期・分娩期の異常の判断やその援助ができる	1	2	3	4
6) 正常新生児の健診と保健指導ができる	1	2	3	4
7) 新生児の観察により正常と異常の判断ができる	1	2	3	4
8) 正常褥婦への健康診査と経過診断・保健指導ができる	1	2	3	4
9) 育児指導(母乳育児指導、沐浴、育児法等)ができる	1	2	3	4
10) 乳房管理ができる	1	2	3	4
11) リスクマネジメントに対する知識と判断力がある	1	2	3	4
12) 医師(経営者)との人間関係を円滑に保つことができる	1	2	3	4
13) 同僚との人間関係を円滑に保つことができる	1	2	3	4
14) 地域の住民と信頼関係を築くことができる	1	2	3	4
15) 産科診療所の経営に理解がある	1	2	3	4
16) 妊産婦や地域住民とのコミュニケーション能力がある	1	2	3	4
17) 妊産褥婦・新生児の状態を医師への確に伝えることができる	1	2	3	4

【産科診療所での就業意向と就業の際の希望条件についておうかがいします】

※現在、産科診療所で助産師として就業していない方におたずねします。産科診療所で助産師として就業している方は「問37」におすすみください。

【問27】あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- | | | | |
|-----------|---------------|------------|----------------|
| 1. 是非働きたい | 2. 選択肢として考えたい | 3. 気がすすまない | 4. 働く意向はまったくない |
|-----------|---------------|------------|----------------|

上記【問27】で回答番号「1, 2, 3」を選択した方は以下の質問にお答えください。
また、回答番号「4」を選択した方は、【問36】におすすみください。

【問28】働くとしたら、どのような勤務形態を希望しますか。

- | | |
|-------|------------------------|
| 1. 常勤 | 2. 非常勤(嘱託・パートアルバイトを含む) |
|-------|------------------------|

上記「問28」で回答した勤務形態で働く場合の希望条件をおたずねします。

【問29】勤務日数についてあてはまるもの1つに○をつけてください。

- | | | |
|-----------|------------|------------|
| 1. 週に5日程度 | 2. 週3～4日程度 | 3. 週1～2日程度 |
| 4. その他() | | |

【問30】1日の勤務時間についてあてはまるもの1つに○をつけてください(休憩時間を除いてお答えください)。

- | | | |
|-----------|----------|----------|
| 1. 7～8時間 | 2. 5～6時間 | 3. 3～4時間 |
| 4. その他() | | |

【問31】希望する勤務体制について、あてはまるもの1つに○をつけてください。回答番号「6」を選択した方は()内に希望回数もご記入ください。

- | | | |
|--------------------|-------------------|-------------------|
| 1. 日勤のみ | 2. 月1～2回程度の夜勤なら可能 | 3. 月3～5回程度の夜勤なら可能 |
| 4. 月6～8回程度の夜勤なら可能 | 5. 月9回以上の夜勤でも可能 | |
| 6. 夜勤のみでも可能→()回/月 | 7. オンコールなら可能 | |
| 8. その他() | | |

【問32】希望給与額(税込み総支給額)はいくらですか。回答可能な給与形態すべてをご記入ください。

- | | | | | | | | | |
|---|---|--|--|--|--|-----|--|-----|
| 1. 月給 | <table border="1"><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table> | | | | | | | 円以上 |
| | | | | | | | | |
| 2. 時給 | <table border="1"><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table> | | | | | 円以上 | | |
| | | | | | | | | |
| 3. 日給(昼間8時間勤務) | <table border="1"><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table> | | | | | | | 円以上 |
| | | | | | | | | |
| 4. 夜勤当直(夕方17時から翌朝9時) | <table border="1"><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table> | | | | | | | 円以上 |
| | | | | | | | | |
| 5. 分娩オンコール1件につき(産婦の陣痛発来入院から分娩後2時間までの 概ね15時間程度の拘束) | <table border="1"><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table> | | | | | | | 円以上 |
| | | | | | | | | |

【問33】あなたが産科診療所に就業する際、以下の条件をどれくらい希望しますか。あてはまるところに○をつけてください。

	1 とても希望 する	2 やや希望 する	3 あまり希望 しない	4 全く希望しな い
1) 託児所がある	1	2	3	4
2) 産前・産後の休暇が取れ、勤務のなかで授乳や子育ての時間がとれる	1	2	3	4
3) 子どもの病気や行事のときには休暇がとれる	1	2	3	4
4) 残業がなく夜勤ができなくても就業できる	1	2	3	4
5) 病院で働く場合とほぼ同額の給与が確保される	1	2	3	4
6) 助産師としての業務に集中できる	1	2	3	4
7) 複数の助産師がいる	1	2	3	4
8) 柔軟な勤務体制のなかで働くことができる	1	2	3	4
9) 院内における教育支援体制がある	1	2	3	4
10) 院外研修に出席できる	1	2	3	4
11) 同僚が助産師の活動に対して理解・支援してくれる	1	2	3	4
12) 分娩のないときは夜勤をせず、分娩があるときだけ当直で働く	1	2	3	4
13) 医師(経営者)が助産師の考え方に賛同してくれる	1	2	3	4

【問34】その他具体的な要望があればお書きください。

【問35】就労希望時期はいつごろですか。あてはまるところに○をつけてください。回答番号「2, 3」を選択した方は()内に就労希望時期もご記入ください。

1. すぐにでも働きたい
 2. 約何ヶ月後に働きたい ()ヵ月後
 3. 約何年後に働きたい ()年後
 4. わからない

※産科診療所で働く意向がない方へおたずねします。就業の意向がある方は【問37】におすすみください。

【問36】産科診療所での就業を希望しない理由としてあてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 希望する給与がもらえないと思う 3. 夜勤はできない 5. 予定外の残業がある 7. 技術指導が受けられないと思う 9. 研修会等に参加できないと思う 11. 体力的な負担が重いと思う 13. 現在就業中であり、今の職場で満足している 15. その他() | <ol style="list-style-type: none"> 2. 残業が多く休暇が取れないと思う 4. 保険や社宅などの福利厚生が整っていないと思う 6. 助産師業務以外の多くの雑務をやらなければならないと思う 8. 医師や古くから務めている職員とうまくやっていく自信がない 10. 子どもが生まれると預けるところがなく働けないと思う 12. 少ない人数のなかで働くので責任が重く自信がない 14. 産科診療所に限らず今は働く意志がない |
|--|--|

【研修への参加希望の有無と求職活動についておたずねします】

【問37】助産師としての、スキルアップ研修などの研修が開催される場合、参加を希望しますか。

1. 参加したい 2. 参加したくない 3. わからない

※【問37】で回答番号「2, 3」を選択した方は「問38」へおすすみください。

問37.1) 研修で受けた内容は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | | |
|--------------------------------------|-------------------|---------------|
| 1) 分娩介助等の実技演習 | 2) 最近の産科管理 | 3) 母乳育児管理 |
| 4) 超音波分娩監視装置など最近の医療 | 5) 妊婦健康診査・標準的保健指導 | |
| 6) 妊・産・褥婦のケアと実際 | 7) 助産記録のあり方と実際 | 8) 産科救急の対処 |
| 9) アクティブバース・フリースタイル出産など様々な出産スタイルについて | | |
| 10) 産科の医療安全と事故防止 | 11) 子育て支援と虐待防止 | |
| 12) コミュニケーションスキル | 13) 助産師のキャリア開発 | 14) 新生児のケアと実際 |
| 15) その他() | | |

【問38】近年、人材サービス会社等ではキャリアカウンセラー（個人の興味、能力、価値観、その他特性をもとに、個人にとって望ましい職業選択を援助し、キャリア支援を行う専門職）による就業支援が重要視されています。もし、キャリアカウンセラーが身近にいる場合、就職活動に活用したいと思いますか。

- | | | |
|----------|---------------|----------|
| 1. 活用したい | 2. 活用しようと思わない | 3. わからない |
|----------|---------------|----------|

【問39】求職活動を行う際に以下の方法を活用したことがありますか。また今後活用したいと思いますか。

「活用状況」と「活用希望の有無」の双方の項目について、それぞれあてはまるところに○をつけてください。

1) 新聞・雑誌等の求人広告	活用状況: 1) 活用あり 2) 活用なし 活用希望: 1) 希望あり 2) 希望なし 3) わからない
2) ナースセンター(e-ナースセンター※も含む)	活用状況: 1) 活用あり 2) 活用なし 活用希望: 1) 希望あり 2) 希望なし 3) わからない
3) ハローワーク	活用状況: 1) 活用あり 2) 活用なし 活用希望: 1) 希望あり 2) 希望なし 3) わからない
4) 有料職業紹介所・職業紹介サイト (派遣も含む)	活用状況: 1) 活用あり 2) 活用なし 活用希望: 1) 希望あり 2) 希望なし 3) わからない
5) 診療所ホームページ等による求人に関するページ	活用状況: 1) 活用あり 2) 活用なし 活用希望: 1) 希望あり 2) 希望なし 3) わからない
6) 知人・友人等の紹介	活用状況: 1) 活用あり 2) 活用なし 活用希望: 1) 希望あり 2) 希望なし 3) わからない

※e-ナースセンターとは、日本看護協会中央ナースセンターが運営しているインターネット求人・求職支援サイト

質問は以上です。お疲れさまでした。

ご面倒ですが最後にもう一度記入漏れがないかどうかご確認ください。

長い時間のご協力ありがとうございました。

平成 17 年度厚生労働省看護職員確保対策特別事業
産科医療機関等の助産師確保促進事業 報告書

平成 18 年 3 月発行

発行者 社団法人 日本看護協会
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-8-2
電 話 03-5778-8831 (代)
ホームページ <http://www.nurse.or.jp>

問い合わせ先 社団法人 日本看護協会 中央ナースセンター事業部
電 話 03-5778-8561
ホームページ <http://www.nurse-center.net/>
